

名古屋大学における  
男女共同参画報告書  
2011年度

2011

2012.3

名古屋大学

男女共同参画推進専門委員会  
男女共同参画室





# 目次

ページ

はじめに	1
第1章 2012年度男女共同参画推進重点項目	3
第2章 2011年度男女共同参画推進重点項目および活動報告	
第1節 1. 2011年度男女共同参画推進重点項目および活動報告	5
2. 2011（平成23）年度男女共同参画推進専門委員会、男女共同参画室会議 および名古屋大学における男女共同参画の動き	7
3. 2011（平成23）年度男女共同参画室の社会連携活動	10
第2節 ワーキンググループの活動	
1. 育児支援策検討ワーキンググループ	
こすもす保育園運営協議会報告	14
あすなる保育園運営協議会報告	17
学童保育所（ポピンズアフタースクール）検討委員会報告	19
2. 女子学生支援策検討ワーキンググループ	20
3. 学部学生向けジェンダー関連授業検討ワーキンググループ	22
4. 女性研究者増員策検討ワーキンググループ	24
5. 病児保育検討ワーキンググループ	25
6. メンター検討ワーキンググループ	27
第3節 理系女子育成・支援に関する取組	
1. 若手女性研究者サイエンスフォーラム、女子中高生理系進学推進セミナー	28
2. 理系女子学生コミュニティあかりんご隊活動報告	35
第4節 学内外における男女共同参画ネットワークの構築	
1. 地域ネットワーク	47
2. 大学間ネットワーク	49
第5節 あいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラム	
1. 「イクメンについて考える ～男女が共に働き続けるために～」	50
第3章 科学技術人材育成費補助金「女性研究者養成システム改革加速」事業	
1. 新規女性研究者の採用計画	56
2. 女性研究者養成・支援に関する取組	
メンター制度によるキャリア支援	62
キャリアアップ・スキルアップ支援	66
IT技術を用いた両立支援	71
第4章 2011年度女性教員増員のための部局アンケート結果	74
第5章 統計資料	84
2011年度名古屋大学男女共同参画推進体制	98
奥付	99

# はじめに

理事 藤井良一

名古屋大学は、2003年1月に「男女共同参画室」を創設し、同年4月には部局長により構成される「男女共同参画推進委員会」のもと、「男女共同参画推進専門委員会」を設置し、男女共同参画を推進する組織的な充実をはかってきた。男女共同参画室は毎年度「男女共同参画推進重点項目」に沿った企画を立案し、同専門委員会と連携してその実現に努め、大きな成果をあげてきている。

1999年6月に施行された男女共同参画社会基本法は、男女共同参画社会の実現を「21世紀の最重要課題」として位置づけ、性別による偏りのない社会システムの構築をめざすものである。本学はいち早く男女共同参画推進に取り組み、2001年から2002年にかけての評議会で、「名古屋大学における男女共同参画を推進するための提言」を決定し、「名古屋大学運営の基本姿勢」においても男女共同参画を本学の重要な事業と位置づけている。

さらに本学は、我が国を代表する高等教育研究機関として、広く社会に対して知的貢献を果たす責務を負うとの自覚から、2004年に「あいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラム」を結成し、地域における男女共同参画推進の活動に取り組むとともに、研究機関との連携および情報交換にも努めている。

こうした精力的な活動の結果として、本学における男女共同参画の取組は、理念や提言の段階を経て、具体的な施策の企画・立案・実施の段階へと移行しつつある。その具現化として、2007年には、文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業に「発展型女性研究者支援名大モデル」が、2010年度には、文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者養成システム改革加速」事業に「名古屋大学方式 女性研究者採用加速・育成プログラム」が、それぞれ採択された。

「発展型女性研究者支援名大モデル」事業は、経費上は2010年3月をもって終了したが、以降も自主経費により発展的に継続中である。ワークライフバランスの積極的推進に関しては、2012年1月に、鶴舞地区「あすなる保育園」の定員をそれまでの40名から80名に増員し、0歳～1歳児を中心とする待機児童の受け入れに努めるとともに、東山地区「こすもす保育園」においても、保育園を一部改修し、隔離室の確保と室内整備を行い、あわせて病児保育検討ワーキングによる調査結果をもとに、病（後）児保育の拡充策を検討している。

大学内学童保育所「ポピンズアフタースクール」も順調に児童数を増やし、育児と仕事の両立において立ちはだかる「小1の壁」を越える解決策となる一方、学内構成員はもとより、退職教員や地域の協力を得ながら、多彩な教育プログラムを提供する「産学連携型教育施設」として、2009年7月の開所以来現在に至るまで、全国から多くの注目を集め、その波及効果が期待されている。

2011年10月には、あいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラム（会員：愛知県・名古屋市・愛知県経営者協会・名古屋大学）共催企画として、シンポジウム「イクメンについて考える～男女が共に働き続けるために～」を開催し、中部地域が有する物的人的資源の現状と、将来への展望を示しつつ、産学官連携による仕事と子育ての両立支援策について意見交換を行った。

理系女子学生・院生の育成・支援に関しては、11月に、女子中高生を対象とした「女子中高生理系進学推進セミナー」を「若手女性研究者サイエンスフォーラム」と同時開催し、第一線で活躍する学内外の女性研究者の講演と、女子学生・女性若手研究者による学術ポスターセッションを企画し、優秀者には総長賞を授与することで、女性研究者の学術的交流を支援するとともに、理系女性研究者のロールモデルを提示した。

事業期間中に結成された理系女子学生有志グループあかりんご隊の活動に関しては、オープンキャンパスや第3回あいち科学技術教育推進協議会発表会「科学三昧 in あいち2011」での高校生向け進路相談、あるいは、学内ではホームカミングデイ、こすもす保育園、「世界化学年2011特別企画マリー・キュリーポスター展」、学外では名古屋市科学館「青少年のための科学の祭典2011名古屋大会」などでの科学実験を支援した。科学実験については、演目の選定、備品購入、予備実験など様々な段階で技術職員の協力を得ることができ、あかりんご隊の成長を見守る立場として、技術職員と参画室の協力関係も築くことができた。

全学の研究者（教員・院生・研究員、男女不問）に向けには、スキルアップ支援として、2009年度より男女共同参

画室主催の「マインドマップ講習会」を月1回のペースで開催している。受講者はすでに250名を超え、全研究科はもとより、研究所や運営支援組織からも参加可能な全学的講習会として認知されつつある。

理系女性研究者の増員策については、2009年度より実施中の「発展型ポジティブ・アクションプロジェクト」により、すでに3名の女性教員を採用する一方、「名古屋大学方式 女性研究者採用加速・育成プログラム」事業が採択されたことで、より積極的な全学的取組の段階へと進んでいる。

「名古屋大学方式 女性研究者採用加速・育成プログラム」の主たる目的は、研究リーダーとして独立して研究グループを率いることのできる真に優秀な研究者（Principal Investigator：PI）を採用するために、全学流用定員を利用した「女性PI枠」を設置し、理・工・農学系による合同国際公募を実施するとともに、若手もふくめた理・工・農学系女性研究者を、総計29名新規採用することである。

女性PI公募については、2010年度に実施した国際公募（応募者約50名）により、2011年度に理学研究科に教授1名を採用し、続く第2回の募集を終えた現在、新規採用者を選考中である。若手女性研究者についても、採用目標の達成に向けて関連部局と連携を図るとともに、さらなる採用促進策として、2012年1月より「女性教員採用インセンティブ施策」を導入した。

新規採用後には、世界を舞台に活躍しうる優れた女性研究者となれるように、高等教育研究センターとの連携による女性研究者メンタープログラムの実施、理農工学系分野の既在籍女性研究者に向けての国際学会参加費の助成、人文系もふくめた既在籍女性研究者向け学術雑誌投稿論文の英文校閲費の助成もあわせて行っている。本学のこれらの取組は、真に優秀な「女性研究者リーダー（PI）」の発掘・採用・養成を具体化するシステムのモデルを提示するものであり、他機関への先導的な役割を果たすことをめざすものである。

以上の詳細について、ぜひ本報告書を一読いただき、優秀な女性研究者に活躍の場を提供し、男女がともにその能力を十二分に発揮できる職場環境作りをめざす本学の男女共同参画事業に、率直なご意見とご批判をいただければ幸いである。

# 第1章

## 2012年度男女共同参画推進重点項目

本学は、「名古屋大学における男女共同参画を推進するための提言」を全国の国立大学に先駆けて2000年度に学内外に公表し、男女共同参画推進専門委員会および男女共同参画室を中心に、この提言を基礎とした男女共同参画推進のための活動を展開している。この提言の具体化をはかるため、年度ごとに重点項目を設定しており、2012年度はこれまでの活動成果を基盤とし、男女共同参画をさらに推進することを目指して、以下の重点項目を中心に活動する。

また、増加する外国人教員、外国人留学生に向けたホームページ等の英文化を含め、本学の男女共同参画に関する情報を積極的に発信する。

### 1. 文部科学省科学技術人材育成費補助金「名古屋大学方式 女性研究者採用加速・育成プログラム」の実施

本学は、2010年度に、科学技術人材育成費補助金「女性研究者採用加速・育成プログラム」の実施機関に採択された。同プログラムにおいて、学内の諸部門と連携、調整を図りつつ、女性リーダー（PI：教授および准教授）専用ポスト、若手女性研究者（助教）専用ポストの設置による理工農学系分野での優秀な女性研究者の国内外からの応募促進、採用加速のためのプログラムを引き続き実施する。特に、2012年度は同プログラムの中間評価が行われるため、理工農学系分野における女性研究者の新規採用促進にこれまで以上に力を注ぐ。加えて、新規採用者および既存の女性研究者支援のための環境整備事業の企画立案と実施、高等教育研究センターとの連携による新規採用者向けメンタープログラムの充実を目指す。

### 2. 男女共同参画のさらなる推進のための調査研究の実施

男女共同参画推進活動をさらに推進し、より有効な施策を立案・実施するための調査研究を実施する。第一に、本学におけるこれまでの男女共同参画推進活動の影響・効果の分析を行い、今後の活動の改善や拡充に生かす。第二に、本学での男女共同参画に関する実態や要望、問題点を把握するため、全学の教員、非常勤研究員、博士後期課程の学生等を対象にした大規模アンケートを行い、本学の男女共同参画推進活動の改善を行うとともに、介護や女性研究者キャリア開発支援等の新規事業の検討を行う。第三に、諸外国における男女共同参画社会への社会変容に至る制度・社会的過程と男女平等に関する社会的風土や合意形成の成り立ちを調査する。

### 3. ワークライフバランスの積極的推進

安心して仕事と育児、介護、家庭との両立ができるよう、支援事業の充実を図る。子育て支援事業に関しては、こすもす保育園（東山地区）とあすなろ保育園（鶴舞地区）との連携を強化し、病児保育検討ワーキング・グループによる調査結果をもとに、両園の立地条件と利用者のニーズに見合った病後児保育の拡充と、病児保育の実施に向けた検討を行う。また、各部局に設置された男女共同参画に関する委員会やワーキング・グループ等と連携し、女性休養室および授乳室の拡大を図る。介護支援に関しては、学内構成員を対象とした介護の実態とニーズに関する調査を実施し、その結果をもとに具体的な支援策を検討する。

### 4. 理系女子学生・院生の育成・支援

学内外の関連する組織と連携を図り、理系若手女性研究者、理系女子学生による「若手女性研究者サイエンスフォーラム」、愛知県近隣的女子中高生を対象とした「女子中高生理系進学推進セミナー」のさらなる充実を目指す。女子学生・院生コミュニティである「あかりんご隊」は、エンカレッジ交流会、理系進学相談、科学実験等の活動を支援するとともに、キャリア形成のための情報提供を積極的に行う。

## 5. 学内外連携による男女共同参画の推進

男女共同参画の推進を目指し、情報の共有・蓄積や有効な施策検討・実現に向けて、学内外の連携をさらに強化する。学内に関しては、男女共同参画に関する委員会が未設置の部局に対し、その設置を働きかけるとともに、全体会議を開催するなど、連携協力体制を強化する。学外に関しては、「あいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラム」（愛知県・名古屋市・愛知県経営者協会・名古屋大学）の活動を充実させる。

## 第2章

# 2011年度男女共同参画推進重点項目および活動報告

### 第1節

#### 1. 2011年度男女共同参画推進重点項目および活動報告

##### 1. はじめに

名古屋大学では、「男女共同参画」の推進を本学の重要課題とし、さまざまな活動を展開してきた。2001年3月に評議会で決定された「名古屋大学における男女共同参画を推進するための提言」では、2000年2月に制定した名古屋大学の理念ともいふべき「名古屋大学学術憲章」を引用し、「とりわけ、学問の府としての本学が、今後学術文化の向上や教育研究の高度化に積極的に貢献するためには、これまでの男性中心的な社会通念や価値観にとらわれることなく、男女両性がそれぞれ専有する感性や正義感をお互いに尊重し更に学問研究や教育現場において男女の特性をいかんなく発揮させる環境と条件を早急に整備する必要がある。また、この男女共同参画による教育研究の実践こそが、21世紀における本学の命運を決定するといっても過言ではなく、この使命を果たすためにも、男女が対等に構成員として、自らの意志によってあらゆる活動に参画する機会を確保し、かつ共に責任を担う、男女共同参画の形成に資する施策を実施することが本学の最重要課題と位置付けられる。」と、名古屋大学における男女共同参画推進の意義と精神を謳い上げている。

こうした精神に基づき、男女共同参画推進専門委員会および男女共同参画室との協同により、2011年度は、4つの男女共同参画推進重点項目を中心に活動を展開した。以下に、その概要と達成度について報告する。

##### (1) 文部科学省科学技術人材育成費補助金「名古屋大学方式 女性研究者採用加速・育成プログラム」の実施

2010年度科学技術振興調整費「女性研究者養成システム改革加速」に採択された「名古屋大学方式女性研究者採用加速・養成プログラム」2年目にあたる本年も、昨年度に引き続き、学内の諸機関と連携、調整を図りつつ、女性リーダー（PI）専用ポスト、若手女性研究者専用ポストの設置による理農工学系分野での優秀な女性研究者の応募促進、採用加速のためのプログラムを実施した。

PI公募については、2011年度の国際公募への応募者約50名を対象とする選考の結果、理学研究科に教授1名を採用した。本年度も同公募には国内外から約20名の応募があり、高い関心を集めている。若手女性研究者増員策については、目標達成に向けて理農工系部局と連携を図っているが、さらなる採用促進策として、一般公募で女性教員を（助教）を採用した場合、直接の採用者に対してプラス1名の特任助教（3年間・性別不問）ポストを提供する「女性教員採用インセンティブ施策」を導入した。

高等教育研究センターとの連携による新規採用者をおもな対象としたメンタープログラム、理農工学系分野の既存籍女性研究者に向けての国際学会参加費および学術雑誌投稿論文の英文校閲費の助成も継続実施中である。詳細は第3章に掲載。

##### (2) ワークライフバランスの積極的推進

「発展型女性研究者支援名大モデル」の成果をもとに、安心して仕事と育児、介護、家庭との両立ができるよう、多様な勤務形態に対応できる支援制度のさらなる充実をめざした。

子育て支援事業に関しては、鶴舞地区のあすなろ保育園が、園舎を増築することで、2012年1月より定員をこれまでの40名から80名に増員し、0～1歳児を中心とする待機児童の受け入れに努めた。病（後）児保育についても、病児保育検討ワーキングを中心に、両園の立地条件および利用者のニーズに見合った病（後）児保育の充実策を調査

検討するとともに、東山地区のこすもす保育園を一部改修し、隔離室の確保と室内整備を行った。また、各部局へのはたらきかけにより、新築の理学研究科内に、女性休養室・授乳室が確保整備された。学童保育所については、教職員、学生、院生といった学内構成員だけでなく、元教職員や地域の協力を得ながらの教育プログラムの実施、拡充に協力した。

10月には、ワークライフバランスの積極的推進により、男女がともに働き続けられる社会を提案するものとして、あいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラムシンポジウム「イクメンについて考える～男女が共に働き続けるために～」を開催するとともに、仕事と子育ての両立支援のためのコミュニケーションシステムおよびITを用いた在宅勤務支援システムの継続的運用を行った。

子育て中の教職員を応援するアクションプラン（P.79参照）については、部局アンケート等を通して部局長への周知徹底を図ったものの、特別研究期間の積極的活用の提唱とともに、全教職員への周知徹底までには至らなかった。この点については、2012年度の課題である。詳細は第2章第2節、第5節、第3章に掲載。

### （3）女子学生・院生の育成・支援

「理系女子学生（学部生・大学院生）のためのエンカレッジ交流会」（12月）を開催し、濱口道成総長と、学内女性研究者によるパネルディスカッション「人と人とのつながり」において研究者ロールモデルの提案を企画するとともに、女子学生同士の交流を支援した。また、女子中高生を対象とした「女子中高生理系進学推進セミナー」を「若手女性研究者サイエンスフォーラム」と同時開催し（11月）、女性研究者の交流を支援するとともに、理系女性研究者のロールモデルを提示した。

理系女子学生コミュニティ「あかりんご隊」の活動については、オープンキャンパスや第3回あいち科学技術教育推進協議会発表会「科学三昧 in あいち2011」での高校生向け進路相談や、ホームカミングデーや学内保育所（こすもす保育園）、「世界化学年2011特別企画マリー・キュリーポスター展」、名古屋市科学館「科学の祭典2011名古屋大会」など学内外での理科実験を支援した。

文系・理系双方の女子学生育成に関しては、男女共同参画室開講の全学教養科目「女と男を科学する」において、生物学・文学・心理学・経済学といった多分野の研究成果を背景としたジェンダー論の授業を行うとともに、院生に向けても、同じく男女共同参画主催のマインドマップ講習会「マインドマップを仕事にいかす」により、スキルアップ支援を行った。詳細は、第2章第2節、第3節、第3章に掲載。

### （4）学内外連携による男女共同参画の推進

学内では、各部局にすでに設置されている男女共同参画委員会との連携強化策、および未設置部局への設置の徹底について検討は行ったものの、具体的な実行までには至らなかった。この点については2012年度の課題である。

学外との連携事業としては、あいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラム（会員：愛知県、名古屋市、愛知県経営者協会、名古屋大学）により、あいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラムシンポジウム「イクメンについて考える～男女が共に働き続けるために～」(10月)を開催するとともに、「大学教育改革フォーラム in 東海2012」で男女共同参画事業に関するポスター発表を行った。また、「女性研究者養成システム改革加速」プログラム実施大学を訪問し、女性研究者の採用加速策を中心とした情報の蓄積と共有を行った。詳細は第2章第3節、第4節に掲載。

### （5）学外からの評価

11月、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に採択された機関による投票の結果、本学男女共同参画室のホームページが「Webデザイン賞」に選ばれた。2月、男女共同参画室を拠点とし、高等教育研究センターとの連携により構築した本学の女性研究者養成のためのメンター制度が、ワーキングウーマン・パワーアップ会議・公益財団法人日本生産性本部主催「第4回メンター・アワード2012」を受賞した。3月、内閣府主催「第1回 女性の活躍促進プラン学生コンペティション」において、本選に出場したあかりんご隊の学部生3名が第2位に選ばれた。

## 2. 2011（平成23）年度男女共同参画推進専門委員会、男女共同参画室会議

### および名古屋大学における男女共同参画の動き

（○は審議事項 ・は報告事項）

日付	事項
23.04.12	第1回男女共同参画室会議
23.04.20	Talk&Panel discussion ゲストトーク「アメリカにおける女性教授への道」（講師：ワシントン大学生物学部 鳥居啓子教授） パネルディスカッション「リーダーに求められるもの」（パネリスト：ワシントン大学生物学部 鳥居啓子教授、名古屋大学理学研究科 森郁恵教授、名古屋大学理学研究科 小田洋一教授）（GCOE「システム生命科学の展開：生命機能の設計」、男女共同参画室 共催）
23.04.26	第39回男女共同参画推進専門委員会 ○2011年度男女共同参画推進重点項目及びワーキンググループの構成について ○名古屋大学方式女性研究者採用加速・育成プログラムについて ○平成22年度決算について ○女性PIの公募について ○国際学会参加費用助成事業について ○学術雑誌投稿論文の英文校閲費用助成事業について ○新規採用女性研究者向けメンターについて ○2011年度活動スケジュールについて ・名古屋大学における男女共同参画報告書2010年度 ・各種ワーキンググループからの報告事項について ・ひらめき☆ときめきサイエンス選定結果について ・こすもす保育園現況 ・あすなる保育園現況 ・学童保育所現況
23.05.13	マインドマップ講習会19（男女共同参画室准教授・ブザン公認マインドマップフェロー 榊原千鶴氏）
23.05.25	第2回男女共同参画室会議
23.06.17	第40回男女共同参画推進専門委員会 ○発展型ポジティブ・アクションプロジェクト（2012年）について ○若手女性研究者サイエンスフォーラム及び女子中高生理系進学推進セミナーの開催及び総長裁量経費について ○あいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラムの開催について ○病児保育について ○名古屋大学方式 女性研究者採用加速・育成プログラムの進捗状況及び第2回国際学会等参加費用助成事業について ○来年度以降における女性PIの募集について ○寄付金の受入れについて ○育児支援策検討ワーキンググループのメンバーの変更について ・平成23年度男女共同参画年間スケジュールについて ・総長裁量経費について ・各種ワーキンググループからの報告事項について ・こすもす保育園現況 ・あすなる保育園現況 ・学童保育所現況
23.06.21	第3回男女共同参画室会議
23.06.29	マインドマップ講習会20（男女共同参画室准教授・ブザン公認マインドマップフェロー 榊原千鶴氏）
23.07.01	出張科学実験会@学内学童保育所 あかりんご隊参加
23.07.21 ～08.31	世界化学年2011特別企画 マリー・キュリーポスター展 （主催：名古屋大学物質科学国際研究センター、フランス キュリー博物館・キュリー研究所 共催：名古屋大学理学部化学科、グローバルCOE化学、男女共同参画室）
23.07.25	マインドマップ講習会21（男女共同参画室准教授・ブザン公認マインドマップフェロー 榊原千鶴氏）
23.07.27	世界化学年2011特別企画 夏休み子供化学実験ショー（マリー・キュリーポスター展の一環として開催）あかりんご隊参加
23.07.29	第4回男女共同参画室会議

日付	事項
23.08.09 ～08.11	名古屋大学オープンキャンパス2011 女子学生相談コーナーinオープンキャンパス あかりんご隊参加
23.08.24	世界化学年2011特別企画 夏休み子供化学実験ショー（マリー・キュリーポスター展の一環として開催） あかりんご隊参加
23.09.06	第5回男女共同参画室会議
23.09.28	マインドマップ講習会22（男女共同参画室准教授・ブザン公認マインドマップフェロー 榊原千鶴氏）
23.10.01 ～10.02	「青少年のための科学の祭典2011名古屋大会@名古屋市科学館」あかりんご隊参加
23.10.15	第7回名古屋大学ホームカミングデイ 体験企画「名古屋大学理系女子コミュニティ あかりんご隊『化学実験を体験しよう☆』」あかりんご隊参加
23.10.19	あいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラムシンポジウム 「イクメンについて考える～男女が共に働き続けるために～」開催（あいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラム主催）
23.11.10	第6回男女共同参画室会議
23.11.11	マインドマップ講習会23（男女共同参画室准教授・ブザン公認マインドマップフェロー 榊原千鶴氏）
23.11.15	第41回男女共同参画推進専門委員会 <ul style="list-style-type: none"> <li>○2011年度男女共同参画部局アンケートについて</li> <li>○男女共同参画報告書（2011年度）の役割分担について</li> <li>○2012年度男女共同参画推進重点項目</li> <li>○名古屋大学方式 女性研究者採用加速・育成プログラムの進捗状況及び第4回国際学会等参加費用助成事業について</li> <li>○病（後）児保育について</li> <li>○病児保育検討ワーキンググループのメンバーの変更について</li> <li>・平成24年度女性PIの募集について</li> <li>・「名古屋大学方式 女性研究者採用加速・育成プログラム」における理系女性研究者への支援</li> <li>・あいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラムについて</li> <li>・若手女性研究者サイエンスフォーラム及び女子中高生理系進学推進セミナーの開催</li> <li>・「女性の活躍推進宣言コーナー」への宣言について</li> <li>・「第9回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム」及び「平成23年度女性研究者研究活動支援事業合同公開シンポジウム」について</li> <li>・各種ワーキンググループからの報告事項について</li> <li>・こすもす保育園現況</li> <li>・あすなる保育園現況</li> <li>・学童保育所現況</li> </ul>
23.11.26	名古屋大学若手女性研究者サイエンスフォーラムと女子中高生理系進学推進セミナーを同時開催
23.12.15	「～名大リケジョによるTalk Night～理系女子エンカレッジ交流会」開催 あかりんご隊参加
23.12.22	第7回男女共同参画室会議
23.12.27	マインドマップ講習会24（男女共同参画室准教授・ブザン公認マインドマップフェロー 榊原千鶴氏）
24.01.13	第42回男女共同参画推進専門委員会 <ul style="list-style-type: none"> <li>○2012年男女共同参画重点項目について</li> <li>○男女共同参画報告書（2011年度）の冊数について</li> <li>○名古屋大学方式 女性研究者採用加速・育成プログラムの進捗状況</li> <li>○名古屋大学男女共同参画推進専門委員会細則の一部改正について</li> <li>○男女共同参画推進専門委員会ワーキンググループ委員の追加について</li> <li>○男女共同参画推進専門委員会委員の追加について</li> <li>○男女共同参画室長の推薦について</li> <li>・女性PIプロジェクトについて</li> <li>・女性教員採用インセンティブ施策の導入について</li> <li>・名古屋大学こすもす保育園及びあすなる保育園の利用細則の一部改正について</li> <li>・寄付金の受け入れについて</li> <li>・各種ワーキンググループからの報告事項について</li> <li>・こすもす保育園現況</li> <li>・あすなる保育園現況</li> <li>・学童保育所現況</li> </ul>

日付	事項
24.02.07	マインドマップ講習会25 (男女共同参画室助教・プザン公認マインドマップフェロー 榊原千鶴氏)
24.02.09	第8回男女共同参画室会議
24.02.21	第43回男女共同参画推進専門委員会 ○名古屋大学方式 女性研究者採用加速・育成プログラムにおける「学術雑誌投稿論文の英文校閲費用助成」申請について ○男女共同参画推進専門委員会委員の交代について ・女性PIプロジェクトの進捗状況について ・2012年度男女共同参画重点項目について ・部局アンケートからの現状把握について ・メンター・アワード2012の受賞について ・あかりんご隊の女性の活躍促進プラン学生コンペティション応募について ・各種ワーキンググループからの報告事項について ・こすもす保育園現況 ・あすなる保育園現況 ・学童保育所現況

※“あかりんご隊”とは、理系女子中高生・大学生・大学院生向けの交流会やセミナーなど様々なイベントの企画運営を行う名古屋大学の理系学部に在籍する女子学生有志グループである。

### 3. 2011（平成23）年度男女共同参画室の社会連携活動

#### 講演等

開催日	講演者	テーマ	主催	講演場所
23.08.03	東村博子	男女共同参画講演会 「大学で男女がともに輝くために一名古屋大学における男女共同参画の取組を中心に」	豊橋技術科学大学男女共同参画推進室	豊橋技術科学大学
23.08.19 ～09.04	三枝麻由美	ウィルあいち情報ライブラリー団体PRパネル展～つながれ！広がれ！男女共同参画～「名古屋大学における男女共同参画の取り組みとあかりんご隊」	財団法人あいち男女共同参画財団	ウィルあいち情報ライブラリー
23.08.23	東村博子	女子高校生のための「科学・技術者への招待セミナー」 講演「理系っておもしろい。理系女子が日本を活性化！」	福井県生活学習館 福井県生涯学習センター ユー・アイふくい	仁愛女子高等学校
23.10.31	三枝麻由美	第9回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム ポスターセッションおよび資料集「名古屋大学方式 女性研究者採用加速・育成プログラム」	男女共同参画学協会連絡会	筑波大学大学会館
23.11.01	東村博子	女性研究者研究活動支援事業合同公開シンポジウム「女性研究者支援に向けた持続可能な取組の実現～「モデル的取組」から研究と「ライフイベントの両立」へ～ 効果的な取組事例発表	筑波大学男女共同参画推進室	筑波大学東京キャンパス文京校舎
23.11.01 ～11.02	榊原千鶴	女性研究者研究活動支援事業合同公開シンポジウム「女性研究者支援に向けた持続可能な取組の実現～「モデル的取組」から研究と「ライフイベントの両立」へ～ 効果的な取組事例発表	筑波大学男女共同参画推進室	筑波大学東京キャンパス文京校舎
23.11.01 ～11.02	三枝麻由美	女性研究者研究活動支援事業合同公開シンポジウム「女性研究者支援に向けた持続可能な取組の実現～「モデル的取組」から研究と「ライフイベントの両立」へ～ ポスターセッション「名古屋大学方式 女性研究者採用加速・育成プログラム」	筑波大学男女共同参画推進室	筑波大学東京キャンパス文京校舎
23.11.16	東村博子	学生相談室セミナー 講演「男女がともに輝くために～男女共同参画が社会を活性化する」	東海大学伊勢原学生相談室	東海大学伊勢原キャンパス1号館2階・講堂A
23.12.15	中井俊樹	第2回メンタリングに関するセミナー「大学教員にとってのメンタリング実践」 講演「FDとしてのメンタープログラムの試み」	岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室	岡山大学本部棟6階第1会議室
24.01.27	三枝麻由美	第2回四国女性研究者フォーラム「若手の活躍促進」ポスターセッション	愛媛大学	愛媛大学校友会館2階サロン
24.03.03	榊原千鶴	大学教育改革フォーラムin東海2012 ポスターセッション「世代をつなぐ学びの場～名古屋大学学童保育所の試み」	大学教育改革フォーラムin東海2012実行委員会、FD・SDコンソーシアム名古屋、名古屋大学高等教育研究センター	名古屋大学東山キャンパス E S総合館 他

#### あいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラム

開催日	講演者	テーマ	主催	講演場所
23.10.19	濱口道成（名古屋大学総長）	あいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラムシンポジウム「イクメンについて考える～男女が共に働き続けるために～」講演	あいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラム	名古屋大学野依記念学術交流館2階カンファレンスホール

開催日	講演者	テーマ	主催	講演場所
23.10.19	田村哲樹（名古屋大学大学院法学研究科教授）	あいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラムシンポジウム「イクメンについて考える～男女が共に働き続けるために～」パネルディスカッション「イクメンの理由～男の育児は単なるトレンドか？～」コーディネーター	あいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラム	名古屋大学野依記念学術交流館 2階カンファレンスホール
23.10.19	稲葉和子（愛知労働局雇用均等室長） 鈴木秀樹（豊田通商(株)東京本社人事部ダイバーシティ推進室長） 関口威人（ジャーナリスト） 二井晋（名古屋大学大学院工学研究科准教授） 横井寿史（社会保険労務士）	あいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラムシンポジウム「イクメンについて考える～男女が共に働き続けるために～」パネルディスカッション「イクメンの理由～男の育児は単なるトレンドか？～」パネリスト	あいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラム	名古屋大学野依記念学術交流館 2階カンファレンスホール

#### 大学その他交流

年月日	大学その他	企画・テーマ	場所
23.05.25	社会福祉法人千寿会 計5名（永島弘喜総務業、肥田保育士他3名）	こすもす保育園見学	名古屋大学こすもす保育園
23.06.03	岡山大学総務・企画部人事課 前川幸枝人事課長	名古屋大学の男女共同参画事業の取組について、こすもす保育園見学	名古屋大学男女共同参画室、名古屋大学こすもす保育園、学童保育所ポピンズアフタースクール
23.08.29	大阪教育大学男女共同参画推進会議 企画専門部会委員山近博義教授、高山新教授	名古屋大学の男女共同参画事業の取組について、こすもす保育園、学童保育所見学	名古屋大学男女共同参画室、名古屋大学こすもす保育園、学童保育所ポピンズアフタースクール
23.10.12	三枝麻由美	東京都市大学理工系女性卒業生大規模実態調査結果報告会に参加	東京都市大学渋谷サテライトクラス
23.11.17	JST 山村PO、永幡主任調査員	文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者養成システム改革加速」事業の取組について	名古屋大学本部2号館第3会議室
23.11.22	椋山女学園大学 宇土泰寛教授、総務部 杉山ちはる氏 他1名	名古屋大学の男女共同参画事業の取組について、こすもす保育園、学童保育所見学	名古屋大学第3会議室、名古屋大学こすもす保育園、学童保育所ポピンズアフタースクール
23.12.08	愛媛大学女性未来育成センター長 小島秀子教授	名古屋大学の男女共同参画事業の取組について	名古屋大学男女共同参画室
23.12.19	榊原千鶴、三枝麻由美	文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者養成システム改革加速」事業に関する調査	東京大学男女共同参画室
24.01.05	三枝麻由美	文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者養成システム改革加速」事業に関する調査	九州大学研究戦略企画室及び女性研究者キャリア開発センター
24.01.12	榊原千鶴、三枝麻由美	文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者養成システム改革加速」事業に関する調査	千葉大学両立支援企画室
24.01.12	榊原千鶴、三枝麻由美	文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者養成システム改革加速」事業に関する調査	東京農工大学女性未来育成機構室
24.01.16-17	国立女性教育会館 内海房子理事長	名古屋大学の男女共同参画事業の取組について	名古屋大学野依記念物質科学研究館

年月日	大学その他	企画・テーマ	場所
24.02.08	弘前大学男女共同参画室 男女共同参画推進室室員／生涯学習教育研究センター 深作拓郎講師、男女共同参画推進室 鶴井香織特任助教	学童保育所見学	名古屋大学学童保育所ポピンズアフタースクール
24.02.18	三枝麻由美	科学技術振興調整費「女性研究者養成システム改革加速」『杜の都ジャンプアップ事業 for 2013』シンポジウム2011に参加	東北大学片平さくらホール
24.02.22	東京学芸大学 施設課職員機械掛長 渡辺順一氏 計画係主任 田仲賢治氏 電気係員 中村紀久氏	名古屋大学こすもす保育園の見学	名古屋大学こすもす保育園
24.02.24	東村博子、中井俊樹、三枝麻由美	メンター・アワード2012表彰式に参加	女性就業支援センター
24.03.07	榊原千鶴、三枝麻由美	内閣府主催「女性の活躍促進プラン学生コンペティション」に参加	東京ウィメンズプラザ
24.03.08	岩手大学男女共同参画推進室兼務教員 土屋明広准教授	名古屋大学の男女共同参画事業の取組について	名古屋大学男女共同参画室
24.03.16	榊原千鶴、三枝麻由美	名古屋市立大学男女共同参画フォーラム「多様性のあるゆたかな社会をめざして—大学で男女共同参画を考える—」に参加	名古屋市立大学病院 病棟・中央診療棟3階大ホール

#### 女子学生支援活動

年月日	講演者等	企画・テーマ	主催	場所
23.07.01	あかりんご隊 榊原千鶴	あかりんご隊による出張実験 @学内学童保育所	名古屋大学男女共同参画室	名古屋大学学童保育所ポピンズアフタースクール
23.07.21～ 08.31	あかりんご隊 三枝麻由美	「マリー・キュリーポスター展」	名古屋大学物質科学国際研究センター、フランス キュリー博物館・キュリー研究所（名古屋大学男女共同参画室共催）	名古屋大学野依記念物質科学研究館（物質科学国際研究センター）
23.07.27	あかりんご隊 榊原千鶴 三枝麻由美	世界化学年2011特別企画 夏休み子供化学実験ショー	名古屋大学物質科学国際研究センター、フランス キュリー博物館・キュリー研究所（名古屋大学男女共同参画室共催）	名古屋大学野依記念物質科学研究館（物質科学国際研究センター）
23.08.09 ～08.11	あかりんご隊 榊原千鶴 三枝麻由美	名古屋大学オープンキャンパス 2011女子学生相談コーナー	名古屋大学男女共同参画室	名古屋大学豊田講堂
23.08.19～ 09.04	あかりんご隊 三枝麻由美	ウィルあいち情報ライブラリー 団体PRパネル展～つながれ！ 広がれ！男女共同参画～「名古屋大学における男女共同参画の 取り組みとあかりんご隊」	財団法人あいち男女共同参画財団	ウィルあいち情報ライブラリー
23.08.24	あかりんご隊 榊原千鶴 三枝麻由美	世界化学年2011特別企画 夏休み子供化学実験ショー	名古屋大学物質科学国際研究センター、フランス キュリー博物館・キュリー研究所（名古屋大学男女共同参画室共催）	名古屋大学野依記念物質科学研究館（物質科学国際研究センター）

年月日	講演者等	企画・テーマ	主催	場所
23.08.27	あかりんご隊 榊原千鶴	トヨタテクノミュージアム産業 技術記念館週末ワークショップ	トヨタテクノミュージアム 産業技術記念館	トヨタテクノミュージアム産業技術記念館
23.10.01 ～10.02	あかりんご隊 榊原千鶴	「青少年のための科学の祭典 2011名古屋大学」	「青少年のための科学の祭典」名古屋大会実行委員会 ／(財)中部科学技術センター ／(財)日本科学技術振興財団・科学技術館／名古屋市科学館／(株)中日新聞社	名古屋市科学館
23.10.15	あかりんご隊 榊原千鶴 三枝麻由美	第7回名古屋大学ホームカミング デイ 体験企画『名古屋大学理系女子 コミュニティ あかりんご隊「科 学実験を体験しよう☆」』	名古屋大学男女共同参画室	名古屋大学野依記念 学術交流館
23.11.26	土井美和子（株式会社東 芝 研究開発センター 首席 技監） 上川内あづさ（名古屋大学 大学院理学研究科 教授） あかりんご隊	名古屋大学若手女性研究者サイ エンスフォーラム 女子中高生理系進学推進セミ ナー	名古屋大学男女共同参画推 進専門委員会／名古屋大学 男女共同参画室	名古屋大学ES総合 館1階ESホール及 びES会議室
23.12.15	濱口道成(名古屋大学総長) 赤坂茉莉(名古屋大学理学 研究科特任助教) 東村博子 榊原千鶴 三枝麻由美 あかりんご隊	～名大リケジョによる Talk Night～理系女子学生エ ンカレッジ交流会	名古屋大学男女共同参画室	名古屋大学理学部南 館1階
23.12.27	あかりんご隊 佐々木成江（名古屋大学理 学研究科准教授）	「科学三昧 in あいち2011」合 同発表会 あかりんご隊の活動発表および 理系進学相談	あいち科学技術教育推進協 議会	自然科学研究機構岡 崎コンファレンスセ ンター
24.03.07	あかりんご隊 榊原千鶴 三枝麻由美	「女性の活躍促進プラン学生コ ンペティション」	内閣府	東京ウイメンズブラ ザ

#### 報道等

掲載日・ 取材日	取材者	タイトル	備考
23.05.13	NHK	NHK総合「50ボイス」「みんなで育児」	名古屋大学こすもす保育園について
24.01.04	毎日新聞	「なでしこの時代③」名古屋大学リケジョ 集団☆あかりんご隊」	名古屋大学あかりんご隊の紹介

## 第2節 ワーキンググループの活動

### 1. 育児支援策検討ワーキンググループ

育児支援策検討ワーキンググループ：永田雅子（主査）、那須民江、松下正、田中京子、東村博子、大河内美奈、加藤ジェーン、榊原千鶴

### こすもす保育園運営協議会報告

こすもす保育園運営協議会：永田雅子（議長）、東村博子、大河内美奈、加藤ジェーン、田中京子、太幡英亮、加藤太一、大矢淳一、園田正、林誠司、上田（石原）奈津実

### 名古屋大学こすもす保育園の経過

名古屋大学こすもす保育園は開園6年目を迎えた。当初30名定員でスタートしたこの保育園も2年前に60名に定員を増やしたが、多くの方から入園希望をいただき、特に未満児は入所希望者も多く、お断りせざるを得ない状況が続いている。今年度、一時保育枠を減らし、枠いっぱいまでお引き受けできるように体制を組み替え、できるだけ多くの子どもたちをお預かりできるように対応を検討したが、すでに定員一杯の状況の中では、保育のニーズに応えきれないのが現状である。今後、学内の保育のニーズとの中で、体制の整備をどうすすめていくのが、あらためて検討していかなければならない段階に来ていると感じている。

今年度の名古屋大学こすもす保育園運営協議会はこれまで同様オブザーバーとしてこすもす保育園主任保育士に毎回参加していただき、保育園利用及び運営にかかわる多様な事項が検討された。その中で、春と秋に入園募集、入園児の選考を行うとともに、より安全で質の高い病後児保育を実施するための検討を重ねてきた。また、今年度初めて近隣の保育園との交流会を実施し、意見交換する場をもつなど、保育体制の基盤づくりを引き続きすすめているところである。

様々なニーズがある中で、大学内保育所としての何を担っていくのかということを確認していくとともに、大学という場を生かしながら、子どもたちがより健やかに育っていける場として機能していけるよう、保育園の運営にあたっていきたいと考えている。

### 名古屋大学こすもす保育園2011年度 活動報告

主任保育士 伊藤友香

#### <主な年間行事>

- 2月 節分・生活発表会・定期健康診断
- 3月 クラス懇談会・ぬいぐるみ病院来園・おはなしの会来園・親子遠足・お別れ遠足・卒園式・修了式
- 4月 進級を祝う会
- 5月 子どもの日の集い・クラス懇談会・野菜の苗うえ・附属高校保育体験受け入れ
- 6月 プラネタリウム見学・不審者対応訓練・参観日
- 7月 プール開き・七夕・附属高校保育体験受け入れ・個人懇談会
- 8月 個人懇談会・水中運動会・夏の大掃除・すいかわり・打ち水大作戦
- 9月 お月見会・ぬいぐるみ病院来園・災害時引き渡し訓練・保育交流（学童）
- 10月 大学一斉避難訓練・SPORTS DAY・ハロウィーン・津波時緊急避難訓練
- 11月 東山動物園徒歩遠足・芋掘り・焼き芋・おはなしの会来園・勤労感謝の日を知る活動
- 12月 クリスマス会・冬の大掃除
- 1月 七草・生活発表会
- 2月 節分・不審者対応訓練

毎月 避難訓練・身体測定・誕生日会・食育・保健指導



附属高校保育体験受け入れ



七夕



スポーツデイ



芋掘り



節分

### <日々の保育の特徴や工夫について>

今年度は開園より6年目を迎え、0歳児～5歳児が一定数在籍したことで、乳児、幼児クラスそれぞれに保育における流れと配慮、全体的な発達について細かく対応を検討しました。0歳児クラスでは約2年近くある月齢差のお子様をより発達段階にあわせて到達できる目標にあわせてグループ分けをし、大人数のクラスでありながら個々のお様が目指す到達点を達成しやすい環境に設定し細かく対応しより育ちにあった目標を掲げ援助していくこと、1歳児クラスでも年度の前半はお子様の理解力にあわせた人的環境によるグループ分けを設定し、月齢差を少しずつ縮めることでスムーズに移行できるよう配慮いたしました。また幼児クラスでは、他園に比べ同年齢のお子様の在籍人数が少ない為、幼児における集団の特性を踏まえつつあらゆる面においてお子様自身が自立し、自発的な行動ができるよう配慮しました。全体においては運動能力の基礎的向上を目指し、戸外活動だけでなく室内においてもリズム運動の実施による日々の積み重ねや運動遊び等を積極的に取り入れ、四肢を十分に使う体験を重視しお子様自身が遊びの中から身体をつくり上げていくことを知らせたり、一方で手先、指先を使う環境が減っている生活環境の中で、手を使い生活経験機能をあげていくかを園生活の様々な場面から見直しいたしました。今後は保育園での取り組みを参考に、さらに家庭とも連携して育てていければと思っています。

昨年度に続き、附属高校家庭科の授業の一環として、高校生が来園し交流を持ちました。2年目ということもあり、子ども達の中にもどうやって関わるができるか様々な体験のもとに挑戦していく姿がみられたり、昼食中の会話は緊張の中にも共に時間を過ごす中で異年齢間の交流やコミュニケーションを楽しんでいました。

保育園の運営におきましては夏より業務支援室より5名の方におもちゃや備品の消毒・点検、清掃やAEDの点検・整備のお手伝いをいただいております。なかなか日々行き届かない園内全般の安全・健康への配慮に対してお力添えいただいていることで、園内の他の業務にさらに目を向けることもできました。お子様にとっても、保育園スタッフ以外にも保育園を支え、仕事をしてくださる支援室の皆様の姿から学びとっていることも多いと感じています。これからの様々な人との出会い、ふれあいを通してさまざまな体験や気持ちをお子様の中で育めればと願っています。

開園当初0歳児で入園したお子様方が3月には卒園となります。こすもす保育園としての歩みもようやく丸6年で一巡し、0～5歳児まで6年間連続して過ごした歩みを振り返り、現在のお子様の状況や、保護者の皆様のニーズ、お仕事環境等を加味しつつ、0～5歳児の「人としての大事な時期を過ごす場所」である保育園が大人の事情第一ではなく、「子ども主体」の生活と成長に向けて発達をどのように導いていくべきなのか、保育園・家庭が連携し、保育内容についても6年間の成長の見通しと目標をより明確にしながら保育を深め展開できるように積み上げていきたいと思っています。

子育て環境は厳しいと言われる中、保育園に在籍するご家庭のお子様だけでなく、様々な理由で保育園の門戸をたたき方々にとって、子育てについて共に考えられる施設であるようきめ細やかに気持ちによりそい、お子様の「今」を見つめ、必要な力を発揮していただけるような役目も果たしていければと思っています。来年度も「第二の自宅」のように安心・信頼のよりどころとなれる保育園となり、心豊かな人格形成をめざしていけるよう成長し続ける保育園運営を目指してまいります。

## あすなろ保育園運営協議会報告

あすなろ保育園運営協議会：那須民江（議長）、榊原千鶴、天野睦紀、梅津朋和、松下正、  
姫野美都枝、吉田茂、加藤太一、桜井雅憲

### 1. 名古屋大学あすなろ保育園の経過

名古屋大学あすなろ保育園は、今年度、開園3年目を迎えましたが、鶴舞地区においては、女性研究者、看護師等の育児休業復帰後の保育園入園希望者の増加に応えるため、おもに乳児のための保育所の拡充が喫緊の課題でした。

この課題を解消すべく、あすなろ保育園運営協議会等において精力的に検討を重ねた結果、2012年1月に保育園を増築し、定員を従来の40名から80名に増員することで、育児支援体制の一層の充実を図ることができました。

なお、2011年度の名古屋大学あすなろ保育園運営協議会については、12月までに8回開催し、保育園入園者の選考、保育園運営に関する事項等について活発な審議を行いました。

### 名古屋大学あすなろ保育園2011年度活動報告

主任保育士 小関洋子

#### <主な年間行事>

- 4月 進級を祝う会、イースターパーティー
- 5月 母の日、夏野菜の苗植え花の種蒔き
- 6月 父の日、定期健康診断
- 7月 プール開き、七夕の会、保育交流会（こすもす保育）
- 8月 すいか割り大会、打ち水大作戦
- 9月 敬老の日手紙、秋冬野菜の種蒔き、十五夜
- 10月 ハロウィーンパーティー
- 11月 定期健康診断、緑茶うがい、お楽しみ会
- 12月 年賀状作り、クリスマス会、冬の大掃除
- 1月 初詣、七草、お正月遊び
- 2月 節分豆まき、バレンタインデー
- 3月 ひなまつり会、個人懇談、終了式（成長を祝う会）
- 毎月 避難訓練、身体測定、誕生会、食育

#### <日々の保育の特徴や工夫>

2011年7月1日に3年目を迎えたあすなろ保育園は、これまで名古屋大学の職員・学生の勤務・学習形態に柔軟に対応し、園児が強く優しく成長するよう、学内や地域の協力を得ながら保育を行ってきました。その結果、常時保育利用者、一時保育利用者ともに順調に増加してきました。

しかし一方で、保育園入園希望者の増加にともない、保育園の拡充が課題となっていました。この課題に対して、あすなろ保育園運営協議会委員の方々をはじめ鶴舞地区関係者の皆様のご尽力により、2012年1月に新たに園舎を増築し、園児定員の倍増を実現することができました。この増築により、0・1歳児を既存棟の「わかば館」で、2歳児以上を新棟の「ふたば館」で、それぞれ保育することとなりました。

また今年度は、夏に初めての試みとして、3歳児ク



ふたば館外観

ラスを対象として、名古屋大学東山キャンパス内こすもす保育園との保育交流会を行いました。他園の園児とのプール遊びなど様々な体験を通して、園児はひとまわり大きく成長したように感じています。今後も、このような機会を増やし、園児らにとって今しかできない体験をこれまで以上に保育カリキュラムの中に取り入れていきたいと考えています。

これからも保育園を利用される保護者の皆様にとって、安心して子どもを預けられる保育園となることで、保護者の皆様の更なるご活躍が可能となるよう、スタッフ一同サポートしていく所存です。

## 学童保育所（ポピンズアフタースクール）検討委員会報告

学童保育所検討委員会：東村博子（委員長）、佐々木成江、中井俊樹、石川クラウディア、小松尚、大矢淳一、布目寛幸、榊原千鶴（オブザーバー）森滋夫、加藤恵子、高橋奈弓、倭剛久、三枝麻由美

名古屋大学学童保育所は、2009年7月21日に開設された。運営はポピンズコーポレーションに委託しているが、大学の物的知的財産を最大限生かしたプログラムを開発、実践するために、名古屋大学学童保育所検討委員会が設置されている。本年度は、4月から1月までに119回のプログラムが実施され、その半数以上が名古屋大学関係者（教員・学生など）の協力のもとに行われた。

今年度実施した新たに取り組みには、1) こども企画をプログラムに導入、2) JAXAの宇宙種子実験に参加、3) 夏祭りの実施などがある。

### 1) こども企画

こどもたちの意見や要望、プログラムに関するアイデア等を自由に投稿できるアイデアポストを保育所内に設置し、寄せられたアイデアからいくつかのプログラム（ドッジボール大会、ピアノコンサート、サマーコンサートなど）を実施した。こども企画のプログラム実施については、イベント告知のポスター作り、当日の司会など、こどもたちが自主的に行った。

### 2) JAXAの宇宙種子実験に参加

保護者からの提案で、JAXA宇宙教育センターの宇宙種子実験に参加。宇宙ステーションで一定期間保管されたアサガオの種子、理化学研究所の加速器を用いて強い放射線を照射した種子、地上に置いておいた種子、以上3つのグループを栽培し、突然変異体の出現があるかどうかを観察した。5月に種を植え、9～11月に種の収穫を行った。突然変異体の出現はなかったものの、半年にわたり継続的な観察を行った。

また、この実験に関連して、名誉教授や保護者が、突然変異や遺伝をテーマにしたプログラムを実施することにより、こども達の知的好奇心を大いに刺激することができた。

### 3) 夏祭り

例年、夏休みのお楽しみイベントとして行ってきた流しそうめん、お泊まり会に加え、今年は「夏祭り」イベントを開催。盆踊り、ヨーヨー釣り、たこせんの3コーナーを開設するとともに、希望者には浴衣の着用を行った。

2012年1月現在の利用者は、レギュラー会員約20名、スポット会員約40名と、開所当初の定員に近付きつつあり、2011年11月～2012年1月にかけて3回実施した2012年度入園説明会にも、毎回5～6名の参加を得て、運営も軌道に乗りつつある。

ポピンズアフタースクール 月予定表

日	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13	
14	15	16	17	18	19	20	
21	22	23	24	25	26	27	
28	29	30	31				



夏祭りイベント：ヨーヨー釣りの様子

## 2. 女子学生支援策検討ワーキンググループ

坂部俊樹（主査）、古川忠稔、戸本誠、中川弥智子、吉田朋子

女子学生支援策検討ワーキンググループの本年度の主な活動は以下の2つである。

### 1. 若手研究者サイエンスフォーラムおよび女子中高生理系進学セミナーの企画、実施

本活動の目的は、社会の第一線で活躍する理系の女性研究者の特別講演と若手女性研究者のポスター発表を通じて、女子中高生および保護者に理系研究の魅力と女性研究者のロールモデルの理解を深めてもらうこと、また、ポスター発表に対して中高生・保護者や理事、各部局長等からコメントを受ける場を設けて、若手女性研究者のさらなる研究の発展に資することである。

特別講演では、土井美和子氏（株式会社東芝 研究開発センター 首席技監）による「楽しく仕事をしなきゃ、もったいない」、上川内あづさ氏（名古屋大学大学院理学研究科 教授）「音を感じる脳の理解に向けて ―研究とライブイベントとの両立―」の2件の講演を企画、実施した。

若手研究者サイエンスフォーラムおよび女子中高生理系進学セミナーの一般参加者は82名であった。ポスター発表は32件の発表があり、優秀ポスター発表を選ぶための参加者全員による投票を行った。その結果、4件のポスター発表に対して名古屋大学総長賞を授与した。

本活動の詳細については第3節の1を参照されたい。

### 2. 理系女子学生コミュニティ「あかりんご隊」の活動支援

あかりんご隊は、理系の女子学生や女性研究者が交流するコミュニティの核となり、様々な活動を通じて女子学生と女性研究者の交流を深めるとともに、キャリアアップや両立支援に有用な情報・ノウハウの交換・共有・蓄積を図ることを目的としている。本ワーキンググループはあかりんご隊の活動を支援した。

本年度の「あかりんご隊」の活動概要は次のとおりである。

- 2011年7月1日（金）@ポピンズアフタースクール  
出張科学実験：染色実験
- 2011年7月27日（水）@名古屋大学野依記念物質科学研究館  
「マリー・キュリーポスター展」  
ポスター展示、出張科学実験：スライム実験
- 2011年8月9日（火）～8月11日（木）@名古屋大学豊田講堂  
「女子学生相談コーナー in オープンキャンパス」  
進路相談
- 2011年8月24日（水）@名古屋大学野依記念物質科学研究館  
「マリー・キュリーポスター展」  
ポスター展示、出張科学実験：染色実験
- 2011年8月27日（土）@トヨタテクノミュージアム産業技術記念館  
「週末ワークショップ」  
出張科学実験：染色実験

- 2011年10月1日（土）～10月2日（日）@名古屋市科学館  
「青少年のための科学の祭典2011」  
出張科学実験：スライム実験
  
- 2011年10月15日（土）@名古屋大学野依記念学術交流館  
「ホームカミングデイ・科学実験を体験しよう！」  
出張科学実験：スライム実験
  
- 2011年11月26日（土）@ES総合館会議室  
「名古屋大学若手女性研究者サイエンスフォーラム」および「女子中高生理系進学推進セミナー」  
ポスター展示と進学相談
  
- 2011年12月15日（木）@理学南館1階  
第5回理系女子学生エンカレッジ交流会
  
- 2011年12月27日（火）@自然科学研究機構岡崎コンファレンスセンター  
「科学三昧inあいち2011」  
進学相談

本活動の詳細については第3節の2を参照されたい。

### 3. 学部学生向けジェンダー関連授業検討ワーキンググループ

新井美佐子（主査）、金井篤子、榊原千鶴、三枝麻由美

今年度も、全学教養科目として前期火曜2限に「女と男を科学する」を開講した。テキストは、松本伊瑛子／金井篤子編（2004）『ジェンダーを科学する』ナカニシヤ出版を使用し、コーディネーターは新井美佐子（国際言語文化研究科）が担当した。

#### I. 授業日程

1. 4月19日 ジェンダー論入門（男女共同参画室 榊原千鶴）
2. 4月26日 生物学とジェンダー（生命農学研究科・男女共同参画室 東村博子）
3. 5月10日                   〃
4. 5月17日                   〃
5. 5月24日 文学とジェンダー（榊原千鶴）
6. 5月31日                   〃
7. 6月7日                    〃
8. 6月14日 心理学とジェンダー（教育発達科学研究科 金井篤子）
9. 6月21日                   〃
10. 6月28日                  〃
11. 7月5日 経済学とジェンダー（新井美佐子）
12. 7月12日                  〃
13. 7月16日〈補講：土曜5限〉   〃
14. 7月19日 定期試験

ここ2、3年、初講は「イントロダクション」として、シラバス記載事項の確認や授業の趣旨説明をしたり、学生にこの授業を選択した理由やジェンダーに対するイメージ等を尋ねていた。今年度はこれを「ジェンダー論入門」と改め、Ⅰジェンダーという概念・Ⅱジェンダー学・Ⅲ身近なジェンダー学・Ⅳ男女共同参画社会とジェンダー学という4項目による導入的な概説を行った。ジェンダーを体系的に学ぶのは初めてという学生が多いので、有意義であったと思う。

なお、節電を目的とする全学の前期授業期間短縮に伴い、ディスカッションを予定していた14講を定期試験に振り替えた。ディスカッションは例年受講生に好評であり、また教員にとっても学生のさまざまな意見が聞ける貴重な機会のため、割愛は残念だった。

#### II. 受講者

確定受講者名簿に記載の学生数（括弧内は昨年度の同数）は37（39）名であった。4年生が2名、他は全員2年生で、男子32（31）名、女子5（8）名であった。学部別に見ると、文学部2（2）名、教育学部2（1）名、法学部4（2）名、理学部1（3）名、農学部5（0）名、工学部23（22）名であった（昨年度は、上記に加え、経済学部3名、情報文化学部5名、医学部1名の受講生がいたが、今年度はこれらの学部からの受講生はいなかった。また、全員が2年生であった）。

#### III. 授業内容

過去の授業評価アンケートの結果に鑑み、一昨年度、昨年度に続き、今年度も4名の教員が各3回ずつ授業を担当するという形式にした。2～4講、および8～13講は、各担当者がテキストに沿って授業を進めた。5～7講については、テキスト「第Ⅱ部7教育とジェンダー」を適宜引用しつつ、配付資料を用いて行った。なお、毎回の授業の最

後に、出欠確認を兼ねて、質問・感想票の提出を求めた。

#### IV. 評価方法

シラバスには、「授業への出席ならびにディスカッションへの参加度30%、定期試験70%」で評価すると記載したが、上述のようにディスカッションを行うことができなかったため、「授業への出席30%、定期試験70%」に変更し、授業中複数回にわたってその旨アナウンスした。定期試験は、最近の2年間と同様、授業内容全体について真摯に学んでもらうために選択問題を廃止し、全4名の教員が各1問ずつ出題する計4問の論述問題とした。

#### V. 学生からの評価

上記の、授業終了時提出の質問・感想票には、授業内容等に対する改善要望はほとんどなかった。また、(学生の)個人的な経験、意見を踏まえた関連質問や感想も寄せられ、興味深く読むことがしばしばあった。

ただ、最終講に行った授業評価アンケートでは、本授業に対する意欲、理解度、知的関心等に関する学生自身の評価、ならびに教員や教材・教授法への評価の双方が、全学教養科目の平均値をわずかながら下回った。

#### VI. 総括

上述のように、ジェンダーのいわば初学者が大半の受講生に対し、諸学問領域においてジェンダーがいかに扱われているかを示し、考察する機会を提供できたように思う。そして、受講者がそれを理解したことが、質問・出席票や試験の答案等から確認された。

ただ、実際に職場や家庭で生じているジェンダー問題については、未だ当事者として経験したことがない学生が多いようで、彼らにとってはジェンダーはまだ身近な問題ではないと感じられることもあった。学生の学習意欲をより高め、ジェンダー意識の向上につながるよう、来年度の授業計画に一層の工夫を重ねたい。

総括すれば、本授業は、その開講目的「男女共同参画に寄与する教育」をほぼ達成できたといえる。

#### 4. 女性研究者増員策検討ワーキンググループ

西山久雄（主査）、東村博子、小田洋一、山内章、岩渕万里、  
大河内美奈、中川弥智子、加藤ジェーン、吉田朋子、中井俊樹、三枝麻由美

本ワーキンググループが担当する施策は、本年度より名古屋大学女性研究者養成システム改革加速事業女性PI選考委員会に引き継がれたため、女性研究者増員策に関する活動内容については、「第3章第1節 新規女性研究者の採用計画」を参照されたい。

## 5. 病児保育検討ワーキンググループ

浅野みどり（主査）、玉腰浩司、那須民江、松下正、佐々木成江、永田雅子  
榊原千鶴、伊藤嘉規、加藤太一、山本弘江

病児保育WGでは、2010年2月～3月に実施した「子どもの病気と仕事の両立に関するWebアンケート」結果および病児（後）保育に関する他大学の現状、学内の現状に関する情報収集と分析結果から、『子どもが病気時の名古屋大学の支援に関する改善策案の提言』をまとめ、具体的な改善策案および発展的な将来的な病後児保育体制に向けた課題について、2010年9月末男女共同参画推進委員会に報告している。

藤井理事のご配慮により、平成23（2011）年度は前述の改善策の実施・促進に向けて、新規委員として、松永正委員、那須民江委員、永田雅子委員、榊原千鶴委員が加わり、こすもす保育園・あすなろ保育園運営協議会との連携が強化された。また、6月に伊藤嘉規委員から加藤太一委員（小児科新副医局長）にメンバー交代があった。

平成23年度の主な活動は以下のとおりである。

### 1) 病（後）児保育検討WG会議

ほぼ隔月で会議を行い、病児保育実施にむけたルール整備の検討、予測される利用者や人件費等の経費に関する試算、体制整備上の課題などを中心に討議した。また、こすもす保育園・あすなろ保育園運営協議会との連携強化を図った。

第1回 6月3日（金）、第2回 8月5日（金）、第3回10月11日（金）

第4回 11月22日（火）、第5回 2012年1月17日（月）

### 2) あすなろ保育園・こすもす保育園における病気実態調査【資料1】

大学が負担する運営費用の課題があり、大学本部の理解を得るためのデータとして、これまでの実態（病児・病後児保育に近い状況の子どもを保育した実数）調査を実施した。調査内容は、①発熱（37.5度以上）した児（保育途中で発熱した子どもも含む）②下痢の子どもの月別人数で1年間の実績を把握した。また、その実績を基づく収入の試算を行った。

### 3) 名大の病児・病後児保育の在り方に関する藤井理事との面談【資料2】

これまで検討してきたルール整備、実態把握、利用者・費用等の資産等の分析・検討結果資料に基づき、2011年10月28日に藤井理事にWGメンバーの代表5名で現段階でのプラン説明を行い、助言をいただいた。

### 4) 名大病院職員に対する保育の実態とニーズに関するアンケート調査計画

2010年に実施した「子どもの病気と仕事の両立に関するWebアンケート」の回答者は事務職に比して名大附属病院職員等の技術職や教員が少なかったこと、鶴舞地区あすなろ保育園の定員増の予定であること、上記3)のご助言をふまえて、病院職員を対象に保育の実態とニーズに関するアンケート調査（紙媒体）を計画し、実施に向けて検討・調整中である。

### 5) その他の関連事項

(1) こすもす保育園の整備：病後児を受け入れにむけて、病後児保育専用の入り口、トイレ、手洗いを設置する必要があることから、旧調理室（現在ロッカー室）の改修が認められた。

(2) 小児保健学会（期間：9月1日～3日、会場：名古屋国際会議場）において、9月3日「病児保育の現状と課題」のミニシンポジウム（座長：浅野みどり）を開催し、貴重な意見交換を行った。

（文責：浅野）

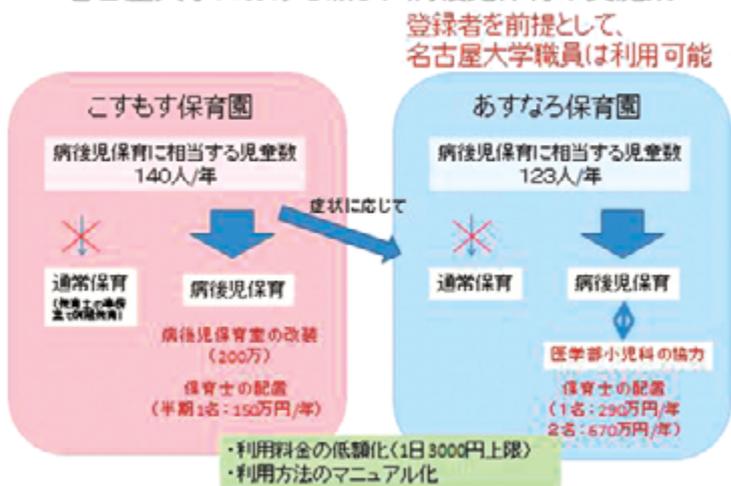
資料1 H22.4～H23.3までの保育園病児件数より試算した年間の病児保育利用及び収入

	登園時からの発熱	登園後の体調不良	収入試算※
あすなろ保育園（定員40名*）	13	123	285,000
こすもす保育園（定員60名）	8	140	304,000

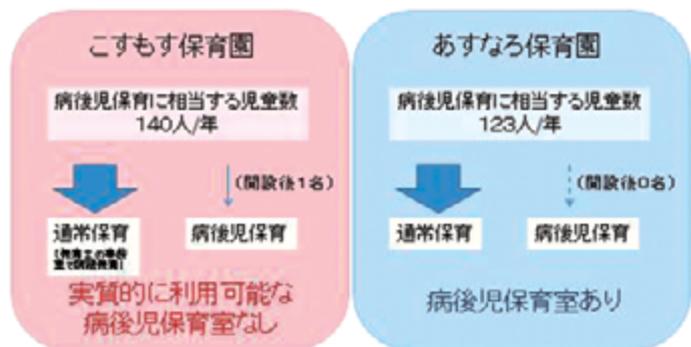
※登園時からの体調不良児を1日、登園後の体調不良児を半日預かったとし、  
 現在の利用予定額 3,000/1日 2,000/半日として試算  
 \* H22年度の定員による試算。来年度より約2倍に定員増予定

資料2

名古屋大学における新しい病後児保育の実施案



名古屋大学で実施している病後児保育の問題点



- 問題1)明確な病児保育マニュアルがないため、病後児の線引きが困難
- 問題2)利用代金が高い  
 1時間こすもす1500円(1日12000円)、あすなろ1000円(1日8000円)
- 問題3)隔週保育となるため、保育士の人数が足りない→通常保育の安全性に支障

## 6. メンター検討ワーキンググループ

中井俊樹（主査）、大河内美奈、榊原千鶴

科学技術振興調整費の女性研究者養成システム改革加速事業に採択された「名古屋大学方式 女性研究者採用加速・育成プログラム」では女性教員のためのメンタープログラムが活動の一つの柱である。メンタープログラムを円滑に実施するため、2010年度に男女共同参画推進専門委員会のもとにメンター検討ワーキンググループを設置した。メンター検討ワーキンググループでは、高等教育研究センターと協力しながら、メンタープログラムの企画、運営、評価を行っている。

2011年度（2012年2月現在）は、21名の女性教員から教員メンタープログラムへの申し込みがあり、適切なメンターを紹介した。2011年11月には、利用者アンケートを実施し、メンタープログラムの評価を行った。

申し込み状況、利用者アンケート、事務局に寄せられる声により、成果はさまざまな点で見られる。第一に、メンタープログラムの意義が浸透してきたことである。年々利用者は増加している。同様なプログラムが実施している他大学もあるが、自己応募型（加速・育成プログラム対象者を除く）でこれだけの規模の教員が参加した例は少なく、プログラムの意義が着実に学内に浸透してきていると言える。また他大学からもプログラムに対する情報提供の依頼もある。第二に、メンティ教員にとって、悩みを解決できた、教育や研究を進める上でアドバイスをもらえた、学内のネットワークができたなど、さまざまな面での成果が見られた。アンケート回答者15名中全員のメンティ教員がメンタープログラムに肯定的な評価をした。第三に、メンター教員にとっても、若手から刺激を得られた、自身の過去を振りかえり前向きな気持ちになれたなど、さまざまな意義が見られた。アンケート回答者15名中14名のメンター教員がメンタープログラムに肯定的な評価をした。

さらに、メンタープログラムの運営が評価され、名古屋大学は、ワーキングウーマン・パワーアップ会議の「メンター・アワード2012」の優秀賞を受賞した。

詳細に関しては、第3章の「メンタープログラムによるキャリア支援」および男女共同参画室ホームページを参照されたい。

### 第3節 理系女子育成・支援に関する取組

#### 「名古屋大学若手女性研究者サイエンスフォーラム」および「女子中高生理系進学推進セミナー」

男女共同参画室 三枝麻由美

本学では、「名古屋大学若手女性研究者サイエンスフォーラム」および「女子中高生理系進学推進セミナー」と題したイベントを毎年行っている。両イベントは同時開催され、サイエンスフォーラムは本学の大学院生を中心とした若手の理系女性研究者の支援および交流を目的とし、理系進学推進セミナーでは愛知県近隣的女子中高生を対象に、理系進学の推進を目的とする。この二つの目的を実現するために、本イベントでは、本学の若手理系女性研究者にポスター・セッションの形式で研究発表の機会を与え、その発表を女子中高生が審査するという構成になっている。審査は、女子中高生の他に、理工農系部局の代表者および男女共同参画室員が加わり、行われる。

本年度は2011年11月26日（土）に開催された。本イベントの来場者数は、113名であった（講演者、審査員、スタッフを除く）。本イベントのプログラム詳細は、右記資料を参照とする。

本イベントは二部構成であり、第一部では、女性研究者による特別講演、第二部ではポスター・セッションであった。第一部の特別講演は、下記の二名の研究者により行われた。

土井美和子氏（株式会社東芝 研究開発センター 首席技監）  
「楽しく仕事をしなきゃ、もったいない」

上川内あづさ氏（名古屋大学大学院理学研究科 教授）  
「音を感じる脳の理解に向けて—研究とライフイベントの両立—」



土井氏は、東芝での長年の研究活動およびライフイベントを中心に講演をされた。研究成果が商品化に繋がらない場合も含めて、紆余曲折のある研究活動の体験を紹介され、今日までの研究活動の源は、楽しく仕事をするということであると話された。また、これから大学進学を控える女子中高生に対して、専攻分野が明確に決められない場合は、就職選択の幅が広い理系に進学することをアドバイスされた。

上川内氏は、博士課程→ポストドク→大学教員としての自身のキャリアパスの形成、およびライフイベントとの両立について話された。女子中高生に対しては、キャリアパスの形成にあまり悩まずに、その都度できることをやっていると自ずと道が開かれるとアドバイスされた。

企業で研究活動を行う土井氏、大学で研究活動を行う上川内氏が講演されたことにより、企業と大学での研究活動の違いや、企業と大学と場所が異なっても研究者としてキャリアが形成できること、またどちらの場合でもライフイベントとの両立が可能であることが示された。

本イベントの第二部では、ポスター・セッションが行われた。発表者数は32名であった。

#### ポスター発表者

発表番号	氏名	所属	演題
No.1	徳田直子	工学研究科D3	分子動力学シミュレーションで探る出芽酵母の核内染色体のダイナミクス
No.2	上野ふき	情報科学研究科D2	“環境感情”は可能か？—マルチエージェントシステムを用いた感情システム—
No.3	八木亜樹子	理学研究科M1	分子として表せるカーボンナノチューブ：カーボンナノベルトの有機合成
No.4	Siti Sarah	工学研究科GCOE 研究員	光照射により結合部位が解裂するジブロックコポリマーの相分離構造
No.5	金周慧	情報科学研究科D3	階層型状態遷移図に着目した安全分析手法

発表番号	氏名	所属	演題
No.6	比嘉さくら	生命農学研究科M1	ハイパースペクトラルイメージングによる葉の含水率マッピング ～見えない光で水を見る～
No.7	松岡亜季	理学研究科M2	不斉水素化反応を触媒するルテニウム化合物に関する研究
No.8	伴場由美	理学研究科M1	太陽活動領域NOAA10930における磁束上昇活動とプリフレア発光の関係
No.9	坂本知佳	工学研究科M1	中性子ドシメトリに向けた共鳴イオン化質量分析に基づく <sup>93m</sup> Nb微量分析法の提案
No.10	岡橋さやか	医学部保健学科 助教	高齢者の認知機能評価のためのバーチャル買い物課題の開発
No.11	西尾奈々	理学研究科 研究員	線虫 <i>C. elegans</i> において、新規加水分解酵素AHO-3は行動可塑性を制御する
No.12	細川さとみ 趙博	工学研究科D3 工学研究科M1	環境調和型鉄触媒の開発
No.13	林怡伶	情報科学研究科D1	Mutually orthogonal partially balanced t-designと秘密分散暗号への応用
No.14	日置麻也	医学系研究科D1	加齢や不活動により蓄積される筋内脂肪と筋機能および筋形態との関係
No.15	湊春奈	工学研究科M1	新型原子核乾板を用いた高エネルギー中性子イメージング手法技術の開発
No.16	脇田佑希子	情報科学研究科 技術補佐員	表計算ソフトによるセルオートマトン・シミュレーション
No.17	青木淑恵	工学研究科M2	十億分の一の世界に捕えられた見えない水を見る ～水のナノ科学が示す、新しい材料開発への指針～
No.18	真木祥千子	工学研究科D3	放射光X線回折実験による一次元有機導体 (TMTTF) 2PF6の構造研究
No.19	Ain NaDira	工学部B4	かんきつ類廃棄物からの垂臨海流体による有価物回収
No.20	Sevgihan Yildiz Bircan	工学研究科D3	Production of Hydrogen Gas by Hydrothermal Reaction of Chicken Manure
No.21	布目陽子	工学研究科D3	呼気中アセトンの測定—病気の診断のために—
No.22	Nelfa Desmira	エトピア科学研究所 博士研究員	In-situ Spectroscopic Monitoring of Chemical Species from Combustion of Vegetable Oils
No.23	山田ひと美	生命農学研究科D2	薬用植物由来の多環性化合物ポリガロリドAの化学合成
No.24	太田智美	理学研究科M1	線虫の温度走性神経回路における情報伝達機構の解析
No.25	塚本聡美	理学研究科M1	線虫 <i>C.elegans</i> を用いた記憶の分子メカニズムの解明
No.26	木富悠花	生命農学研究科D3	イネ冠根形成の分子メカニズムの解析とその根系形態改良への応用 ～イネのひげ根の数を制御することでより良い品種を作る試み～
No.27	赤坂茉莉	理学研究科 特任助教	卵の成熟過程では何が起きているのか? ～アフリカツメガエル卵の表層に着目したアプローチ～
No.28	家田菜穂子	生命農学研究科M2	生殖を司る脳内ホルモン—キスペプチンとその受容体
No.29	丹羽亜衣	工学研究科D3	時空間を超えた熱貯蔵/放出を可能とする排熱回収システムの小型化・高出力化の研究
No.30	山西陽子	工学研究科 准教授	低侵襲細胞手術
No.31	美辺詩織	生命農学研究科M2	マウスを用いた連続採血法の確立—小さい体に秘めた大きな可能性
No.32	大河内美奈	工学研究科 准教授	ペプチドアレイによる食物アレルギー解析法の提案

※No.24太田智美さんとNo.29丹羽亜衣さんは当日欠席で、ポスター展示のみの参加。

上記のポスター発表者の中から、来場した女子中高生、講演者、本学の理工農系部局の代表者、男女共同参画室員による投票の結果、下記の4名に名古屋大学総長賞が授与された。受賞者数は当初は3名の予定であったが、僅差の得点者が1名いたため、最終的に4名の受賞者となった。

#### 名古屋大学総長賞 受賞者（4名）

- No.3 八木亜樹子（理学研究科M1）「分子として表せるカーボンナノチューブ：カーボンナノベルトの有機合成」
- No.17 青木淑恵（工学研究科M2）「十億分の一の世界に捕えられた見えない水を見る～水のナノ科学が示す、新しい材料開発への指針～」
- No.27 赤坂茉莉（理学研究科 特任助教）「卵の成熟過程では何が起きているのか? ～アフリカツメガエル卵の表層に着目したアプローチ～」
- No.31 美辺詩織（生命農学研究科M2）「マウスを用いた連続採血法の確立—小さい体に秘めた大きな可能性」

## アンケート結果による分析

### 「女子中高生理系進学推進セミナー」

回答者数 48名 回答率 64.9% (74名の来場者数のうち)

#### アンケートのお願い

本日は女子中高生理系進学推進セミナーにご参加いただきありがとうございます。今後の活動の参考とさせていただきます。下記アンケートにご協力をお願いします。

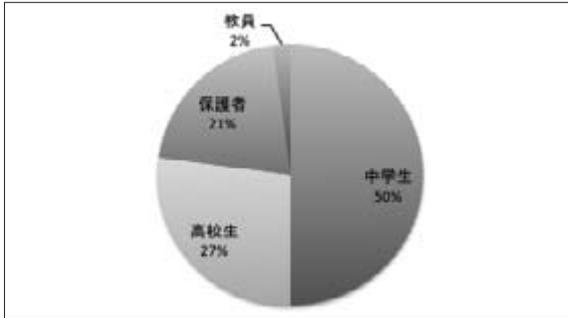
- 1) あてはまるものに○をつけてください。  
① 中学生 ( 年生)      ② 高校生 ( 年生)  
③ 保護者                      ④ その他 ( )
  
- 2) お住まいの地域はどちらですか。あてはまるものに○をつけてください。  
① 愛知県 (名古屋市内)      ② 愛知県 (名古屋市外)  
③ 岐阜県                      ④ 三重県                      ⑤ その他 ( )
  
- 3) 本セミナーをどのように知りましたか。あてはまるものに○をつけてください。  
① ポスター・チラシ                      ② 電子メール・インターネット  
③ 先生・知人・友人等からの紹介      ④ その他 ( )
  
- 4) 本セミナーに参加された理由を教えてください。あてはまるものに○ (複数可) をつけてください。  
① 理系に興味があったため                      ② 名古屋大学に興味があったため  
③ 女性研究者に興味があったため                      ④ 特別講演に興味があったため  
⑤ ポスターセッションに興味があったため      ⑤ 参加無料だったため  
⑥ その他 ( )
  
- 5) 本セミナーの感想を教えてください。あてはまるものに○をつけてください。  
① 良かった                      ② 良くなかった                      ③ どちらとも言えない
  
- 6) 5) でお答え頂いた理由や具体的な感想を教えてください。
  
- 7) ポスターセッションはいかがでしたか。満足度および難易度のそれぞれあてはまるものに○をつけてください。  
(満足度) ① 興味が持てた      ② 興味が持てなかった      ③ どちらとも言えない  
(難易度) ① 難しかった      ② 簡単だった                      ③ ちょうどよかった
  
- 8) 7) でお答え頂いた理由や具体的な感想を教えてください。
  
- 9) セミナーに参加したことで、理系への興味はさらに深まりましたか。あてはまるものに○をつけてください。  
① 深まった      ② 深まらなかった      ③ どちらとも言えない

ご協力ありがとうございました

### 1. 来場者の属性

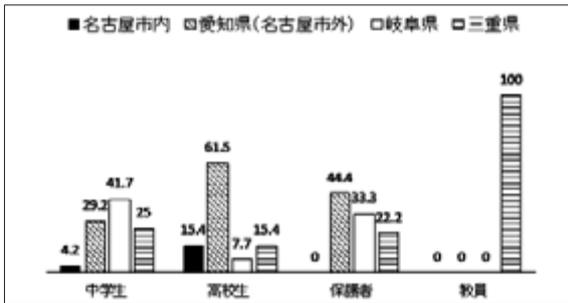
中学生が全体の半数を占め、高校生27%、保護者21%、教員2%であった。

図表1 属性 (N=48)



属性の他に、来場者がどこから来ているかをみると、中学生は岐阜県 (41.7%)、高校生は愛知県 (名古屋市内) (61.5%)、保護者は愛知県 (名古屋市内) (44.4%)、教員は三重県 (100%) の割合が最も高くなっている。名古屋市内の割合は、中学生4.2%、高校生15.4%とあまり高くなく、名古屋市内の女子中学生に対する本イベントのさらなる告知が必要であると考えられる。

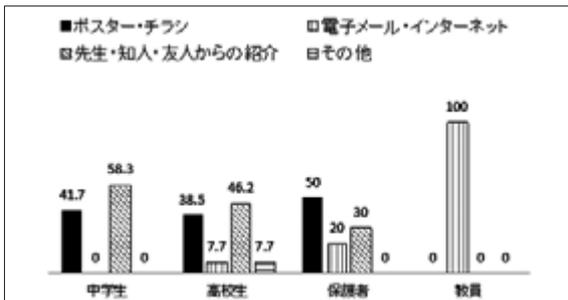
図表2 属性と住まい (N=48、単位%)



### 2. 本イベントをどうやって知ったか

中学生、高校生ともに、「先生・知人・友人の紹介」で本イベントを知った割合が最も高かった。本学近隣の中学、高校に本イベントのポスターやチラシを送付し、それらを学校に掲示してもらおうと同時に、先生からも口頭で紹介してもらおうことが重要であることがわかる。

図表3 本イベントをどうやって知ったか (N=48、単位%)



### 3. 本イベントの感想

「良かった」93.8%、「どちらとも言えない」4.2%、「良くなかった」0%の結果から、来場者は本イベントを好評価したことがわかる。「どちらとも言えない」を選択した2名は、保護者であった。

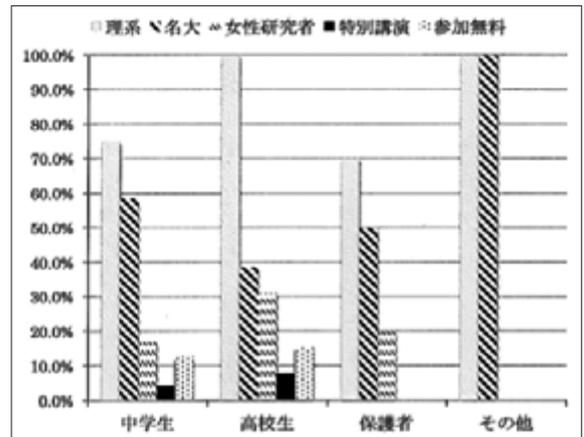
図表4 本イベントの感想 (N=48、欠損値=1、単位%)



### 4. 本イベントの参加理由

「理系に興味があったから」を選んだ中学生は72%、高校生は100%であり、本イベントに参加する女子中高生の理系志望は非常に高いことがわかる。「名古屋大学に興味があったから」を選んだ中学生は58%、高校生は38%でどちらも高い割合だが、とくに中学生の本学志望が高いことがわかる。以上の結果から、本学イベントの来場者は、理系および本学を志望する女子中高生が大半を占めることがわかり、それらの女子中高生に対して、積極的に本学のアピールを行うことが重要である。来年度の本イベントでは、本学の進学課や理工農系部局がブースを設けるなどして、学生の本学への誘致活動を行うことを検討したい。

図表5 本イベントの参加理由 (複数回答、単位%)

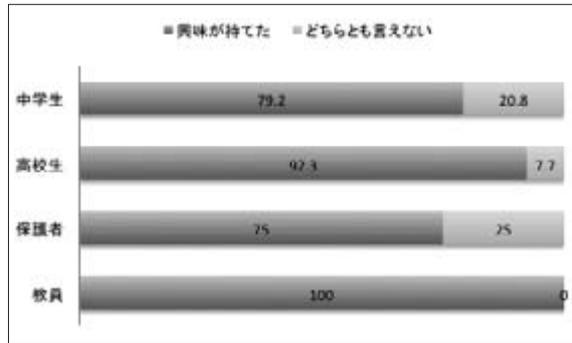


### 5. ポスター・セッションの感想

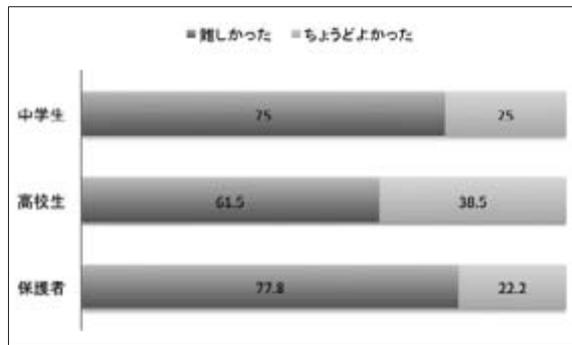
「興味を持てた」と回答した中学生は79.2%、高校生は92.3%で、参加した大半の女子中高生は、ポスター・セッションに興味をもった。ポスターの内容

は「難しかった」と75%の中学生、61.5%の高校生が答えている。ポスターの内容は難しくとも、興味が持てたとほとんどの女子中高生が回答している。

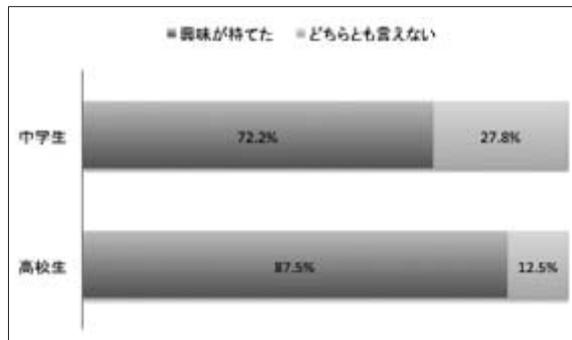
図表6 ポスター・セッションの満足度 (N=48、単位%)



図表7 ポスター・セッションの難易度 (N=48、単位%)



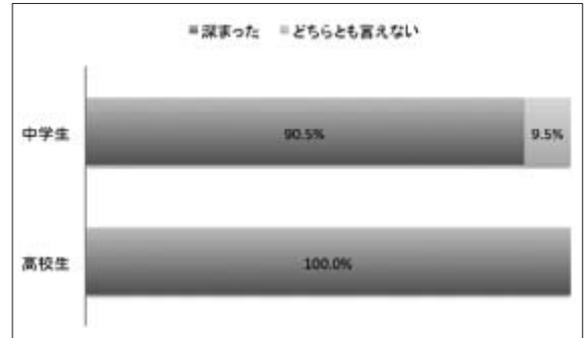
図表8 ポスター・セッションを難しかったと回答した女子中高生の満足度 (N=24、単位%)



## 6. 理系への興味

本イベントに参加して理系への興味が深まったかを尋ねたところ、90%以上の中学生、100%の高校生が理系への興味が深まったと回答している。

図表8 ポスター・セッションを難しかったと回答した女子中高生の満足度 (N=24、単位%)



## 特別講演

女子中高生が、理系に進学したいという漠然とした夢から、特別講演者の体験談を聞き、理系に進学してキャリアを築くことができるんだと実感したという複数の声があった。どの声も特別講演者の話に興味深く耳を傾け、「わかりやすかった」、「自分もやればできるんだ」と好意的に受け止めており、特別講演者が女子中高生のロールモデルになったことがわかる。

## ポスター・セッション

内容はあまりわからなかったが、発表者が熱意を持って、丁寧に説明したことを明記する女子中高生の自由回答が非常に多く見られ、発表者の研究に対する情熱や探究心に感銘を受けたことがわかる。



## 1. 回答者の属性

回答者数5名の内訳は、学部生1名、大学院生2名、関係者1名、その他1名であった。ポスター・セッション発表者のほとんどがアンケートに回答しておらず、回答率が非常に低い。来年度は、発表者へのアンケート記述を徹底することが必要である。

## 2. 本イベントをどのように知ったか

学部生は「ポスター・チラシ」で、2名の大学院生はともに「先生・知人・友人等からの紹介」、その他は「ポスター・チラシ」であった。

## 3. 本イベントの参加理由

学部生1名と大学院生2名の計3名が回答した。「女性研究者支援」を選択したのは、学部生と大学院生1名で、「女性研究者交流」を選択したのは、大学院生1名であった。

## 4. 本イベントの感想

学部生が「どちらとも言えない」と回答した以外は、全員「良かった」と回答していた。

## 5. 自由回答の分析

### 特別講演

「興味深かった」、「講演を聞いて励まされた」、「ワークライフバランスの苦労や工夫についてもう少し聞きたかった」との回答があった。概ね、特別講演を好評価していることがわかる。

### 本イベントの改善点

「講演時間がもう少し長いとよいと思った」(大学院生)、「もう少し多くの講演者の話を聞いてみたかった」(大学院生)、「講演とポスター・セッションの時間が短くなってしまった」「ポスター・セッションの会場が狭かった」(関係者)との回答があった。

### 諸外国と比べて日本の女性研究者が少ない理由

「女性は弱いとか受け身の姿勢があると思う。違う者を排除しようとする社会的な風土が変わらなければ駄目」(大学院生)、「女性らしく生きるという意識が高い」(大学院生)、「両親、学校、社会の偏見。結婚相手との出会いが少なそうなどの女性個人の考え」(学部生)との回答があった。

### 女性研究者支援に必要なもの

「異なるものを受け入れること」(大学院生)、「精神的な縦と横のつながり」(学部生)との回答があった。

### 今後期待するイベントのテーマ

「研究室見学(実際に現場を見れば、興味を持つ人が増えると思う)」(大学院生)、「子育てと研究の両立」(大学院生)との回答があった。

## アンケート結果からの示唆

特別講演者やポスター発表者が来場した女子中高生に対してロール・モデルとなり、理系進学を漠然としたものから、明確なものに少し変化していることがわかり、本イベントが、女子中高生の理系進学推進に良い刺激剤となっていると考えられる。今後は、女子中高生に理系進学についてさらに具体的に考えてもらえるよう、本学の進学課や理工農系部局とタイアップをして、本イベントを充実させることに努めたい。また、今回のアンケートでは、ポスター発表を行った本学の若手女性研究者の声がわからなかったため、来年度以降は、彼女らにアンケートに回答してもらうことを徹底させたい。

## 2. 理系女子学生コミュニティ「あかりんご隊」の活動支援

本年度、あかりんご隊のおもな活動は以下の通りである。科学実験については、技術職員による後掲Ⅱ「あかりんご隊への技術支援」とあわせてご覧いただきたい。

### I. あかりんご隊の活動概要

#### ●「ポピンズアフタースクール教育プログラム」@ポピンズアフタースクール

出張科学実験：染色実験2011年7月1日（金）

本年度新たな実験テーマとして、植物を使つての染色実験に取り組むことになった。

技術職員の協力を得て模擬実験を行い、最初の実験演示活動を学内学童保育所ポピンズアフタースクールで行った。当日は技術職員によるサポートのもと、あかりんご隊がこどもたちとともに実験を進めた。染色という科学反応についても、パワーポイントによる説明を行った。



#### ●「マリー・キュリーポスター展」@名古屋大学野依記念物質科学研究館

ポスター展示2011年7月21日（木）～8月31日（水）

出張科学実験：染色実験 2011年7月27日（水）、8月24日（水）

マリー・キュリーのノーベル化学賞受賞100年目を記念して名古屋大学野依記念物質科学研究館で開催された「世界化学2011 特別企画 マリー・キュリーポスター展」に、あかりんご隊の活動紹介ポスターを展示するとともに、2回にわたり地域の小学生を対象とした科学実験を行った。

第1回目は小学1～2年生約20名を対象とした「スライムとダイラタントを作って遊ぼう」、第2回目は小学3～6年生約20名を対象とした「身近にあるもので布を染めよう」をそれぞれ技術職員によるサポートのもと、あかりんご隊がパワーポイントを用いた説明とともに、参加者にアドバイスを加えながら体験させた。



●「女子学生相談コーナー in オープンキャンパス」@名古屋大学豊田講堂  
進路相談2011年8月9日（火）～8月11日（木）

名古屋大学オープンキャンパスにて、理系に進路を希望する高校生向けに相談コーナーを開設した。豊田講堂ホワイエ内のブースには、理農工学部の学生の1日24時間の生活を分かりやすくまとめたポスターも展示した。相談に訪れた高校生は3日間で約100名、「理農工学部の違い」「入学後の学生生活（下宿・サークル活動）について」「教員免許の取得方法」などの質問が寄せられ、あかりんご隊と男女共同参画室員が対応した。



●「週末ワークショップ」@トヨタテクノミュージアム産業技術記念館  
出張科学実験：染色実験2011年8月27日（土）

トヨタテクノミュージアム産業技術記念館で、週末ワークショップのひとつとして、「気分は職人！染色でオリジナルエコバック☆」と題する染色実験を行った。実験は午前と午後の2回、いずれも小学4年生～中学3年生各20名が対象であった。あかりんご隊が作成した科学反応の過程と染色の歴史についてのパワーポイント資料は、分かりやすいと好評であった。実験のサポートは技術職員が、トヨタテクノミュージアムとの交渉連絡は男女共同参画室員が担当した。



当日、子どもたちに付き添っていた保護者向けに行ったアンケートの結果は以下の通りである。(有効回答27名)

- 1) ワークショップの内容については、いかがでしたか？  
非常に有効／0人   簡単／2人   ちょうど良い／24人   やや難しい／0人  
かなり難しい／0人
- 2) 保護者の方がご覧になって、お子様の満足度はいかがでしょうか？  
大変満足／8名   満足／14名   普通／3名   やや不満／0名   不満／0名
- 3) ワークショップでのスタッフの対応、運営方法はいかがでしょうか？  
大変満足／11名   満足／13名   普通／3名   やや不満／0名   不満／0名
- 4) 本日参加されたプログラムの感想、ご意見がございましたらご記入下さい。  
  - ・分かりやすく説明してもらえて、楽しく手作りできた。
  - ・夏休みの良い体験になりました。ありがとうございました。

- ・ただ染めるというのではなく、どうして染まるのかを教えてもらえて良かったです。大人が見ていても楽しかったです。
  - ・大学生の人たちが親切に指導してくれたと思います。説明も分かりやすかったです。中学生には少し物足りない感じもしました。
  - ・分かりやすく丁寧な説明で良かったと思います。時間配分も慌ただしくなく、ちょうど良く思いました。
  - ・学生さんによる解説もきちんとしていて分かりやすく、とても良かったと思います。自分だけのエコバックはとてもいい記念になりました。
  - ・きめ細かな指導でよかったです。
  - ・子どもにも分かりやすく、染色の説明をしていただいて、良かったと思います。
  - ・楽しく勉強できたと思います。
  - ・実験感覚で楽しめてよかったです。
  - ・すごく子どもが楽しんでいました。家でもやってみたいと思いました。ありがとうございました。
  - ・染色の始まりなど、小学生にも分かりやすく作ってあり、良かったと思います。
  - ・スタッフの皆さんの笑顔がステキです。
  - ・今回2色の染め物だったが、もう少し種類があれば良かったのでは。
  - ・染色の技術、その他、色の変化等、子どもに分かりやすくて良かったです。
  - ・クイズなどもあり、面白かったです。
  - ・鍋に入れた時の色や、液につけた時の色の変化を、親も近くで見ることができると良かったです。子どもたちはみんな楽しそうで良かったです。
  - ・子どもの様子が席から遠いので、よく見られませんでした。
  - ・とても楽しそうに参加していたと思います。色が2つともちょっと渋かったかな。いろいろな実験をまた体験させてやりたいと思いました。
  - ・「エコバックを染めて終わり」だけでなく、スライドを使って、染め物の歴史なども学べて楽しかったです。
  - ・なかなか体験できない理科の実験のような染色体験で良かったです。名大の学生の方の指導や注意も良かったと思います。
  - ・大学生の皆さん、ありがとうございました。
  - ・最後まで、どんなモノにできあがるかわからないドキドキ感やワクワク感があり、やっている本人も、きっと楽しく時間を過ごすことができたろうと思います。
- 5) ご興味のあるジャンルがございましたらご記入下さい。
- ・ソーラーパネルを使った動くものを作れるといいです。
  - ・木の枝やわりばしなど身近なもので簡単にできる手工芸。クリスマスリース。正月の松飾り。ハロウインの飾りなど。
  - ・アクセサリ作りなど。
  - ・子どもが電子工作が好きで、ハンダ付けのある工作を企画して下さい。
  - ・以前スタンドグラスの企画がありましたが、またやってもらいたいです。
  - ・磁石、化石。
  - ・機械工学的なものであれば。
  - ・食(料理)
  - ・ロボット作り、または操作。
  - ・アロマに興味があります。今回のように、自分だけの世界に1つだけのモノを作ったりすることができないかなと思います。

●「青少年のための科学の祭典2011」@名古屋市科学館

出張科学実験：スライム実験2011年10月1日（土）～10月2日（日）

毎年名古屋市科学館で開催される「青少年のための科学の祭典2011名古屋大会」に2日間参加し、スライム実験を行った。両日で約400名があかりんご隊ブースを訪れ、スライム作りを体験した。科学的な説明には反応の過程を手描きしたスケッチブックを用い、説明者の横ではあかりんご隊が実演をしたうえで、参加者に体験させる構成だった。本イベントには、大学、企業なども参加しており、実験を交代制とすることで、休憩時間にはあかりんご隊も各ブースを見学した。実験サポートおよび主催者との連絡は、技術職員と男女共同参画室員が担当した。



●「ホームカミングディ・科学実験を体験しよう！」@名古屋大学野依記念学术交流館

出張科学実験：スライム実験2011年10月15日（土）

「地球と大学で考える 未来を耕す【人・緑・食】」をテーマに行われたホームカミングディ2011において、来校者とともに「ぶにぶにスライム作り」を行うとともに、特設ステージ上で液体窒素を使った実験を披露した。会場にはこども用の白衣も用意し、「1日博士」の写真撮影コーナーも設け、家族連れが楽しめるよう工夫した。

当日行ったアンケートの結果は以下の通りである。（有効回答39名）



1) 学年

- 幼稚園・保育園 / 3名    小学1～3年生 / 20名    小学4～6年生 / 13名  
 中学生 / 1名    高校生以上 / 10名

2) 性別

- 男性 / 21名    女性 / 23名

3) あかりんご隊の実験に参加しようと思ったきっかけ

- 科学実験に興味があった / 24名    家族にすすめられて / 8名  
 たまたま / 6名  
 その他 ・昨年参加して楽しかったから。  
・郵送のリーフレットを見て。  
・昨年も参加した。  
・HPを見て。

#### 4) 科学実験の感想

(満足度) 楽しかった/39名 興味をもてなかった/0名 どちらでもない/0名

(難易度) むずかしかった/3名 ちょうどよかった/27名 簡単だった/8名

#### 5) 科学実験を体験したことで、科学への興味はさらに深まったか。

深まった/34名 深まらなかった/0名 どちらともいえない/4名

#### 6) 今回の実験についての感想、今後やってみたい実験や実験企画。

- ・家ではあまり作ったりできないスライムを作れてとても良かったです。そして楽しかったです。
- ・スライムが2つ(やわらかいのとかたいの)作れてうれしかった。
- ・スライムのやわらかいのが作れて良かった。
- ・ヨーグルトがおいしかった。
- ・企画体験ありがとうございました。小4年生保護者ですが、子どもにとってはやや言葉が難しく感じました。
- ・3歳の子もできる内容で良かったかです。
- ・今後がんばってください。
- ・すごく楽しかった。また行きたいと思った。
- ・小さい物を見たい。
- ・ポピズのみたまねぎ染めの日にお休みしてしまったのですが、またいろいろ実験を教えてください。とても楽しいようです。
- ・土砂崩れの実験。
- ・ロボットの操作。
- ・イオン化傾向を使った金属樹の継子絵。
- ・酸とアルカリ。
- ・光や音の出る物が好きです。

### ●「名古屋大学若手女性研究者サイエンスフォーラム」および「女子中高生理系進学セミナー」@ES総合館会議室 ポスター展示と進学相談2011年11月26日(土)

理系進学を希望する女子中高生に向けて、ポスターセッション会場にてあかりんご隊の活動を紹介するポスターを掲示し、参加者の進路相談を行った。

### ●第5回理系女子学生エンカレッジ交流会「名大リケジョによるTalk Night」@理学南館1階 2011年12月15日(木)



第5回となる今回は、「人と人のつながり」をテーマとしたパネルディスカッションと、「リケジョの本音女子トーク」の二部構成。前半テーマトークでは、濱口道成総長、東村博子准教授・男女共同参画室長、赤坂茉莉助教を講師に招き、研究者としてキャリアを重ねていくなかでの転機や人との出会いなどについて伺った。後半は、ケーキやお菓子、飲み物を手にしながら、ゲームありおしゃべりありの理系女子交流タイムとなった。交流会開催にあたっては事前に、あかりんご隊有志一同が、濱口総長に会の趣旨と年間の活動についての説明を行うとともに、理系女子学生の現状について意見を述べた。



あかりんご隊によるアンケートの集計結果は以下の通りである。

1. 今日は楽しんでいただけましたか	はい まあまあ いいえ	20 1 0
2. 一番楽しかったイベントに○をつけてください	パネルディスカッション クイズ 学部交流会 その他	11 2 5 2 (全部)
3. このイベントをどこで知りましたか	チラシ ポスター 友達/先生から聞いた 通りかかったらやっていた その他	5 8 7 0 1
4. 参加した目的を教えてください	なんとなく タイトルに惹かれて パネリストの方が魅力的だった 友達の輪を広げるため その他	6 5 4 6 1 (ケーキ)
5. 来年も同じようなイベントがあれば参加したいですか	是非参加したい 日程が合えば参加したい 参加したくない 卒業してしまう	6 14 0 1
6. 学部、学科を超えた女子交流会を行う時期に適切なのはいつだと思いますか	春 (4月～5月) 夏 (夏休み前) 冬 (クリスマスの時期)	8 2 11
7. 女子学生・女性研究者が意見や悩みを交換できるようなサイトやメーリングリストがあったら利用してみたいですか	はい いいえ	15 6
8. 今後あかりんご隊の活動に参加してみたいですか	はい いいえ	9 11

<p>パネル ディスカッション</p>	<p>とてもよかったです。色々な意見をいただいたり、自分が今持っている悩みにすごく役にたつと思います。</p> <p>総長のおはなしが面白かったです。</p> <p>いろいろな話が聞けて楽しかったです。総長の話をすごく近くで聞けたのも良かったです。</p> <p>研究者としてのお話だけでなく、パートナーとの馴れ初めまでお聞きできとても楽しかったです。総長のお話をお聞きできる貴重な機会をいただけて嬉しかったです。</p> <p>本とかテレビとかでは未来をしっかりと描くことが大切とかいってたりしますが、今やれることからというのが心に残りました。</p> <p>すごくためになりました。元気をもらえた気がします！ありがとうございました。</p> <p>普段聞けない話が聞けて面白かったです。</p> <p>先生たち（特に総長先生）のまさかの話が聞けて面白かったです。先生たちへの質問も良かったです！もっと堅いものを想像していましたが、ゆるーく楽しめました。</p> <p>お話がとても面白かったです。総長先生の馴れ初めとか興味深かったです。</p> <p>ごめんなさい、途中から来ました…</p> <p>happy</p> <p>普段聞けないようなお話が聞けて面白かった。</p> <p>総長の話がとても興味深かった。東村先生のお話もとても力強く、お二人の話に励まされました。</p> <p>今後の参考になるような貴重な話がたくさん聞けて良かったです。</p>
<p>次回聞いてみたい テーマ</p>	<p>研究生生活に関係あるテーマ</p> <p>就職活動に関するテーマ</p> <p>今興味があること</p> <p>研究内容について</p> <p>研究内容について</p> <p>女子学生の本音的な感じ。学部生～ドクターまでの方々のディスカッションみたいな感じで。</p>
<p>今後やってほしい 交流会</p>	<p>都合が合えばどんな交流会でも</p> <p>学部ごと</p> <p>学部ごと</p> <p>学部ごと</p> <p>全学年、学部ごっちゃにすると新鮮で良い</p> <p>学部、学科</p>

●「科学三昧inあいち2011」@自然科学研究機構岡崎コンファレンスセンター  
進学相談2011年12月27日（火）

昨年に引き続き行われた科学三昧に参加し、佐々木成江理学研究科准教授とともに、理系への進学を希望する高校生の進路相談にあたった。

●内閣府主催「第1回 女性の活躍促進プラン学生コンペティション」@東京ウィメンズプラザ  
2012年3月7日（水）

内閣府が主催する「第1回 女性の活躍促進プラン学生コンペティション」が開催され、あかりんごの学部生3名（南明希さん、呉瓊さん、山下侑里恵さん）が本選に出場し、第2位に選ばれた。同コンペティションは全部で29エントリーがあり、そのうち9チームが本選に進んだ。



●メディアによるあかりんご隊の活動紹介

濱口総長との面談およびエンカレッジ交流会を取材した記事「なでしこの時代③ 名古屋大リケジヨ集団あかりんご隊」（2012.1.4）が毎日新聞に掲載されたほか、電話等による問合せもあり、年々認知度が上がってきている。

2012年(平成24年)1月4日(水) 愛知 18

「なでしこの時代」

名古屋大リケジヨ集団 あかりんご隊

研究者の未来に希望

なごや支局 〒440-8001 名古屋市中区東 木2の3の1 ☎052(324)1510 ☎052(360)3571

岡崎支局 〒444-0804 岡崎市明大寺町 西112の12 ☎0564(52)1188 ☎0564(37)1401

豊橋支局 〒440-0806 豊橋市八町南2-4-2 ☎0532(34)5208 ☎0532(37)2000

報道センター ☎052(324)1101 ☎052(324)7415

広告 中野毎日出版社 ☎052(383)5881 ☎052(383)5870

## Ⅱ. あかりんご隊への技術支援

永田陽子<sup>1)</sup>、吉野奈津子<sup>2)</sup>、鳥居実恵<sup>1)</sup>、西村真弓<sup>1)</sup>、佐藤絢子<sup>1)</sup>

1) 全学技術センター工学系技術支援室

2) 全学技術センター教育・研究技術支援室

### 【初めに】

あかりんご隊の活動の一環として、身近な理系女子のロールモデルとして活躍し、また最近の子供の理科離れに対して科学に対して理解を深めてもらう事も含め、一般向けの科学実験演示を行っている。この実験演示は、平成20年度に外部より男女共同参画室あかりんご隊に対して実験演示要請があった事から始まっている。しかし、当時の男女共同参画室には、多人数向けの安全かつ一般の方向けに科学に興味を持たせる実験演示の実演については経験が無かった。そのため、学生実験などで多人数への実験指導を業務として行っている技術職員へ実験演示の依頼があった。

平成23年度のあかりんご隊の年間の実験演示活動は、前年度3月に次年度の実験テーマを打合せによって決めた。この時提案されたテーマは、1. 粘菌実験、2. 液滴実験、3. クロスカップリング反応実験、4. 染色実験、5. 合成実験（スライム作成）、6. 液体窒素を使用した実験などが挙げられた。これらの実験テーマのうち、実験の難易度、科学として面白みがあるか、安全であること、会場の大きさ、参加者の人数、一定の時間内に完了すること、コストの問題、一般の方にも興味を持ってもらえるテーマかどうかなどを検討し4. 染色実験、5. スライム作成、6. 液体窒素を使った実験を採用する事になった。これらの実験については、まず技術職員で何度か検討を行い、実際に上記の条件を満たす事が出来るか確認を行った。

### 【平成23年度の実験演示内容】

平成23年度にあかりんご隊が行った実験演示を次の通り示す。

#### 1. 世界化学年2011特別企画【夏休み子供化学実験ショー】

日時：第1回目：平成23年7月27日（水）13：00－15：00

第2回目：平成23年8月24日（水）13：00－15：00

場所：野依記念物質科学研究館

第一回実験テーマ：スライムとダイラタントを作って遊ぼう☆

第二回実験テーマ：身近にあるもので布を染めよう

第一回目夏休み子供化学実験ショーでのスライムはPVA合成のりと過飽和ホウ砂水からつくられる。PVAとホウ砂の合成物の間にどのくらいの水が入るかにより、スライムの性質が異なってくる。この性質を生かして、粘性のある流動体のスライムと、スーパーボールのように弾むスライムの二種を作り、参加者に比較させた。

最後に参加者にも分かりやすいような簡単な実験原理を講義して終了した。

以下、第一回目夏休み子供化学実験ショーの実験アンケート結果である。

#### 《面白かったこと》

- ・むにゅむにゅして楽しかった。
- ・作った後が楽しい。
- ・量をはかるのが面白かった。
- ほう砂をはかる、水をはかる、スポイトを使う
- ・スーパーボールが弾むのが面白かった。

#### 《難しかったこと》

- ・やわらかくてべたべたするところ。
- ・風船をふくらますところ。(最後にはほぼ全員ふくらますことができた)
- ・手についたのをとるのが難しかった。
- ・スーパーボールがほろほろで固まらなかったところ。

第二回目の「身近にあるもので布を染めよう」と次に述べるトヨタテクノミュージアムでの「気分は職人 染色でオリジナルエコバッグ」については、最後に述べることとする。

## 2. トヨタテクノミュージアム

日時：平成23年8月27日（土）10：00－12：00、14：00－16：00（入れ替え制）

実験テーマ：気分は職人 染色でオリジナルエコバッグ



図1. 絞り模様を作成する



図2. 完成した絞り模様

## 3. 科学の祭典

日時：平成23年10月1日（土）、2日（日）10：00－17：00

場所：名古屋市科学館

実験テーマ：とろとろスライムとぼんぼんスライム

参加人数：約400名

1の【夏休み子供化学実験ショー】とほぼ同様であるが、人数が多いため粘性のある流動体のスライムか、固いスライムのどちらかを選んで作るだけとした。

## 4. 名古屋大学ホームカミングデー

日時：平成23年10月15日（土）10：00－15：00

場所：名古屋大学

実験テーマ：液体窒素で遊ぼう

液体窒素はマイナス196度の低温の物質なので扱いに注意する必要がある。また、気化した窒素が充満し窒息する危険性があるので、酸素センサーを常備しながらの実験とした。今回は、液体窒素の性質を生かして、身近な物を凍らせて物質の変化を見る、液体から気体へ体積が変化する事を利用して視覚的に体験させる、低温にすることで化学反応を遅らせるなどの実験を行った。使用した物はチシャ、バナナ、風船、ヨーグルトなどである。

この中でも視覚的に一番おもしろかったのは風船だった。液体窒素を使用した実験は、本来、参加者が実際に体験する事が一番興味を持てると思ったが、ホームカミングデーでは、参加者の年齢層、参加者数の予測ができなかったため、ステージでの演示する方法を取った。

### 【染色を実験題目の一つとして完成させるまで】

今回もっとも準備に時間を要したのが染色である。染色は裸火、熱湯を使用することから安全面での配慮が必要であった。また、大量に水を使用し、人数に適した水場の確保のため会場設営に気遣う必要があった。今回、染色ではなるべく身近にあるものを使用し、家庭で再実験ができるよう、集めやすく参加者にも身近なタマネギの皮を利用することにしたが、予備実験を始めた4月は茶色のタマネギの皮が最も手に入りやすい時期で材料の確保に苦労した。その他の材料も家庭で用意できるものであることを心掛けた。

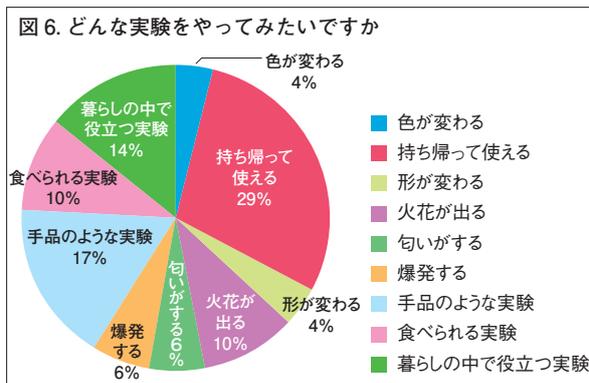
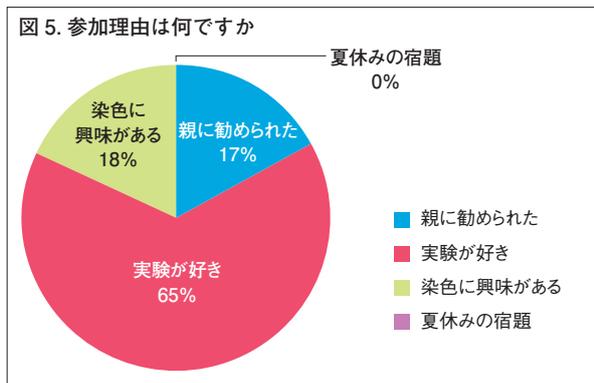
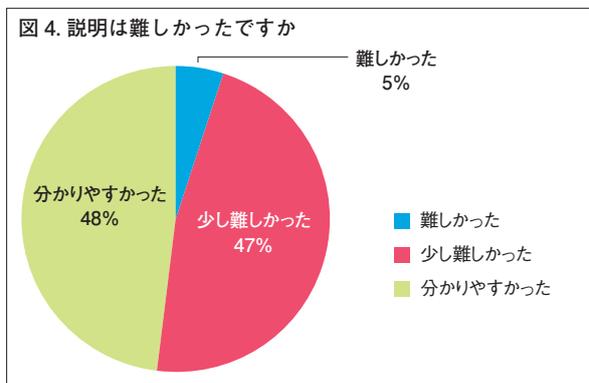
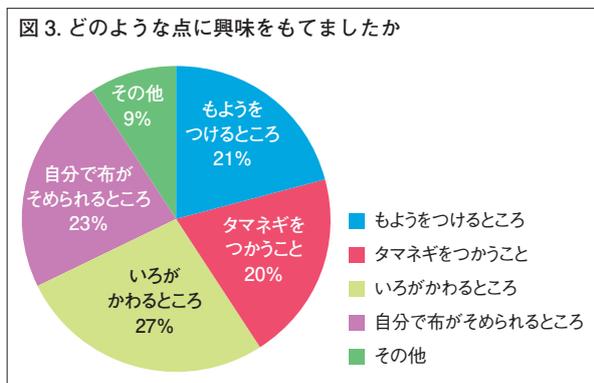
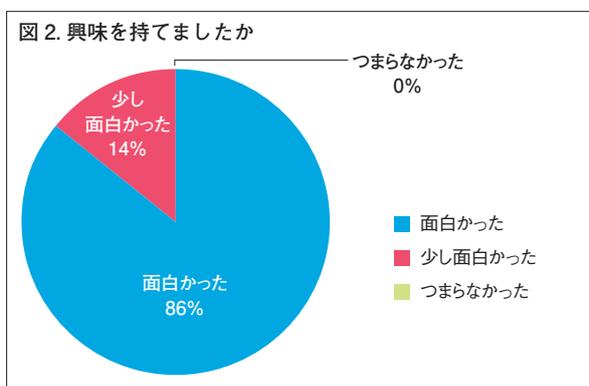
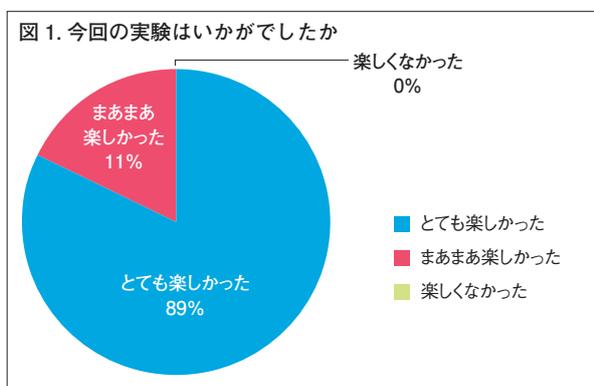
予備実験ではタマネギの皮の必要量、皮の種類、染める回数、媒染剤などの検討を行った。自然のものを利用するために起こる発色の度合いの差を、なるべく均一にする工夫も必要であった。

季節的に入手困難であった茶色のタマネギの皮の代わりに、新タマネギの皮で試し、同様に染めることができることを確認できたので、新タマネギを含めてタマネギの皮を集めた。染めた色を繊維に固定する媒染剤は、アルミニウムと鉄を利用することにし、アルミニウムは焼きみょうばん、鉄は錆びたくぎを酢水に入れて作ったものを使用することにした。きれいな青色の発色が見られる銅の利用も検討したが、銅の廃液は有毒であり、処分に難しいため今回は使用を中止した。染色した布を乾燥させると色があせてしまうという問題は、材料の量、媒染の量、染め時間、乾燥方法を検討することにより克服した。絞り模様をつける作業台と、火や熱湯を使用する染める作業台は別個に設置し、事故を防ぐため火や熱湯には必要以上に接触させないようにした。絞りの模様はごく簡単なものを数種紹介するに留めたが、複数のしぼり方を組み合わせて参加者たち自身で様々な模様を工夫する様子が見られた。

イベント時には最初に染めた布のサンプルを見せて、どちらの色で染めるのかを選んでもらった。ほとんどが黄色で、褐色を選択する参加者は1割程度であったが、媒染をした際に大きく変化の出るのは鉄媒染で、すごいという歓声と共に「茶色もいい色だね」との意見が多かった。

布を染めている待ち時間の間に簡単な原理について講義を行った。スライドではどうして布が染まっていくのか、タマネギで染めた後にどうして媒染という作業が必要であるのかを説明した。その他身近にある染められる材料とその色の紹介、染色の歴史を紹介することで、染色が単なる作業ではなく、化学的な変化の積み重ねであることを伝えた。

例としてトヨタテクノミュージアムにて染色実験の参加者のアンケート結果を下記に示す。



以下はアンケートのコメント欄に記載されていたものである（原文のまま）。

\*\*\*\*\*

- ・みんなやさしい！！しんせつ
- ・クイズみたいな説明だったのであきなかったし、とてもおもしろかった
- ・二回目だったけど1回目学校でやったとき、ハンカチで今回マイバックで少しむずかしい
- ・みのまわりにあるようなものでつくれてよかった
- ・ほかにもいろんなじっけんがしたい
- ・楽しかった！（顔文字つき）
- ・しっばいしなくてよかった
- ・楽しかった！
- ・楽しかったからまたやれるきかいがあったらやりたいです！
- ・たのしかったです！ゴムをつけたところが白くなってふしぎでした。
- ・絞りをしてハンカチはつくったことがあったけど、エコバックが作れてよかった。
- ・あらったらうすくなる

以上、アンケートからも分かる通り、実験演示の参加者に満足してもらえたようである。またあかりんご隊のメンバーにとっても良い経験ができたかと思う。我々にとっても実験の組立、飽きさせないような工夫、保護者の方までを含めた幅広い年齢層への実験原理の講義など、染色を実験題目として確立していく過程で多くの知見を得られた。



図3. 発色の違いの検討結果



図4. 出来あがったエコバックを持つての記念撮影

## 第4節 学内外における男女共同参画ネットワークの構築

### 1. 地域ネットワーク

#### 1) 「名古屋市男女平等参画推進会議（イコールなごや）」への参加

本会議は、平成9年に設置された「男女共同参画社会」をめざす市民各界各層の連携組織であり、愛称を「イコールなごや」としている。女性団体・経営者団体・労働団体・地域団体・教育・マスコミ・有識者・行政機関等の団体を代表する45名の委員により構成されており、家庭・地域・職場・教育など、あらゆる分野への男女共同参画の推進に努めている。平成23年度は6月23日に第1回、2月13日に第2回が開催され、以下の議事・報告が行われた。

#### 第1回（6月23日）

##### 1. 名古屋市男女平等参画基本計画2015について

平成13年に策定された「男女共同参画プランなごや21」の計画期間が、平成22年度で満了するのに伴い、新たに策定された「名古屋市男女平等参画基本計画2015」に関する説明が名古屋市より行われた。

本基本計画は、「男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現」を目的とするものであり、実効性を高めるために、①女性に対するあらゆる暴力を根絶する、②男女平等参画の理解を定着させる、③男女がともに仕事と家庭・地域生活を調和させることを支援する、④名古屋市役所における男女平等参画を一層進める、の4項目について特に重点的に取り組むものとなっている。

席上、とくに①の関連資料として、DV解説資料や、夫や恋人の暴力から女性と子どもを守るためのシェルターに関する資料が配付された。

##### 2. 平成23年度男女平等参画推進室の主な事業について

本年度、男女平等参画推進室の主な事業は、①男女平等参画審議会の開催、②男女平等参画推進協議会の運営、③男女平等参画推進会議（イコールなごや）の運営、④男女平等参画苦情処理制度の運営、⑤男女平等参画推進の基礎資料の作成、⑥男女平等参画推進にかかる啓発事業、⑦女性に対する暴力の防止対策、⑧男女平等参画推進センター（つながれっとNAGOYA）の運営、⑨ホットライン事業、⑩つながれっとNAGOYA相談室の運営の9つであり、それぞれの概要の説明があった。⑥に関しては、「男女平等ハンドブック」としての小学生向け教材の新規作成、⑨に関しては、「男性相談」・愛知県弁護士会との共催による「女性の権利110番」・「ガールズホットライン」といった新規事業が紹介された。

##### 3. 平成23年度男女平等参画推進センターについて

名古屋市男女平等参画推進センター、通称「つながれっとNAGOYA」主催の各種支援プログラムについての紹介がなされ、利用案内や講座プログラムが配布された。

##### 4. 女性の視点から見た被災地の現状報告について

平成23年3月11日に起こった東日本大震災に関連して、名古屋市が支援する被災地陸前高田市の現状が女性支援の観点から報告された。

「陸前高田市の避難所に見る女性支援」としては、①女性更衣室、②授乳場所、③生理用品の配布、④プライバシーの確保（間仕切り）、⑤運営スタッフの課題の4項目である。なかでも⑤については、自主的に運営組織される避難所の場合、主体となりやすい町内会的な組織は、もともと女性の参画が少ないことから、避難所運営にあっても女性特有のニーズが反映されにくいという問題点が指摘された。

#### 第2回（2月13日）

##### 1. 女性の活躍推進企業認定・表彰式について

女性がいきいきと活躍できるような取組を行っている企業を名古屋市が認定・表彰する「企業力アップのカギは女性力！名古屋市女性の活躍推進企業認定・表彰制度」の平成23年度表彰企業の発表があった。

## 2. 外部評価について

女性会館と男女平等参画推進センターを対象とする外部評価が行われた。市民判定員による判定の内訳は、女性会館が廃止9件、見直し6件、継続1件、男女平等参画推進センターが廃止5件、見直し8件、継続3件で、それぞれが主催する講座等に重複が見られることから、事業を整理すべきとの意見が総務局より出されたとの報告があった。出席者からは、設立当初の理念を再確認すべきこと、存続に向けて協力を求めるとの発言があった。

## 3. 小学生向け男女平等参画教育資料カード「たいせつなこと」について

名古屋市総務局総合調整部男女平等参画推進室発行による「学校と家庭で考える男女平等参画 たいせつなこと」が配布された。同カードは低学年向けで、「将来を担う子どもたちに、小さな頃から『性別にとらわれない生き方』や『個性や能力を伸ばし、可能性を拓ける生き方』が大切なことだと知っていただくとともに、誰もがかけがえない大切な存在であることを感じていただくため」という趣旨のもとに作成したとの説明があった。

## 4. 名古屋市配偶者からの暴力防止及び被害者支援基本計画（第2次）について

「名古屋市配偶者からの暴力防止及び被害者支援基本計画（第2次）（案）について」が配布され、意見の募集があった。

## 5. 被災女性支援事業「ほっとスペース」について

東日本大震災の被災地より避難されている女性向けに開設された「ほっとスペース」と、同スペースでこれまで行われたメニューおよび今後の予定が紹介された。

## 6. 改選に伴う次期委員の推薦について

各団体向けに、平成24年度委員の推薦依頼があった。

以上の議題に加えて、全出席者が自己紹介を行うとともに、所属する団体の活動報告および本会議への要望等を行った。

## 2) 大学内学童保育所設置に関する情報交換

平成23年11月22日、椋山女学園教職員3名による本学学童保育所ポピンズアフタースクールの見学が行われ、保育主任および男女共同参画室員が、学童保育の現状、開所に至る経緯、運営方法等の説明にあたった。国立と私立の違いはあるものの、同区内という近隣の教育機関同士、今後は学童保育所を共通項とする形での地域連携について、情報交換と交流を深めていくことを確認し合った。

## 2. 大学間ネットワーク

名古屋大学における男女共同参画に関する情報提供として、「大学教育改革フォーラム in 東海 2012」（平成24年3月3日、名古屋大学ES総合館）で、以下のポスター発表を行った。

●ポスター題目「世代をつなぐ学びの場 ～名古屋大学学童保育所の試み～」

●発表要旨

名古屋大学には現在、常設としては全国初の大学内学童保育施設「ポピンズアフタースクール」があります。2009年に開校した本施設は、これまで育児と仕事の両立において立ちはだかっていた「小1の壁」を越える解決策のひとつとなるとともに、本学構成員や地域の協力により、さまざまな教育プログラムが展開される場ともなっています。今回の発表では、学生から名誉教授にいたるまで、幅広い年代が取り組む教育プログラムを通じて、世代をつなぐ学びの場としての名古屋大学学童保育所の現在をご紹介します。

**世代をつなぐ学びの場  
～名古屋大学学童保育所の試み～**

**学内学童保育所（ポピンズアフタースクール）**

対象者 名古屋大学の教職員（常勤・非常勤）、学生、研究生等 ※同窓生、他大学構成員

項目	内容
名称	名古屋大学学童保育所（ポピンズアフタースクール）
所在地	名古屋市中区栄三丁目
運営時間	9時～17時（土曜・日曜・祝祭日を除く）
施設概要	学内学童保育所（常設） 学内学童保育所（臨時型）
運営体制	学内学童保育所（常設） 学内学童保育所（臨時型）
連絡先	名古屋大学学童保育所（ポピンズアフタースクール） 〒466-8601 名古屋市中区栄三丁目1番1号 TEL: 052-787-5111（学内専用ダイヤル）

**大学ならではの環境で、様々な講師陣による  
多彩なプログラム活動！**

医学部学生による保健教育  
学生・院生  
サークルによる茶道体験  
星見会  
留学生によるワールドフレンズ  
+保護者プログラム  
学内研究者  
学外研究者  
普通体験  
一日考古学者  
みんなでスポーツ  
気球を飛ばそう

名古屋大学男女共同参画室 <http://www.kyodo-sankaku.provost.nagoya-u.ac.jp/>

## 第5節 あいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラム

### 1. 「イクメンについて考える～男女が共に働き続けるために～」シンポジウム

男女共同参画室 三枝麻由美

今年度のあいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラム（主催：愛知県・名古屋市・愛知県経営者協会・名古屋大学）の活動として、仕事と家庭の両立支援を目的としたシンポジウムを開催することになり、テーマを「イクメンについて考える～男女が共に働き続けるために～」とした。本シンポジウムのプログラム詳細は、下記資料を参照とする。

あいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラムシンポジウム  
イクメンについて考える ～男女が共に働き続けるために～ プログラム

平成23年10月19日(水) 名古屋大学大学院教育学研究科2階カンファレンスホール

～シンポジウム プログラム～

13:00～13:05 挨拶 藤井良一 名古屋大学理事  
13:05～13:20 講演 濱口道成 名古屋大学総長

13:30～15:15  
パネルディスカッション  
『イクメンの理由～男の育児は単なるトレンドか?～』  
コーディネーター：田村哲樹(名古屋大学大学院教育学研究科教授/元男女共同参画室長)  
パネリスト：関口威人(ジャーナリスト)  
二井晋(名古屋大学大学院工学研究科准教授)  
横井寿史(社会保険労務士)  
鈴木秀樹(豊田通商(株)東京本社人事部長ダイバーシティ推進室長)  
稲葉和子(愛知労働局雇用均等室長)

「イクメン」が人気です。しかし、どのくらい育児をするかは、「イクメン」なののでしょうか？  
また、「イクメン」とは、「理解のあるダンアさん」のことなのでしょうか？そもそも、男性の  
育児は、なぜ「おいこ」なののでしょうか？このパネルディスカッションでは、実際に「イ  
クメン」している男性たちと、イクメンに関する情報を伝えている方々をパネラーにお  
招きして、イクメンと男女共同参画との関係を探ります。

コーディネーター 田村哲樹

15:15～15:25 名古屋大学こすもす保育園及び学童保育所のご紹介  
15:25～16:30 挨拶 東村博子 名古屋大学男女共同参画室長

～名古屋大学こすもす保育園及び  
学童保育所の見学会とビデオ上映～  
※ 見学会は事前にお申し込みいただいた方のみ。

こすもす保育園  
学童保育所

15:30～16:30 (予定)

主催：あいち男女共同参画社会推進・産学官連携フォーラム（愛知県、名古屋市、愛知県経営者協会、名古屋大学）

本シンポジウムは三部構成で、第一部は本学の濱口道成総長による講演、第二部は「イクメンの理由～男の育児は単なるトレンドか?～」と題したパネルディスカッション、第三部は本学こすもす保育園および学童保育所の紹介と見学であった。

まず、第一部では、濱口総長が「21世紀は女性が救う」と題した講演を行った。濱口総長は、財政赤字と超高齢化の二つの大きな危機を抱える日本の再生の鍵は女性の活躍であると主張された。それには、猛烈に働く生活を基盤とし、子どもを生み育てることが困難な東京モデルを日本全国に拡散するのではなく、女性も男性も仕事と家庭を両立する愛知モデルを作って、全国に広めようと提唱された。濱口総長は、さまざまなデータを駆使しながら愛知モデルを21世紀の日本社会のモデルとすることの重要性を話され、そのためには子育てを夫婦の努力だけに求めるのではなく、行政の包括的な支援が不可欠であると結論づけられた。

第二部では、「イクメンの理由～男の育児は単なるトレンドか?～」と題したパネルディスカッションを行った。パネリストの一番目は、ジャーナリストの関口威人氏が自身のイクメン経験、仕事と育児の両立等について話された。関口氏は、育児を行うことにより、地域社会や環

境問題等、より幅広い問題に気づくようになったと述べられた。パネリストの二番目は、本学大学院工学研究科准教授の二井晋氏が、関口氏と同様に、自身のイクメン体験や仕事と育児の両立について話された。二井氏は、二人のお子さんを本学のこすもす保育園に預けられていること、育児を行うことにより、時間は資源であると認識し、時間管理を厳密に効率的に行うことを常に意識するようになったこと、さらに学生指導の効果は直線的ではなく、円周的に現れることに気づかされた、教育方法に関する工夫を考えるようになったこと等を話された。パネリストの第三番目は、社会保険労務士の横井寿史氏であった。横井氏は自身もイクメンを経験されているが、発表では中小企業のワークライフバランス（WLB）施策を中心に話された。横井氏は、企業は従業員の定着率やモチベーションを高めるために、仕事と育児が両立できる施策を導入するとし、大企業が積極的に導入していると思われがちであるが、中小企業の中にも積極的にWLB施策を導入している例を紹介した。パネリストの第四番目は、豊田通商株式会社東京本社人事部長ダイバーシティ推進室長の鈴木秀樹氏であった。鈴木氏は豊田通商でのWLBの取り組みについて紹介し、同社では男性が仕事と育児を両立できる制度を確立するというよりも、男性が短期間でも育児を経験することにより、より幅広い視野を身につけ、仕事に生かすことを推進するのが狙いであるとした。パネリストの第五番目は、愛知労働局雇用均等室長の稲葉和子氏であった。稲葉氏は、育児支援制度の現状と課題、育児休業等に対する労働者および企業の受け止め方、職場での女性の能力発揮と意志決定への男女共同参画のためのイクメン、育児支援の格差・支援コスト偏在の解消等について述べた。稲葉氏は、育児休業や育児支援は正規・非正規の雇用形態間、業種や企業規模間で格差が著しく、これらの格差解消も重要であると述べた。

第三部では、第三部は本学こすもす保育園および学童保育所の紹介と見学を行った。紹介部分では、こすもす保育園および学童保育所を担当するポピンズの苗村久美子氏、指定の小学校から学童保育所へのお迎えを行う中川タクシーの石川優氏による事業活動の説明が行われた。その後、5分程度のビデオ上映を行い、こすもす保育園および学童保育所の見学会を三班に分かれて行った。



## アンケート結果に見る本シンポジウムの分析

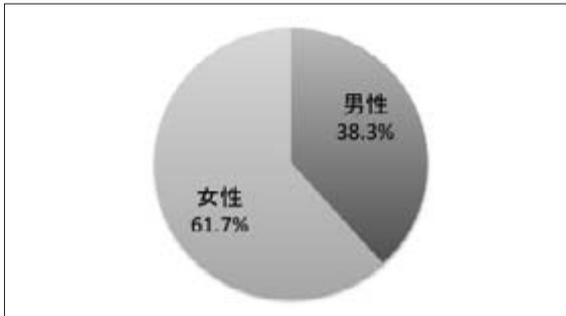
本シンポジウムへの来場者数は58名であった（発表者やスタッフは除く）。そのうち、アンケート回収数は47名で、回収率は81.0%であった。

### 1. 来場者の属性

#### 1) 性別

男性38.3%、女性61.7%であった。

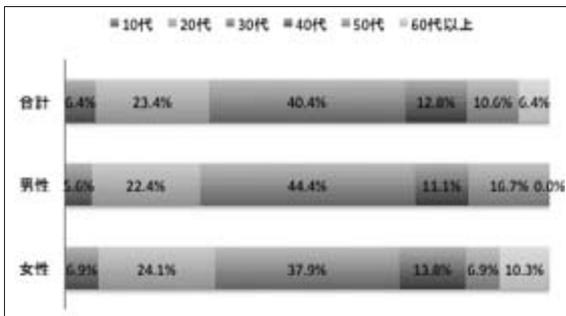
図表1 性別 (N=47、欠損値=2)



#### 2) 年代別

30代が最も多く全体の40.4%を占め、続いて20代の23.4%となっている。性別にみた場合、年代別の違いはあまり見られないが、女性は60代以上が10.3%占めるのに対し、男性の60代以上の参加者は0%であった。一方、男性の50代は16.7%であるのに対し、女性は6.9%であった。

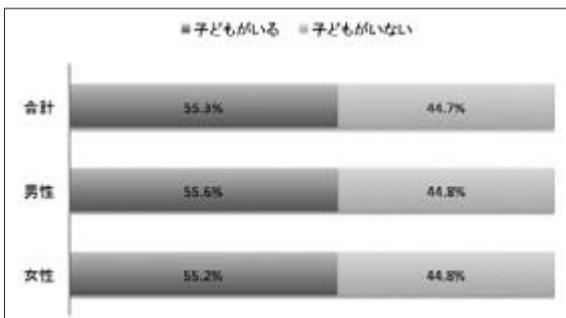
図表2 年代・性別 (N=47)



#### 3) 子どもの有無

全体で見ると、「子どもがいる」が55.3%、「子どもがいない」は44.7%となり、子どもがいる人が来場者の過半数を占めた。性別には、あまり違いが見られない。年代別には、30代が50.0%で最も多く、続いて40代23.1%、50代19.2%となっている。

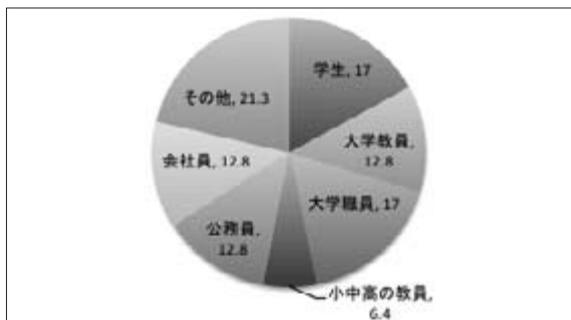
図表3 子どもの有無 (N=47)



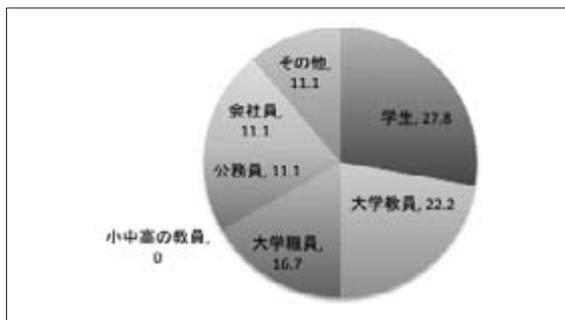
#### 4) 職業別

全体では、多い順に学生（17.0%）、大学職員（17.0%）、大学教員（12.8%）、公務員（12.8%）、会社員（12.8%）、小中高の教員（6.4%）となっている。性別にみると、男性は学生（27.8%）、大学教員（22.2%）、大学職員（16.7%）の割合が高い一方、女性は大学職員（17.2%）、公務員（13.8%）、会社員（13.8%）の割合が高い。

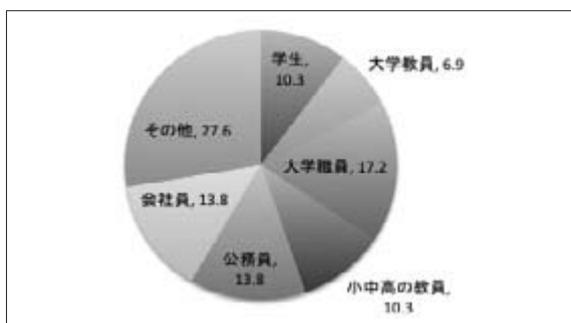
図表5 職業別：全体（N=47、単位%）



図表5 職業別：男性（N=18、単位%）



図表6 職業別：女性（N=29、単位%）

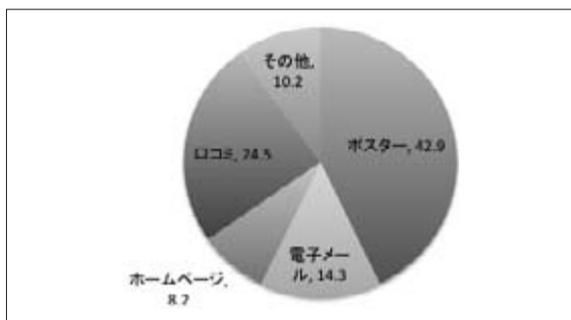


## 2. 本シンポジウムについて

### 1) どのように知ったか

多い順に、ポスター（42.9%）、口コミ（24.5%）、電子メール（14.3%）、ホームページ（8.2%）となっている。その他の回答中にはチラシが含まれており、設問を「ポスター・チラシ」とすべきであった。ポスターやチラシなどの印刷物による告知の有効性が示されたが、口コミの割合も高く、シンポジウム関係者がさらに積極的にシンポジウムの宣伝を口コミで行うことが重要であると再認識された。

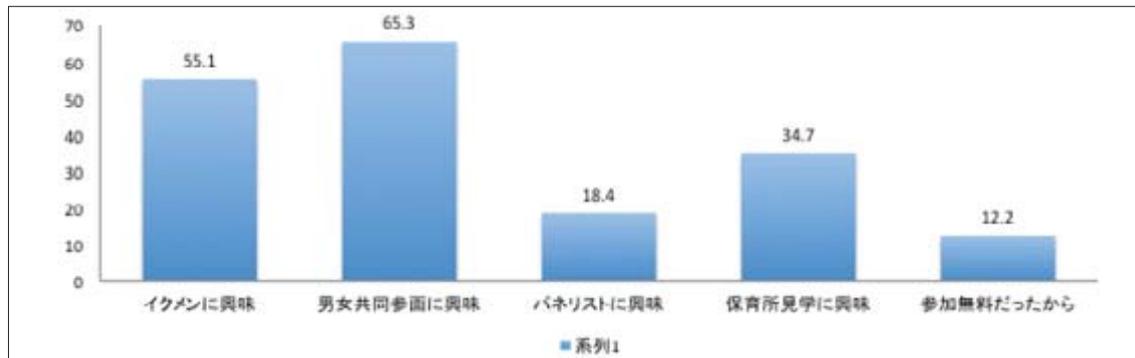
図表6 本シンポジウムをどのように知ったか（N=47、単位%）



## 2) 参加理由

本シンポジウムの参加理由としてもっとも多かったのが、「男女共同参画に興味があったから」であった。その後、「イクメンに興味があったから」55.1%、「保育所見学に興味があったから」34.7%であった。

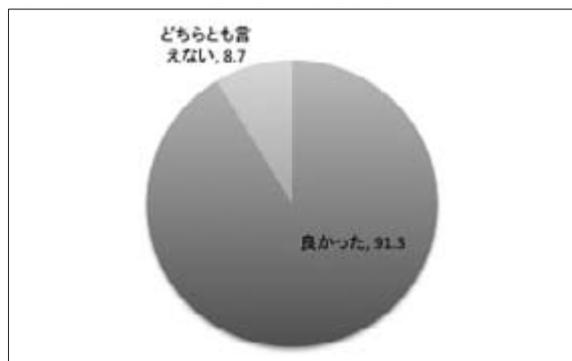
図表7 本シンポジウムの参加理由（複数回答、N=47、単位%）



## 3) 感想

「良かった」の割合が91.3%と大半を占め、「どちらとも言えない」が8.7%、「良くなかった」は0%であった。この結果から、本シンポジウムは概ね好評であったと考えられる。

図表8 本シンポジウムの感想（N=47、単位%）



## 3. 自由回答の分析

### 本シンポジウムの感想

全体として、好評価をしたコメントが多かった。とくに、企業、行政、大学とさまざまな視点から意見が聞けたこと、実際に育児を行う男性の意見が聞けたことを好意的に捉えた意見が多かった。また、イクメンをどう捉えるかという女性の意見を聞いてみたかったというコメントもあった。

### 男性の育児参加を普及するために必要なこと

労働時間の短縮、職住接近、非正規雇用の解消などの制度面を指摘する声の他に、勤務先の理解が欠かせないとする意見が多かった。また、男女ともに意識改革を行い、「仕事=男性、育児=女性」という考えを変えることが重要との指摘もあった。

### 今後希望するテーマ

以下のような要望が挙げられた。

- ・ 育児学生についてのシンポジウム
- ・ 次世代（小中高生）に対して男女共同参画の意識をもってもらうようなテーマのシンポジウム
- ・ DVや虐待問題に関するシンポジウム
- ・ ジェンダー意識に関するシンポジウム

#### 4. アンケート結果からの示唆

第一部では、濱口総長から豊富なデータをもとに「愛知モデル」の働き方を提唱され、第二部ではイクメンに関して、企業、大学、行政と異なる視点からの意見を聞くことができ、第三部ではこすもす保育園および学童保育所の見学に多数の方が参加されたことなどから、意義のあるシンポジウムになったと考える。ただ、第二部において、会場との質疑応答の時間をもっと多く取り、一方向ではなく、双方向型のシンポジウムにもっとなるような工夫や時間を取ることができればよかったと考え、次回の課題としたい。

## 第3章

# 科学技術人材育成費補助金「女性研究者養成システム改革加速」事業

### 1. 新規女性研究者の採用計画

実施予定期間：平成22年度～平成26年度

総括責任者：国立大学法人名古屋大学 総長 濱口 道成

#### I. 概要

理・工・農学系女性研究者を5年度目までに29名（教授4名、准教授5名、助教20名）安定的な職に採用する。真に優秀な女性研究者獲得のため、教授・准教授（PI）採用の一部には、総長管理定員による「女性PI枠」を設け、理・工・農学系部局の合同公募を実施する。また「発展型ポジティブ・アクション」の継続実施により、助教採用を加速する。新規養成女性研究者には①3年間の特別研究費配分②高等教育研究センターと連携したメンタリングシステム導入③育児中の支援員配置など全学的支援体制を整える。既在籍女性研究者のキャリア育成を支援し、積極的に女性PIを増加させることで、女性研究者増加の為のシステム改革を実行する。

#### 1. 機関の現状

本学では、男女共同参画の推進を全学の中期計画・中期目標の年度計画にも掲げ、男女共同参画のための多様な取組と、基盤的環境整備のためのシステム改革を実施することで、女性教員比率の向上に務めてきた。その結果、機関としては以下の現状にある。

##### a. 機関における安定的な職の分野別・職階別女性研究者の人数、及び比率

平成23年3月31日時点では、当該課題対象の理・工・農学系女性研究者数は49名（5.2%）であり、分野別では理学系17名（5.3%）、工学系17名（3.6%）、農学系15名（10.8%）となっている。職階別では、教授4名（1.1%）、准教授19名（6.7%）、講師2名（5.4%）、助教24名（9.3%）である。

##### b. 機関における安定的な職の女性研究者の分野別採用者数及び採用割合

過去5年において理学系12名、工学系10名、農学系9名の女性教員を採用した。採用割合は、理学系9.9%、工学系6.2%、農学系26.5%であった。

##### c. 女性研究者支援に関する現在の取組状況

- (1) 機関内意識改革：女性教員増加の為の「ポジティブ・アクション表明」、「部局アンケート・部局長ヒアリング」、「発展型ポジティブ・アクションプロジェクト」、シンポジウム開催等
- (2) 研究環境の改善：両立支援策として、学内保育所・学童保育所設置、ITを利用した在宅勤務支援システム、短時間勤務制度、子育て支援セミナー、ベビーシッター割引券配布等
- (3) その他：女性研究交流会の開催、女性研究者ソーシャル・ネットワーク・サービスの運用、スキルアップセミナー開催、理系女子学生エンカレッジセミナー開催、女子中高生理系進学推進セミナーの開催、理系女子学生「あかりんご隊」による出張実験セミナー等

#### 2. 計画構想の内容

女性研究者養成システム構築に向けての本学のミッションは、以下の計画のもとに、研究リーダーとして独立して研究グループを率いる真に優秀な女性研究者（PI）を増加させるとともに、若手女性研究者をPIへと育てあげる養成システムを構築し、全国の研究機関のモデルとなることである

##### a. 新規養成女性研究者の採用計画

理・工・農学系女性研究者を3年度目までに15名、5年度目までに29名（教授4名、准教授5名、助教20名）

を新規に採用する。女性教授・准教授（PI）の積極的増加策として、総長管理定員を利用した「女性PI枠」設置や理・工・農学系合同公募などを実施する。「発展型ポジティブ・アクションプロジェクト」を継続実施し、助教採用増加を促進する。

**b. 女性研究者養成のための取組内容**

(1) 特別研究費の配分 (2) メンター制度の導入 (3) 育児中の支援員配置 (4) 研究の成果発表支援 (5) スキルアップセミナーの定期的開催などを全学的体制の下に実施する。

**c. 期待される効果**

女性PIの増加により、大学の意思決定に関わる女性比率が上昇し、女性研究者の地位確立、採用比率上昇、研究環境の改善が見込まれる。さらに人事権をもつPI増加により女性研究者比率を飛躍的に加速させるポジティブフィードバック効果が期待される。

**3. 3年目終了時における具体的な目標**

**a. 3年目終了時における機関の安定的な職の分野別女性研究者比率**

	実施機関全体	当該課題 対象分野計	理学系	工学系	農学系
実施機関全体	12%	6.5%	6.2%	4.1%	15.1%

**b. その他、3年目終了時における目標**

総長管理定員を用いた「女性PI枠」を設置し、理・工・農学系部局の合同公募により、PIを2名以上採用することにより、本申請プログラム3年目終了時には、理・工・農学系女性研究者の採用数は、教授（理学系1名、農学系1名）、准教授（理学系1名、農学系1名）、助教（理学系3名、工学系4名、農学系4名）となる事を目標としており、その結果、上記の分野別女性研究者比率となることを目指す。また、これとは別に、「発展型ポジティブ・アクションプロジェクト」により、3名の女性特任助教を採用し（3年任期）、任期終了後には正規ポストに移行するように支援する。さらに、本学の高等教育研究センターと連携して女性研究者のライフスタイルも考慮にいたれたメンタリングシステムの構築と独自に養成したメンターを登録したメンターバンクの設置により、新規養成女性研究者に2名以上のメンターを配置する。

**4. 実施期間終了時（5年目）における具体的な目標**

**a. 実施期間終了時（5年目）における機関の安定的な職の分野別女性研究者比率**

	実施機関全体	当該課題 対象分野計	理学系	工学系	農学系
実施機関全体	12.9%	8.0%	7.8%	5.3%	17.3%

**b. その他、実施期間終了時（5年目）における目標**

総長管理定員を用いた「女性PI枠」を設置し、理・工・農学系部局の合同公募により、PIを4名以上採用することにより、本申請プログラム終了時には、理・工・農学系女性研究者の採用数は、教授（理学系1名、工学系1名、農学系2名）、准教授（理学系3名、工学系1名、農学系1名）、助教（理学系6名、工学系8名、農学系6名）となる事を目標としており、その結果、上記の分野別女性研究者比率となることを目指す。また、これとは別に、「発展型ポジティブ・アクションプロジェクト」により、5名の女性特任助教を採用し（3年任期）、任期終了後には正規ポストに移行するように支援する。さらに、メンターバンクの登録者を増加し、新規養成女性研究者に2名以上、既在籍女性研究者には1名以上のメンターを配置する。

## 5. 実施期間終了後の取組

総長管理定員による理・工・農学系部局の合同選考委員会による分野を限定しない公募によって採用された女性PIは、5年を目途に各部局の正規定員への移行を予定しており、空いた総長管理定員を新たな女性PI採用のために再利用することにより、継続して教授・准教授などのPIの採用を行う予定である。この採用システムは、少なくとも本プログラムの終了後5年間（必要があると判断された場合は5年以上）は継続して実施する予定である。

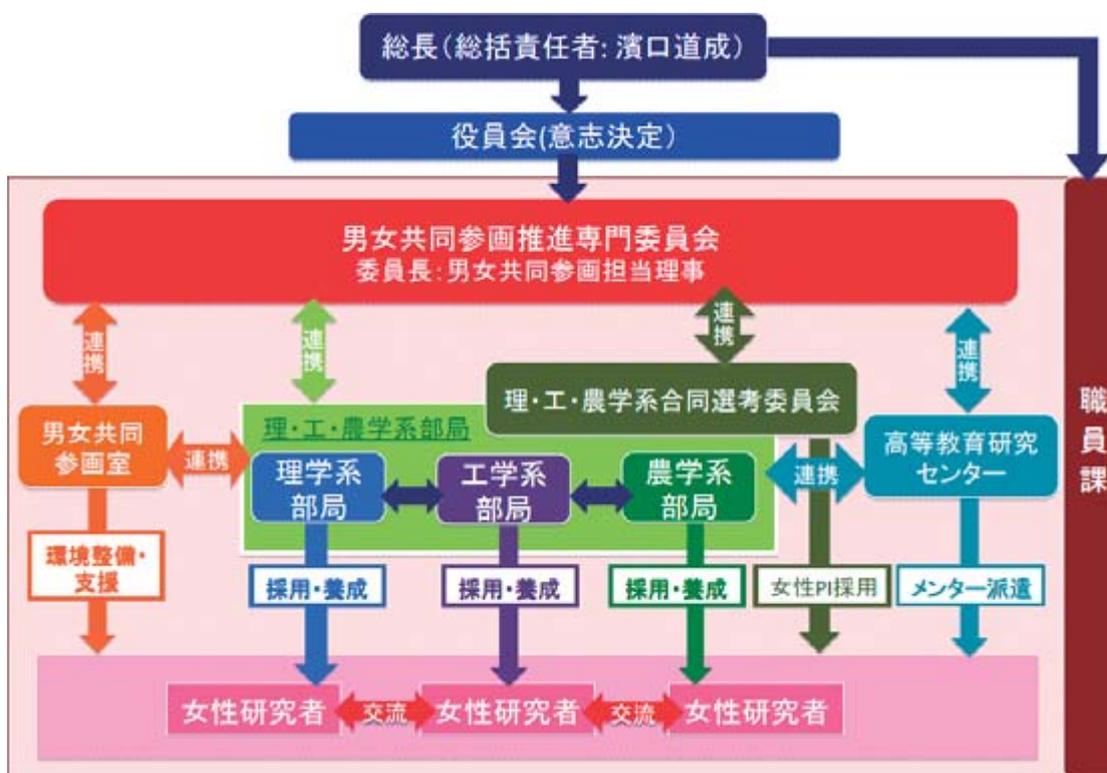
女性教員の採用・昇進にインセンティブを与える施策として実施している「発展型ポジティブ・アクションプロジェクト」を本申請プログラムの終了後も継続して実施することが決定されており、安定的な職につく女性研究者の増加を継続して図る予定である。本プロジェクトは、適正な女性教員比率の達成まで継続して実施する予定である。また、本申請プログラムにより構築する女性研究者支援の為にメンタリングシステムを、高等教員研究センターとの連携により、終了後も継続して実施する。本申請プログラ実施中に得られたノウハウを活かし、より有効なシステム強化を図る予定である。

## 6. 期待される波及効果

本申請プログラムは、女性PI（教授・准教授）の採用を積極的に推進することを特徴としている。特に、総長管理定員を利用した、理・工・農学系の合同による女性枠として選考により、真に優秀な女性研究者を採用・養成できるシステムの具体例を提示することとなり、他の組織・機関に及ぼす波及効果が期待される。女性PIは、若手女性研究者の具体的にはロールモデルとなるだけでなく、人事権のあるPIに女性が採用されることにより、若手女性研究者の採用が飛躍的に増加する可能性があり、女性研究者増加へのポジティブ・フィードバック効果が期待される。本女性研究者養成システムが他の組織・機関に波及すれば、全国レベルで女性研究者の上位職階への採用が加速される。ポジティブ・フィードバック効果を引き起こし、安定的な職につく優秀な女性研究者の加速的増加に貢献でき、女性研究者養成システム改革が加速する。

## 7. 実施体制

総長の強いコミットメントにより、全学的な実施体制の下、下記の各部局・組織の有機的な連携により、新規女性研究者および既在籍女性研究者の養成を実施する。



実施体制

## 8. 各年度の計画と実績

### a. 平成22年度計画

#### (1) 計画

- (a) 新規養成女性研究者の採用計画については、「女性PI枠」として、バイオサイエンス分野を対象に、理学研究科・工学研究科・生命農学研究科3研究科合同による国際公募を実施予定である。(採用は平成23年4月1日以降できるだけ早い時期)また、各部局による女性研究者採用を積極的に進めることで、新規女性研究者1名の採用を予定している。さらに、これとは別に「発展型ポジティブ・アクションプロジェクト」の継続実施により、自学経費による平成22年度分の助教1名の公募を予定している。
- (b) 女性研究者養成のための取組については、高等教育研究センターとの連携によるメンタープログラムの構築と資料作成、既在籍理工農女性研究者を対象とした国際学会参加費用助成を実施予定である。また、全学の女性研究者を対象とした学術雑誌投稿論文の英文校閲費用助成を実施するとともに、スキルアップセミナーとして学内研究者を対象としたマインドマップ講習会を本年度中7回実施予定である。また、11月には、若手女性研究者サイエンスフォーラムおよび女子中高生理系進学推進セミナーを開催し、講演会の実施と、若手女性研究者によるポスター発表会を行う予定である。

#### (2) 実績

- (a) バイオサイエンス分野を対象とした理学研究科・工学研究科・生命農学研究科3研究科による「女性PI」国際公募を実施した結果、国内外から約50名の応募があった。東日本大震災の影響により、面接等が遅れたものの、早期採用に向けて選考中である。各部局による女性教員の採用は、生命農学研究科に助教1名を採用、「発展型ポジティブ・アクションプロジェクト」に関しては、多元数理科学研究科に特任助教1名を採用した。
- (b) 生命農学研究科の新規採用教員に2名のメンターを配置するとともに、メンターを希望する既在籍女性研究者に各1名のメンターを配置した。理工農学系女性研究者を対象とした国際学会参加費用助成12件、全学の女性研究者を対象とした学術論文等英文校閲費用助成15件をそれぞれ行った。11月に若手女性研究者サイエンスフォーラムおよび女子中高生理系進学推進セミナーを開催し、女性研究者3名による講演と31名によるポスターセッションを行い、上位者に総長賞を授与した。学内研究者を対象としたスキルアップセミナーマインドマップ講習会は6回開催した。

### b. 平成23年度計画

#### (1) 計画

- (a) 新規養成女性研究者の採用計画については、引き続き「女性PI枠」の公募を実施するとともに、各部局による女性研究者採用を積極的に進めることで、全体として新規女性研究者7名の採用を予定している。また、これとは別に「発展型ポジティブ・アクションプロジェクト」の実施により、自学経費による平成23年度分の助教1名の採用、および平成24年度分の公募手続きを行う予定である。
- (b) 女性研究者養成のための取組については、男女共同参画室を拠点とする新規養成女性研究者を対象としたメンター制度を、高等教育研究センターとの連携により実施していくとともに、既在籍理工農女性研究者を対象とした国際学会参加費用助成および学術雑誌投稿論文の英文校閲費用助成を実施する。また、若手女性研究者サイエンスフォーラムおよび女子中高生理系進学推進セミナーの開催、および、スキルアップセミナーとして学内研究者を対象としたマインドマップ講習会の実施(7回)を予定している。

#### (2) 実績

- (a) 数学、数理科学、情報科学分野を対象とした理学研究科・工学研究科・生命農学研究科3研究科による「女性PI」国際公募を実施した結果、国内外から約20名の応募があり、現在選考中である。平成22年度実施のバイオサイエンス分野を対象とした「女性PI」国際公募については、東日本大震災の影響により面接等が遅れたものの、理学研究科に教授1名を採用した。各部局による女性教員の採用については、2月現在、理学研究科に特任助教1名、工学研究科に准教授1名、助教1名を採用している。
- (b) 理工農系女性研究者を対象とした国際学会への参加費用助成9件、全学の女性研究者を対象とした学術論文等英文校閲費用助成26件をそれぞれ行った。(件数は2月現在)11月には若手女性研究者サイエンスフォーラムおよび女子中高生理系進学推進セミナーを開催し、女性研究者2名による講演と32名によるポスター

セッションを行うとともに、上位者に総長賞を授与した。学内研究者を対象としたスキルアップセミナー・マインドマップ講習会は7回開催した。メンターについては、新規採用教員にそれぞれ2名を配置した。

- (c) 男女共同参画室と高等教育研究センターとの連携による「女性研究者養成のためのメンター制度」が、ワーキングウーマン・パワーアップ会議・公益財団法人日本生産性本部主催「第4回メンター・アワード2012」を受賞、「女性研究者支援モデル育成事業」および「女性研究者養成システム改革加速事業」採択機関による投票の結果、男女共同参画室のホームページが「Webデザイン賞」を受賞した。

#### c. 平成24年度計画

##### (1) 計画

- (a) 新規養成女性研究者の採用計画については、引き続き「女性PI枠」の公募を実施するとともに、各部署による女性研究者採用を積極的に進めることで、全体として新規女性研究者7名の採用を予定している。また、これとは別に「発展型ポジティブ・アクションプロジェクト」の実施により、自学経費による平成24年度分の助教1名の採用、および平成25年度分の公募手続きを行う予定である。
- (b) 女性研究者養成のための取組については、男女共同参画室を拠点とする新規養成女性研究者を対象としたメンター制度を、高等教育研究センターとの連携により実施していくとともに、既存籍理工農女性研究者を対象とした国際学会参加費用助成および学術雑誌投稿論文の英文校閲費用助成を実施する。また、若手女性研究者サイエンスフォーラムおよび女性中高生理系進学推進セミナーの開催、および、スキルアップセミナーとして学内研究者を対象としたマインドマップ講習会の実施（7回）を予定している。

#### d. 平成25年度計画

##### (1) 計画

- (a) 新規養成女性研究者の採用計画については、引き続き「女性PI枠」の公募を実施するとともに、各部署による女性研究者採用を積極的に進めることで、全体として新規女性研究者8名の採用を予定している。また、これとは別に「発展型ポジティブ・アクションプロジェクト」の実施により、自学経費による平成25年度分の助教1名の採用、および平成26年度分の公募手続きを行う予定である。
- (b) 女性研究者養成のための取組については、男女共同参画室を拠点とする新規養成女性研究者を対象としたメンター制度を、高等教育研究センターとの連携により実施していくとともに、既存籍理工農女性研究者を対象とした国際学会参加費用助成および学術雑誌投稿論文の英文校閲費用助成を実施する。また、若手女性研究者サイエンスフォーラムおよび女性中高生理系進学推進セミナーの開催、および、スキルアップセミナーとして学内研究者を対象としたマインドマップ講習会の実施（7回）を予定している。

#### e. 平成26年度計画

##### (1) 計画

- (a) 新規養成女性研究者の採用計画については、引き続き「女性PI枠」の公募を実施するとともに、各部署による女性研究者採用を積極的に進めることで、全体として新規女性研究者6名の採用を予定している。また、これとは別に「発展型ポジティブ・アクションプロジェクト」の実施により、自学経費による平成26年度分の助教1名の採用、および平成27年度分の公募手続きを行う予定である。
- (b) 女性研究者養成のための取組については、男女共同参画室を拠点とする新規養成女性研究者を対象としたメンター制度を、高等教育研究センターとの連携により実施していくとともに、既存籍理工農女性研究者を対象とした国際学会参加費用助成および学術雑誌投稿論文の英文校閲費用助成を実施する。また、若手女性研究者サイエンスフォーラムおよび女性中高生理系進学推進セミナーの開催、および、スキルアップセミナーとして学内研究者を対象としたマインドマップ講習会の実施（7回）を予定している。

9. 年次計

項目	1年度目	2年度目	3年度目	4年度目	5年度目
新規養成女性研究者の採用計画	採用 開始7月 終了3月	採用 開始4月 終了3月	採用 開始4月 終了3月	採用 開始4月 終了3月	採用 開始4月 終了3月
新規養成女性研究者の養成計画	メンター制度、各種研究スキルアップ事業、研究支援員の雇用				
新規養成女性研究者採用人数					
理学系	0人	3人	2人	4人	1人
工学系	0人	2人	3人	3人	3人
農学系	1人	2人	3人	1人	2人
教授	0人	1人	1人	1人	1人
准教授	0人	1人	1人	2人	1人
講師	0人	0人	0人	0人	0人
助教	1人	5人	5人	5人	4人

## 2. 女性研究者養成・支援に関する取組

### メンタープログラムによるキャリア支援

#### 1. 2011年度のメンタープログラムの成果

2011年度（2012年2月現在）は、21名の女性教員から教員メンタープログラムへの申し込みがあり、適切なメンターを紹介した。2011年11月には、利用者アンケートを実施し、メンタープログラムの評価を行った。

申し込み状況、利用者アンケート、事務局に寄せられる声により、成果はさまざまな点で見られる。第一に、メンタープログラムの意義が浸透してきたことである。年々利用者は増加している。同様なプログラムが実施している他大学もあるが、自己応募型（加速・育成プログラム対象者を除く）でこれだけの規模の教員が参加した例は少なく、プログラムの意義が着実に学内に浸透してきていると言える。また他大学からもプログラムに対する情報提供の依頼もある。第二に、メンティ教員にとって、悩みを解決できた、教育や研究を進める上でアドバイスをもらえた、学内のネットワークができたなど、さまざまな面での成果が見られた。アンケート回答者15名中全員のメンティ教員がメンタープログラムに肯定的な評価をした。第三に、メンター教員にとっても、若手から刺激を得られた、自身の過去を振りかえり前向きな気持ちになれたなど、さまざまな意義が見られた。アンケート回答者15名中14名のメンター教員がメンタープログラムに肯定的な評価をした。

さらに、メンタープログラムの運営が評価され、名古屋大学は、ワーキングウーマン・パワーアップ会議の「メンター・アワード2012」の優秀賞を受賞した。

#### 2. 女性教員のためのメンタープログラムの概要

##### (1) 女性教員のためのメンタープログラムとは

赴任間もない新任教員にとって、大学における活動に不安はつきものです。教員メンタープログラムは、大学において一定の職務経験をもつ教員と交流することで、新任教員が大学教員として成長していくことを支援するプログラムです。このプログラムでは、新任教員をメンティ教員、そのメンティ教員を支援する教員をメンター教員と呼びます。メンタープログラムは大学以外の組織でも広く導入されており、その効果は確認されています。

名古屋大学では、男女共同参画室と高等教育研究センターが協力して、女性教員のための教員メンタープログラムを実施しています。特に名古屋大学方式女性研究者採用加速・育成プログラム事業で採用された教員は、採用当初から2名以上のメンターが配置されます。

##### (2) メンタープログラムのねらい

教員メンタープログラムは、メンティ教員にとって以下のような効果が期待されます。

- ・ 職務や生活に関して気軽に相談できる相手を得る
- ・ 大学について理解を深める
- ・ 教育研究など職務上必要な知識やスキルを獲得する
- ・ 結婚、出産、育児、介護などのライフイベントと仕事の両立を相談できる
- ・ キャリアの展望を考えるきっかけになる
- ・ メンター教員を介してさまざまなネットワークを作る

教員メンタープログラムは、メンター教員にとっても意義があります。新任教員との交流によって新しいアイデアや活力が得られたり、自らの教育研究を振り返り今後のキャリアを考えるきっかけになります。

##### (3) メンター活動の流れ

###### 1. 申し込み

名古屋大学に着任して3年未満の教員であれば、申し込みは随時可能です。申し込みの際に、日程上の都合、メンター活動への期待や希望などを記します。

## 2. マッチング

メンティ教員の希望やプロフィールをもとにメンターバンクを活用して適切なメンター教員を決定します。メンター教員より初回のミーティングに関する連絡が届きます。

## 3. 初回のミーティング

メンター活動の目的、ミーティングの場所と頻度などの活動の計画を相互で確認します。

## 4. 定期的な活動

ミーティングのみでなく、キャンパスツアー、授業見学などの活動も相互の合意の上で進められます。またプログラム事務局にはいつでも相談することができます。

## 5. フィードバック

メンター活動の成果をプログラム事務局に報告します。内容はプログラムの改善に利用されます。

### (4) 申込方法

プログラムを活用したいと考えている名古屋大学の女性教員の方は、電子メールの本文に下記の5項目を記して、申込先までお送りください。

1. 氏名
2. 所属
3. メールアドレス
4. メンター活動への期待や希望
5. 時間の取りやすい曜日や時間帯

申込先 女性教員メンタープログラム事務局（男女共同参画室）

kyodo-sankaku1@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

### (5) メンター教員のためのガイド

メンター教員がメンター活動をどのように進めたらよいのかをまとめたガイドがつくられており、ホームページ上でも公開されています。



出所：<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/facultyguide/MentorsGuide.pdf>

## (6) メンティ教員のためのガイド

メンティ教員がメンター活動をどのように活用したらよいのかをまとめたガイドがつけられており、ホームページ上でも公開されています。



出所：

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/facultyguide/MenteesGuide.pdf>

## (7) メンター教員やメンティ教員のための研修教材・資料

メンター教員、メンティ教員、メンタープログラム事務局関係者のための研修教材・資料として以下のような教材・資料が男女共同参画室にあります。

- ・名古屋大学の理系女性研究者のライフスタイルが紹介された冊子

『理系に生きる女性たち！ROLE MODEL BOOK』

- ・その他各種研修教材

『理系の女の生き方ガイド』、『猿橋勝子という生き方』、『マリー・キュリーの挑戦』、『女性科学者に一条の光を』、『科学者という仕事』、『研究者人生双六講義』、『大学教授という仕事』、『大学教員準備講座』、『成長するティップス先生』、『授業の道具箱』、『大学教員のための教室英語表現』、『アット・ザ・ヘルム』、『メンタリング・プログラム』、『メンタリング入門』、『ラボ・ダイナミクス』、『アット・ザ・ベンチ』、『コーチング・マネジメント』、『コーチングの教科書』、『メンタリング・マネジメント』、『実践ダイバーシティマネジメント』、『個を活かすダイバーシティ戦略』、『ダイバーシティ・マネジメントと異文化経営』、『ダイバーシティ・トレーニング・ブック』、『女性社員活躍支援事例集』、『ダイバーシティ・マネジメント』、『ダイバーシティ・マネジメントの観点からみた企業におけるジェンダー』、『女性コア人材育成の現状と課題2010』、『女性人材の活躍2011』

## (8) パンフレット

教員メンタープログラムの内容を紹介したパンフレットが作成されています。ホームページ上でも公開されています。



出所：<http://www.kyodo-sankaku.provost.nagoya-u.ac.jp/files/femalementor.pdf>

(9) ホームページ

女性教員のためのメンタープログラムの内容が、男女共同参画室のホームページ上で紹介されています。



出所：http://www.kyodo-sankaku.provost.nagoya-u.ac.jp/mentoring/

(10) 「メンター・アワード2012」優秀賞受賞

メンタープログラムの運営が評価され、名古屋大学は、ワーキングウーマン・パワーアップ会議の「メンター・アワード2012」の優秀賞を受賞しました。

受賞理由は、「メンター・メンティのためのガイドを作成し、メンターとメンティによる主体的な取組みを効果的に支援。プログラムの意義が着実に浸透し、プログラム利用者は年々増加。」などです。表彰式は2012年2月24日に女性就業支援センター（東京都港区）において開催されました。

ワーキングウーマン・パワーアップ会議 <http://www.powerup-w.jp/>



## キャリアアップ・スキルアップ支援

### ●男女共同参画室主催マインドマップ®講習会「マインドマップを仕事にいかす！」

本講習会は、2009年度4月以降、男女共同参画室事業として、学内研究者（学内教員・研究員・院生、男女不問）を対象に継続実施している。

講習会は原則毎月1回、定員は上限16名、内容は、一般向け基礎講座バージョン（6時間）を基にしつつ、研究・教育に活かせる研究者向けバージョン（4時間）としている。開催日時の案内は、男女共同参画室ホームページでの告知と、各部局の事務経由による学内全教員向けメールとで行い、院生・研究員へは教員からの伝達をお願いしている。

2011年度は、5月、6月、7月、9月、11月、12月、2月の計7回開催し、受講者総数は51名、男女比は、男性：女性=24：27、文系理系の比は、文系：理系=21：30であった。受講者の所属部局の内訳は、41（学部・研究科）、6（研究施設）、4（運営支援組織）に及んでいる。全学的に認知されているいっぽうで、受講は昨年度より減少した。理由のひとつとしては、開催時期の設定があげられよう。年度を通して最も参加者の多かったのが、年末12月27日の回であったこと、さらに、事前申込み者のなかでも、急な会議が理由のキャンセルが毎回あることから、とりわけ教員向けには、授業や会議等のない期間での開催が望ましいと考えられる。

受講者の専門性という点では、たとえば保健学科のように、ほぼ毎回受講者のある専攻の存在に注目したい。学科内での認知度の高さに加えて、研究・教育の観点から、マインドマップの活用法に可能性を認めた結果と思われる。2012年度は、こうしたスキルと研究教育の親近性にも注目しながら、講習会を継続していきたい。

アンケートによると、講習会全体については、五段階評価（とても良い・良い・普通・良くない・悪い）で「とても良い：33」「良い：15」「普通：2」「良くない：0」「悪い：0」と満足度は高い。内容については、以下のような感想や意見が寄せられた。

#### 内容について

1) 講習会で得た知識やスキルは今後役に立つと思うか、具体的な使用法について。

- ・健康相談やカウンセリングなどの個別に対応していく際。また、集団指導、講義等のシナリオ作りにも役立つと思う。
- ・作文に役立つ思考の視覚化。
- ・読んだ本のまとめやゼミの発表などに役立ちそう。
- ・思考の整理。面接。
- ・メンタル面での良いアプローチ方法になると思った。
- ・論文を書くとき、自分の意見を整理し、分かりやすくまとめるために活用したい。
- ・文章理解や表現法の授業で、学生の指導に活用したい。
- ・定期的に企画運営しているイベント。
- ・協力者とのイメージの具体化、作業効率化等に有効か。
- ・子どもの作文にまずは実践してみよと思う。
- ・旅行や研究の計画立て。プレゼンのまとめにも。
- ・論文構成のため。
- ・プレゼンの準備、研究ビジョンの考案。
- ・高校生向け出前講義の内容説明。研究の新テーマの発案。学生の指導。短・中・長期の公私の予定を立てる。
- ・ブックトーク、図書紹介、図書館の利用案内、論文作成。
- ・とくに研究を進める上で有効だと思った。どの位置にいまいるのかを確認する意味でも良い。
- ・文献の整理・記憶。
- ・研究内容の整理に活用。
- ・患者さんの話や思いを共有するときに活用し、意思決定支援につなげたい。
- ・留学生を対象とした読解や作文の授業、話合いの時の評価法などの共有化。
- ・研究計画、今後のプラン。
- ・研究のテーマを整理したり、実際文章として書いていくときに使えると思う。

- ・生活（スケジュール、人生の考え、友人・知人・家族の関係のまとめ）、研究（新しいアイデア、論文の読解と執筆）、アルバイト（自己紹介、教え方）。
- ・頭の整理。アイデアのとりまとめ、ブレインストーミングに活用したい。
- ・授業計画を立てる、長期的な研究計画を立てるときに使いたい。
- ・研究プロジェクトのマネジメント、論文を読むとき。
- ・日・週・月単位の研究計画。論文作成時の整理、プレゼンのイントロ。
- ・NPOへの経営コンサルタント。
- ・眠くなる会議の記録でまずは練習してみよと思う。講義やセミナーでのメモ。
- ・今後の方針を考えると、メモを取るときを中心に活用していきたい。
- ・看護でかく「関連図」にマインドマップの考えかたを活かすと、もっと患者の状態に沿った看護計画が立てられる気がする。
- ・読書ノート。
- ・家族のコミュニケーション。
- ・漠然とある研究イメージをまとめる。
- ・子どもの家庭教育。
- ・他のプロジェクト管理法との組み合わせを考えている。

## 2) 講習会で最も印象に残ったこと。

- ・短時間で絵を描いてみることに。
- ・自己紹介に役立てるのが分かり、実践してみようと思った。
- ・決まりはなく、幅広く使えるものであるということ。
- ・今日からすぐ使えるものということ。
- ・書き方が具体的に学べたこと。
- ・マインドマップにおけるイラストの存在感。
- ・いろいろな例があって、ダイナミックに要点が書いてあるものや、細部まで書き込まれているものまで、人や目的などによって違いがあるのが面白かった。
- ・多色を使うこと。それによりリラックスというか、想像性につながることになるのか。PPT等で、3色が見やすいと言われたことがあったので、意外だった。
- ・子どものマインドマップ。自分の心を書き出せる素直さ。
- ・全脳で行うというところ。
- ・「私ってすごい」と言った小学生の話。
- ・論文や文献のメモとして、とても有効であること。
- ・研究やアイデアの組み立てに活用できること。
- ・読んだ本も、マインドマップでまとめて把握できること。そのために10%分かれば良いということ。
- ・「私ってすごいよね！」の挿話。
- ・マインドマップがいろいろなところで活用できること。
- ・実際にマインドマップを描くと、楽しかったことが印象的だった。論文を書くのはつらいことでもあるが、マインドマップを作成しながら、前向きに取り組んでいけそう。
- ・使用スタイルのありかた、方向性。
- ・小さなテーマ（その日の予定、料理など）から、大きなテーマまで、活用できそうなこと。マインドマップは論理の整理と思っていたのが、案外、「思い、考え」であったこと。
- ・「マインドマップは自分の中にあるものしか出てこない」ということ。
- ・金山先生（文学研究科）のマインドマップ。
- ・講師の方の考え。それはマインドマップに対する考え方であり、それを通して「人間といういきもの」についてのメッセージをもらった気がする。
- ・「言葉は自分の中にある」ものしか出てこない」というメッセージが印象的だった。
- ・使い道に制限がないことに驚いた。

- ・メモリーツリーとの違い。
- ・国語解釈（短歌・俳句）のマインドマップ。無形のイメージのワーク。形のないものをかくのは難しい。
- ・「節分」の説明マップ。
- ・体育でのとびばこ運動の学びをかいたマップ。
- ・思考の流れの重要性。1 ブランチ 1 ワード。
- ・他の人に見せるものではないので、下手でもかまわないから、とにかくかいてみる、2 週間続けてみる。
- ・クッシュボールの紹介文をマインドマップにすること。
- ・イメージの作画。
- ・セントラルイメージをバンとかくこと、考えの広がりが見えること、「感覚」が残ったこと。
- ・絵を取り入れて、イメージを単語、キーワードにしてかいていくこと。議事録としても使えること。
- ・思考の視覚化。
- ・ことばを単語に細分化することで、問題の広がりが見えること。
- ・いろいろな場面で使われている多様性。
- ・子どもたちがマインドマップを使って、自分の成長を感じることができるといこと。
- ・マインドマップを作成することは、難しいことではなく、誰にでもできるという点。
- ・プリント1枚からマインドマップをかきおこすことができることに驚いた。
- ・「メインブランチが一番重要」といこと。そこがしっかりしたものでないと、アウトプットの場合、アイデアが貧相になる。
- ・小学生がマインドマップを使っていたこと。
- ・瞬間に移り変わっていく思考を上手に記録していくと、たとえば1 時間の間に思考したことを、後から全体像として見ることが出来る点は大いに参考になった。ひと言で言うなら、「空回りが無くなる」という感覚だろう。
- ・セントラルイメージは価値観を表すような大切なもの。線を引くとき、スムーズに引いたり、絵を描いたり、小さな工夫が行き詰まりを良くしてくれそうなこと。
- ・かいてみたら意外と面白かったこと。
- ・思考を「見える化」する。
- ・最初は全然マップを扱えなかったが、最後は扱えられるようになって、それが楽しかったこと。
- ・個々の絵を2秒でかくのも面白かった。最後のマップは少し絵を入れることができた。
- ・考えの共有化に使えそうところが良かった。
- ・マインドマップが料理を準備する買い物から、教育効果を高めるツールとしても活用できること。活用範囲の幅広さを事例を通して学べた。
- ・週の予定もマインドマップになる点。
- ・用途が思った以上に広いこと。
- ・ボーイング社がマインドマップを使うことによって、整備工の覚える仕事を2年から4ヶ月に減らしたこと。

### 3) 疑問に思ったこと、内容に関する要望。

- ・具体的に作業して作成したものについて、指導・アドバイスがあると良かった。
- ・作業したものを見て、どのようにまとめるか、判断するのが分かりにくかった。まとめ・整理の仕方を知りたかった。
- ・マインドマップはパソコンを使って作成するものだと思っていたので、その点が期待とずれていた。
- ・もう少し演習寄りの講習を期待していた。
- ・もう少し研究にどのように役に立つのかという具体案を聴きたかった。
- ・パソコン上でかく方法をもう少し知りたいと思った。
- ・教育への実践例として挙げられていた参考資料が、小学生や中学生のものだったので、大学生はどうかいて、どう大学教育で活かされるのかを、資料で見てみたかった。
- ・失敗例はないのか。マインドマップ自体の失敗と、それを使った人の問題に関して。
- ・かき直したいときはどうするか、メインブランチが適切かどうか分からない。
- ・論文を読むときに使えるか、書き直しのときはどうするか。

- ・目的に対して、名詞・動詞、実際にかこうとすると、ルールが不確かになる感じを受けた。
- ・枝を分けるときと先に伸ばす時の区別、伸ばす時のイメージ。
- ・ブランチの太さや長さ。
- ・メインブランチの取りかたの定義。
- ・サブブランチの分けかたは慣れるのに少し手間取る。思考が整理できていないと、ブランチは分けられない。
- ・マインドマップを使った読書ノートのかきかた。
- ・自身の具体的な使用法をイメージできなかつた点。
- ・メインブランチの始まりは必ず右側からか、自分でここからと決めても良いか。セントラルイメージによっては、始まりが変わるのではないかとも思った。
- ・メインブランチを作るのが難しい。最初から上手くできないのだろうが、その点が自分にとっては続けられるのか不安要素。メインブランチの事例集などがあると参考になる。
- ・枝を出していくときに言葉の意味の広さが異なると、収まりが悪いと思った。このような言葉の意味の広さや質の違いを分類して、マインドマップを作成していくための近道はあるのか。回数を重ねることが一番の近道になるのか。
- ・人の話や本の内容をまとめるのに、マインドマップを使う利点がどこにあるのか分からなかつた。

#### 4) その他の意見・感想。

- ・1週間のスケジュールはとても役立ちそう。
- ・少し宣伝色が強かつた。
- ・マップを描いていくことで、論理的に思考の整理ができるようになるかな、と思った。
- ・可視化することで可能性が広がると思った。言葉にできない感覚がらせて驚いた。
- ・非常勤先の私大で、ノートの取り方などを教えているが、マインドマップの講義録は「目からうろこ」だった。この自由度の高さは、学部生にも受け入れられると思う。今後、研究にも教育にも活用していきたい。
- ・身内に色覚タイプの異なる人がいる。色世界の豊かさを体験させてあげられなさそうな点が残念。
- ・まずは1日1枚を夏の課題としたい。
- ・「色を分けてかく」という色の効果を感じた。覚えやすく、見やすいマップを作る助けになっていると思う。
- ・かきかたが上達するには、少しトレーニングが必要だと思った。
- ・マインドマップの作品を見ることができ、分かりやすかつた。
- ・マインドマップについて体験的に学ぶことができ、有意義だった。今後の自分の生き方の中で、積極的に使っていきたい。
- ・実際にやってみながら進めていけるように考えられているので、内省できて良かつた。
- ・今後活かせるようにしていきたい。情報を得続けていきたい。折角のチャンスを今後つなげたい。
- ・失語症の方には非常に良いと思った。
- ・メインブランチのセンスがないと効果が薄い気がする。良いメインブランチを見出す力を早く身に付けたい。
- ・とにかく21日間やってみる。
- ・可視化の有効性を改めて認識した。
- ・今日聴いた内容をステップ1だとすると、ステップ2、ステップ3があつたら、ぜひ受講したいと思った。
- ・視覚教材も事例もたいへん分かりやすく、授業プランに使えるなど、たくさんのアイデアを得た。自分の思考方法は箇条書き型だと思っていたが、案外マインドマップのような思考ができるかもしれないと思い、新しい発見となつた。
- ・もう少し交流があるともっと良かつた。
- ・ネガティブインプレッションに対する増幅が出てこないようにするには、本人の資質が問題になるだろう。この手法事態はそれを防ぐ手立てがないので、それが問題と言えれば問題か。
- ・マインドマップはノート術（整理術）、その先の実践例…新しいアイデア事業につながつたなど、そこまで体系化できたらすごい。
- ・概念図をかくときに、思考を整理してかくことができると思った。受講して良かつた。これを使って、ケースメソッド教材と教育主題を書いてみたいと思った。

- ・ 年末年始に書く予定の論文でまずはやってみる。
- ・ 4時間となるとなかなか時間が取れないので、もう少し最初や中休みを短くして、3時間コースにした方が受講しやすいかもしれない。
- ・ 研究者としての使い方、どう仕事へとつなげるのかを、いろいろ試してみたいと思う。
- ・ 頭の中の整理をするのに、何か一定のアルゴリズムがあるわけではないのか。



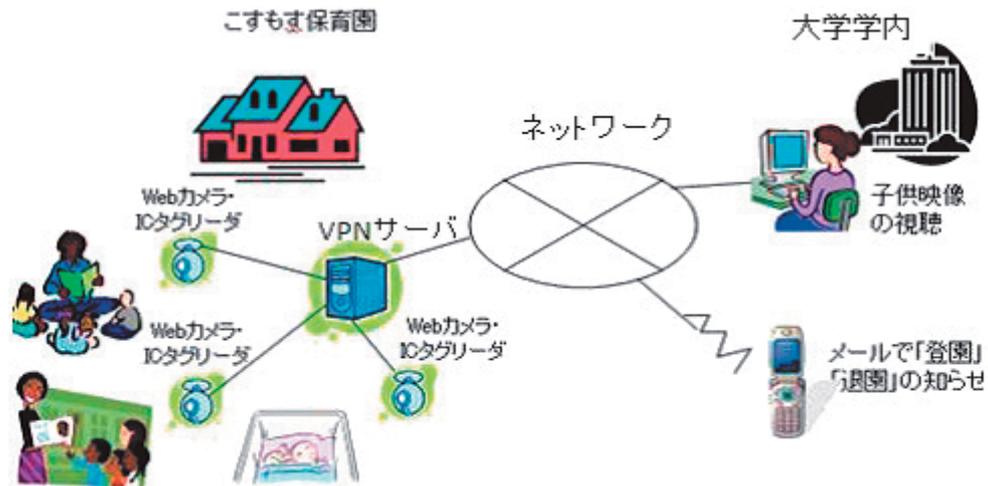
マインドマップ講習会の風景

## IT技術を用いた両立支援

### (1) 両立支援コミュニケーションシステム

#### ●導入目的

こすもす保育園を対象として、インターネットを通じて遠隔保育参観、登降園時刻の自動記録・通知などのサービスを提供し、女性研究者が安心して仕事と子育てを両立できる環境の整備をハードの面からサポートする。



両立支援コミュニケーションシステムのイメージ

#### ●構築・運用上の方針

- ◇名大構成員の子育てと仕事の両立を実質的に支援することを目指す。
- ◇保護者、保育士の意見を取り入れ、より便利・有用なシステムを目指す。
- ◇システムの導入および運営にあたっては、関係者のプライバシーの保護に十分配慮する（システムの稼働は時間・場所を限定し、VPNサーバを用いて学内LANからのみアクセス可能とする）。
- ◇システムの各機能は、利用者によるフィードバックを十分考慮しながら段階的に導入する。また、システムの改善と定着を段階的に図る。

#### ●システムの機能

- ◇入退室記録と自動メールお知らせ：園児の入退園時間を記録すると同時にお知らせメールを自動発信する。それによって、教職員が安心して仕事に打ち込める環境を整える。
- ◇保育参観の遠隔参加：保育参観に行けない多忙な研究者の育児と仕事の両立を支援する。
- ◇ICタグに基づく学内映像視聴機能：特定の園児（例えば、病後児、新入園児）の保育状況を視聴できるように、研究者が安心して仕事ができる環境を整える。
- ◇映像のビデオ提供機能：遠隔保育参観の映像をビデオ作成、提供することにより、親子のコミュニケーションを一層促進する。
- ◇コミュニティ機能：園からのお知らせ、緊急連絡が保護者の皆様に一斉に発信されるほか、保護者と保育士のつながりを促進・サポートし、キャリアアップや両立支援に有用な情報・ノウハウの交換・共有・蓄積を図ることを目的としている。

#### ●2011年度活動報告

システム導入（2008年）、保育園増築に伴う入退室カードの移設（2009年）の後、2011年度まで順調に運用してきた。入退室カードの回収・配布、コミュニティやメーリングリストの管理作業、システムの点検、安全性管理、カスタマイズ開発などを随時行った。

#### ◇入退室記録と自動メールお知らせ

毎日登降園時に、保護者がICカードをかざすことで、時刻を自動的に記録する。同時に登録しておいた保護者の（携帯電話、PCなどの）メールアドレスへ「登園」、「降園」のメールを自動発信する。

活動：新入園児、退園児のカード配布・回収管理。

効果：記録時間の短縮により保育士の労力を大幅に省いた。保育時間に関するトラブルの原因を解消できた。登降園のメール発信により、保護者が園児の登降園状況を把握できるため、両親以外が送り迎えをする保護者からも好評である。

#### ◇保育参観への遠隔参加

保育室、園庭などに設置したWebカメラにより、学内（職場）から園児の保育状況を視聴できる。

活動：毎月1回～2回、遠隔保育参加を実施。

効果：保護者が園児の映像を遠隔的に視聴することにより、園での日常生活を知り、子供とのコミュニケーションを促進することができた。

#### ◇ICタグに基づく学内映像視聴機能（希望者のみ）

保育室、園庭などに設置したICタグ・Webカメラの連動により、学内（職場）から特定の園児（例えば、病後児、新入園児）の保育状況を視聴できる。

活動：利用希望者に対して実施。

効果：ならし保育、病後児保育に対応でき、保護者が安心して子供を預けることができた。

#### ◇映像のビデオ提供機能

遠隔保育参観の映像ビデオやICタグに基づいたダイジェストビデオを作成、提供することにより、親子のコミュニケーションを一層促進する。

活動：遠隔保育参観の映像ビデオの作成、ICタグに基づいたダイジェストビデオ（テスト）を作成・提供した（年間2～3回）。

効果：活動記録の保存により、親子のコミュニケーションを促進した。

#### ◇コミュニティ機能

メーリングリストを利用することで、保育園からのお知らせ、緊急連絡などを保護者へ一斉に配信する。

活動：googleグループ上にある既存のコミュニティ機能（2010年に移設）を継続して運営。保護者のアカウント管理、メールアドレスの管理は随時行った。

効果：紙配布資料より利便性が高く、迅速な連絡が可能等のメリットがあった。加えて、保護者同士、または保護者と保育士間のコミュニケーションを促進することができた。

#### ◇その他

○サイト開設：<http://www.kyodo-sankaku.provost.nagoya-u.ac.jp/jst/it/>

システムの利用マニュアルを作成し、同サイトに公開。

ダウンロード可能な資料：

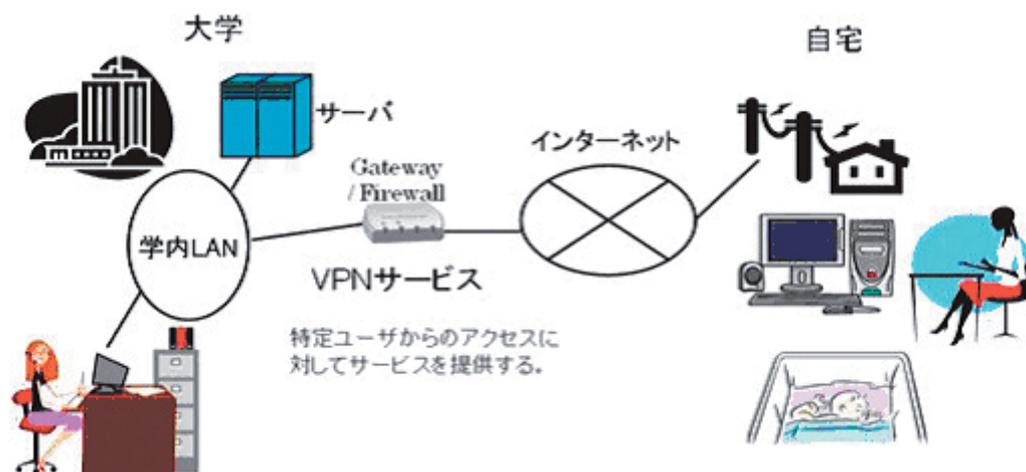
- ・入退室管理システムの利用ガイド：利用方法及び注意点
- ・映像視聴システムの利用ガイド：①公開保育 ②ICタグによる個別園児の遠隔視聴
- ・保育園コミュニティの利用ガイド：利用方法及び注意点

#### (2) 在宅勤務支援システム

##### ●導入目的

インターネットを利用して、職場のネットワーク環境をそのまま自宅まで拡張し、通常職場においてしか利用できないネットワーク・サービス（ファイル共有、職場で契約しているデータベースや実験用ソフトウェア、セキュリティ

ティが確保された電子メールなど) をそのまま自宅でも利用できるようにする。これにより、妊娠中、育児期間中、介護中の女性研究者を支援する。



在宅勤務支援システムのイメージ

#### ●2011年度活動報告

##### ◇利用状況

2007年度導入した在宅勤務支援システムを継続的に運用している。利用者は子育て中の研究者・大学院生などで、2011年度に新たに4名を追加。現在では、24名ほどが利用している。

##### ◇在宅勤務支援システムのサイトで利用マニュアルを公開している。

<http://www.nuws.provost.nagoya-u.ac.jp/jst/zaitaku/>

ダウンロード可能な資料：

- ・利用申請手続き、申請書
- ・WindowsXPユーザの利用説明書
- ・Windows Vistaユーザの利用説明書
- ・Cisco AnyConnect VPN Client の利用説明書

## 第4章

### 2011年度「女性教員増員のための部局アンケート」分析

男女共同参画室 三枝麻由美

本学では、2001（平成13）年度より、男女共同参画に関する部局アンケートを実施している。本年度も12月から1月にかけて、全部局を対象としたアンケートを実施した。本章では、その分析結果を報告する。なお、アンケート用紙は、本章末尾に掲載する。

#### （1）女性教員採用状況

アンケート回答を得た35部局中、2011年度に新規教員採用を行った部局は20あり、そのうち女性教員を採用した部局は10であった。公募および非公募により採用された女性教員の総数は、27名であった。採用総数は153名であることから、新規女性教員の採用比率は17.6%であった。公募人事における女性教員採用比率は14.1%で、非公募人事における女性教員採用比率は20.2%であったことから、公募人事における女性教員採用比率が非公募の割合を下回っていることがわかった。

図表1. 2011年度 女性教員の採用状況

	公 募				非 公 募			
	採用部局数	採用者総数	女性採用部局数	女性採用者数	採用部局数	採用者総数	女性採用部局数	女性採用者数
教 授	9	19	1	1	4	8	2	3
准教授	14	24	4	4	7	21	3	3
講 師	1	1	1	1	6	16	3	4
助 教	9	20	3	3	10	43	4	8
助 手	0	0	0	0	1	1	0	0
合 計		64		9		89		18

#### （2）女性教員目標

2010年までに女性教員比率を20%という目標を10年間延長し、2020年までに20%を超えることを本学の目標としている。男女共同参画室ならびに男女共同参画推進専門委員会では、部局ごとに数値目標を設定し、各部局に数値目標の達成に向けて努力して頂けるよう働きかけを行っている。各部局の数値目標の設定にあたっては、前年度の数値、部局規模（教員数）、流動率（定年数および転出数）、博士後期課程における女子学生比率等の数値をもとに行っている。

アンケート結果からは、部局の女性教員目標数値を「妥当である」と回答した部局は25（71.4%）で、「妥当でない」と回答した部局は9（25.7%）であった。「妥当でない」と回答した理由として、「小規模部局のため人事そのものがほとんどない」、「女性の応募者数が少ないため、採用に至らない」、「すでに高い女性教員比率があるため、これ以上の比率引き上げは賛同できない」などであった。

図表2. 部局の女性教員目標数値（努力目標）（N=35）

妥当である	25
妥当でない	9
無回答	1

### (3) ポジティブ・アクション文言

公募要項にポジティブ・アクション文言（「業績（研究業績、教育業績、社会的貢献、人物を含む）の評価において同等と認められた場合には、女性を積極的に採用します。」）と同趣旨の文言を記載しているかという問いには、25部局が記載しており、5部局が記載しておらず、5部局が無回答であった。無回答の大半は、2011年度に人事がなかった部局であると考えられる。記載していない部局の中には、女性教員比率が比較的高い部局が含まれる。

図表3. 公募要項にポジティブ・アクション文言を記載しているか (N=35)

記載している	25
記載していない	5
無回答	5

ポジティブ・アクション文言記載の効果は、大半の部局が不明としている。

図表4. 図表3で「はい」と答えた部局で、ポジティブ・アクション文言の記載後、公募時に女性の応募は増えたか (N=25)

増えた	2
変わらない	22
減った	0
無回答	1

### (4) 男女共同参画委員会の設置

部局内に、男女共同参画推進のための活動母体があると回答したのは、35部局中8部局（22.9%）であった。2010年度は32部局中9部局に設置があったため、1部局減少したことになる。

図表5. 部局内に男女共同参画委員会を設置しているか (N=35)

はい	8
いいえ	27

部局内に男女共同参画委員会を設置している8部局において、委員会メンバー数は、1人～11人の幅があり、最頻値は5名。2011年度の委員会の開催回数は、0回が4部局、1回が2部局、3回が2部局となっている。

#### 委員会の活動内容

- ・人事選考委員会へのポジティブ・アクション文言の周知（4部局）
- ・新規採用者への保育所・学童保育所の周知（3部局）
- ・新規採用者へのメンター制度の周知（3部局）
- ・教員への「子育て中の教職員を応援するアクション・プラン」の周知（2部局）
- ・その他の男女共同参画を推進するための活動（1部局）→名古屋大学若手女性研究者サイエンスフォーラムの周知、女性日本学術振興会特別研究員のインタビュー記事のNewsletterへの掲載

本学の男女共同参画推進にあたって、男女共同参画室および男女共同参画推進委員会の力には限界があり、さらなる推進を行うためには部局レベルでの活動母体による協力が不可欠であると考え。現状では部局内に男女共同参画委員会を設置している部局は約2割にとどまっており、実際に委員会開催を行った部局数は全体の約1割にしかない。来年度は、部局での男女共同参画に関するニーズ把握や、男女共同参画関連の情報の周知徹底などのために、部局の男女共同参画委員会の代表を集めた全体会議を行いたいと考える。そのため、現状を認識し、部局レベルでの活動母体を設置してもらえるように努力する必要がある。

#### (5) 「子育て中の教職員を応援するアクションプラン」の実施

「子育て中の教職員を応援するアクションプラン」を実施している部局は20で、全体の57.1%であった。昨年は15部局が実施していると回答したため、本年度はプラス5部局となった。このことから同アクション・プランの浸透度は高まっていると言える。一方、実施していない部局の理由として、「該当者がいない」などが挙げられたが、同アクションプランは子育て中の教職員を応援するだけでなく、午後5時以降及び休日の会議開催の原則禁止を推奨しており、全教員のワークライフバランスを向上させる目的を持つため、実施していない部局に対しても、さらなる働きかけが必要であると考えられる。

図表6. 「子育て中の教職員を応援するアクションプラン」の実施 (N=35)

実施している	20
実施していない	14
無回答	1

「アクションプラン」を実施している20部局の具体的な実施内容

- ・午後5時以降及び休日の会議開催の原則禁止（15部局）
- ・部局長は育児休業を取得しやすい環境を整備し、その制度及び支援体制について周知徹底する（12部局）
- ・部局長は2歳に達するまでの子どもを養育する教員については、各部局の事情に応じ適宜判断し、授業担当、委員会業務等を軽減又は免除する（7部局）

#### (6) 教員の育児休業の取得状況

本年度から、本学教員の育児休業の取得状況を尋ねる設問を追加した。2011年度に育児休業を取得した教員がいる部局は7つで、教員数は8名であった。取得した教員8名の全員が女性であった。これまでに本学で育児休業を取得した男性教員は2名であり、本年度の男性教員の育児取得はなかった。

図表7. 2011年度に育児休業を取得状況 (N=35)

育児休業を取得した教員がいる部局数	7
育児休業を取得した教員数	8
女性教員数	8
男性教員数	0

#### (7) 病後時保育の認知度

本学の保育園が病後時保育に取り組んでいることを知っているかという問いも、本年度から追加された。知っているという回答した部局は22で、62.9%であった。本学では、病後児保育についてもワーキンググループを設けてさらなる取り組みに向けて活動を行っており、この活動を後押しするために、認知度のさらなる向上を目指したい。

図表8. 本学の保育園が病後児保育に取り組んでいることを知っているか (N=35)

知っている	22
知らない	12
無回答	1

#### (8) 女性専用スペースおよび子どものおむつ替え・安全シートの設置状況

2011年度に休業や授乳（搾乳）等で女性研究者が利用できる専用スペースを設置した部局は1つで、理学部・理学研究科であった。また、本学では多目的トイレの設置を進めているが、多目的トイレ内に子どものおむつ替え・安全シートが足りているかという設問には、足りているとした部局が10、足りていないは13、無回答は12であった。全学での女性専用スペース、および子どものおむつ替え・安全シートが設置されているトイレの数や場所を示した地図を

作成しているが、この地図の利用普及により一層努めたい。

図表9. 多目的トイレ内に、子どものおむつ替え・安全シートなどは足りているか

足りている	10
足りていない	13
無回答	12

### (9) 女性教員増員のための施策に対する要望

女性教員増員を推進するための施策として、さまざまな要望が挙げられた。以下に、それらを列記する。

- ・部局内でポストを増やすことは、現状では不可能である。そのため、たとえば各部局に雇用期間を短縮したポスト（1年もしくは2年）を配分したほうが、女性教員・研究員比率向上へのはずみをつける上では、現実的な効果があるのではないか。
- ・女性理事を加えて欲しい、執行部等、意思決定機関に女性を加えて欲しい。
- ・各研究科が積極的に女性研究者を採用できるための支援として、女性研究者育成プログラムの実施、女性研究者支援メンター制度の導入、女性優先ポストの設置、女性研究者採用のための相談窓口の開設などを検討して欲しい。
- ・女性教員が産休・育休に入ったときに、学生指導や授業等に支障がでないよう、代替教員を措置したり、研究を継続するための代替研究者を措置する全学的制度の整備をして欲しい。
- ・名大としての「子育て支援のための環境整備の取組」を一覧できるウェブページの作成
- ・「子育て中の教職員を応援するアクションプラン」について、より一層全学への周知徹底を図る。
- ・女性研究者を増やすには、女子学生の割合を上げなければならない、女子学生誘致のための施策を行って欲しい。女子学生が快適に過ごせる各種キャンパス施設（例：スーパーマーケット、マッサージ店など）の設置に加え、特に理系分野における卒業後の人生設計が描けるようにしていく必要がある。
- ・学内保育所および学童保育等への支援を充実して欲しい。
- ・女性教員比率を小規模部局と大規模部局で同様に向上させるのは無理があるため、「女性教員枠」などの施策は全学のプロジェクトとして欲しい。

上記の要望の中で、現在すでに行われている施策として、メンター制度および理系女性研究者育成プログラムの実施が挙げられる。現行制度では、女性研究者育成プログラムは理系研究者のみを対象としており、すべての女性研究者にまで対象を拡大するには、全学におけるさらなる理解にもとづいた資金獲得が必要となる。

上記の要望はすべて貴重な意見として参考にしたいと考えるが、特に以下の点についてコメントを加えたい。

- ・現時点では、本学に女性理事はおらず、執行部などの役員にも女性はいない。要望のように、意思決定機関に女性が加わることは非常に重要であると考えている。
- ・代替教員・研究者制度は、すでに本学も導入されているが、より一層の周知徹底を図りたい。
- ・女子学生誘致のために、毎年、「女子中高生理系進学推進セミナー」を行っており、近隣の女子中高生が毎年100名ぐらい参加するイベントを開催している（第2章第3節参照）。来年度は、さらに規模を拡大し、女子学生誘致に結びつけるような内容にしたいと考えている。

# 2011年度「女性教員増員のための部局アンケート」

研究科等名 ( \_\_\_\_\_ )

## I 女性教員・院生・学生の現況について

別紙「女性教員比率に関する中期目標（全学及び部局）2011年度調査シート」の「2010年度現況（除助教・助手）」「2010年度現況（含助教・助手）」「2010年度女子学生現況」「2010年度女子修士現況」「2010年度女子博士現況」は、いずれも昨年度の部局アンケート時の数字です。

貴部局の本年度（2011年度）の数字を、2010年度の数字の横に赤字でご記入ください。

## II 2020年度までの新規採用予測及び目標数値について

- 1) 貴部局における2020年度までの助教を含む定年退職教員数（予定）は何名ですか。( \_\_\_\_\_ ) 名
- 2) 貴部局における2020年度までの助教を含む転出教員数（予定）は何名ですか。（過去およそ10年間の年間平均転出数を算出し、参考にしてください。ただし、各部局の事情に合わせていただいて結構です）  
( \_\_\_\_\_ ) 名
- 3) 上記1)と2)で算出された合計は何名ですか。( \_\_\_\_\_ ) 名
- 4) 3)の退職・転職の合計数のうち、女性は何名ですか。( \_\_\_\_\_ ) 名
- 5) 2011年度（本年度中の採用予定も含む）の貴部局教員人事の応募者数・採用者数についてお尋ねします。
  - ①【公募人事】における女性の応募者数及び採用者数は何名ですか。

・教授	応募者数（総数	うち女性	）名	採用者数（総数	うち女性	）名
・准教授	応募者数（総数	うち女性	）名	採用者数（総数	うち女性	）名
・講師	応募者数（総数	うち女性	）名	採用者数（総数	うち女性	）名
・助教	応募者数（総数	うち女性	）名	採用者数（総数	うち女性	）名
・助手	応募者数（総数	うち女性	）名	採用者数（総数	うち女性	）名
  - ②【非公募人事】（昇任人事を除く）における採用者数及び女性採用者数は何名ですか。

・教授	採用者数（総数	うち女性	）名
・准教授	採用者数（総数	うち女性	）名
・講師	採用者数（総数	うち女性	）名
・助教	採用者数（総数	うち女性	）名
・助手	採用者数（総数	うち女性	）名
- 6) 今回ご提案した部局の目標比率及び女性教員目標数（別紙資料の黄色の網掛け部分）は、目標として妥当でしょうか。なお、この数値は、あくまで努力目標としてお考えください。  
妥当である ・ 妥当ではない
- 7) 【設問6）で「妥当ではない」とお答えの部局のみ】その理由をご説明ください。

( \_\_\_\_\_ )

## III 女性教員比率向上のための施策について

- 1) 女性教員の積極的採用（ポジティブ・アクション）について  
本学は、公募人事ホームページに、「業績（研究業績、教育業績、社会的貢献、人物を含む）の評価において同



①上記のアクションプランを貴部局で実施していますか。

はい・いいえ

「はい」の場合は、1-3の事項のなかで実施している事項に○をつけてください。

1 2 3

3) 子育て中の教職員をサポートする環境整備について

①2011年度に育児休業を取得した教員はいますか。

はい・いいえ

「はい」の場合は、性別、人数、取得期間をお書きください。例：男性1名、4月1日～6月30日

( )

②本学の保育園が病後児保育に取り組んでいることを知っていますか。

はい・いいえ

③貴部局に休養や授乳（搾乳）等で女性研究者が利用できる専用スペースを2011年度に設置しましたか。

はい・いいえ

「はい」の場合は、設置場所をお書きください。例：○学部○号館○号室

( )

④貴部局の障がい者用などのトイレ内に、子どものおむつ替え・安全シートなどは足りていますか。

足りている・足りていない

「足りていない」場合は、どこに設置を希望しますか。設置希望場所をお書きください。

例：○学部○号館○階トイレ

( )

4) 女性教員増員のための施策に対するご要望

①女性教員を増員するために、全学として実施してほしい具体的な施策の提案がありましたらご記入ください。

( )

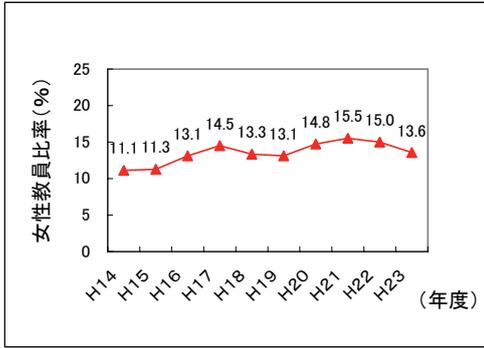
ご協力ありがとうございました。

以上

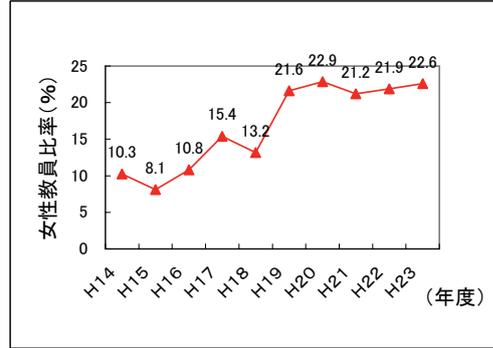
部局別女性教員比率の変遷（部局別）

※女性教員比率：各年5月1日現在の学部教員数における女性教員数の比率（助教、助手を含む）

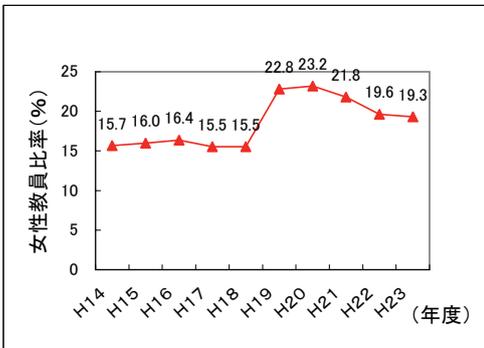
①文学部・文学研究科



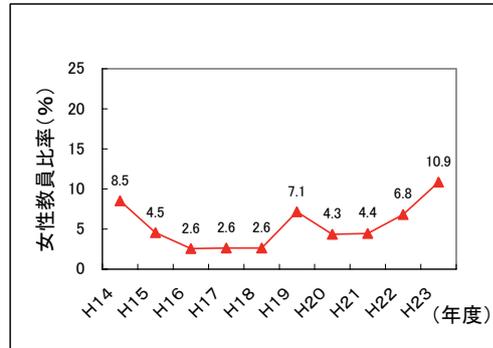
②教育学部・教育発達科



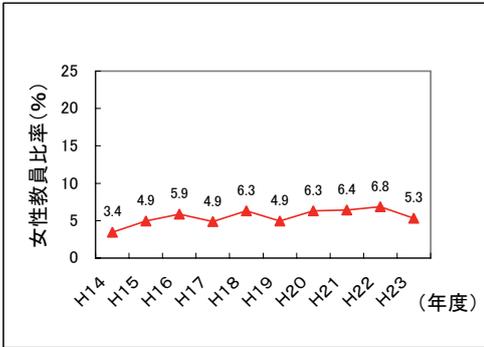
③法学部・法学研究科



④経済学部・経済学研究科

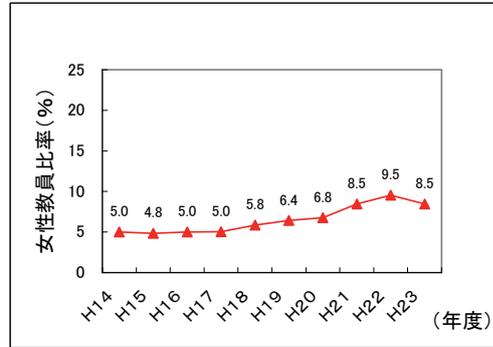


⑤情報文化学部・情報科学研究科

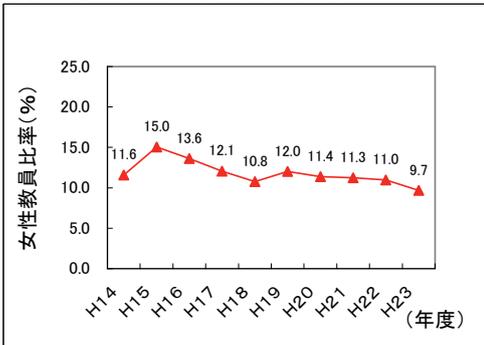


(H14情報文化学部、H15以降情報科学研究科)

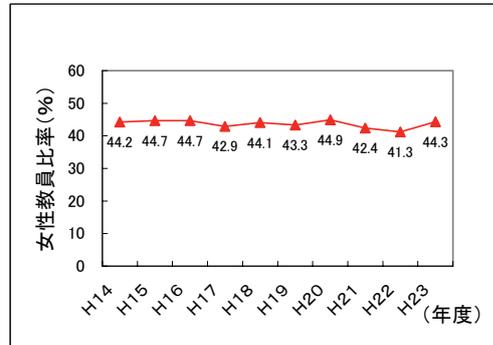
⑥理学部・理学研究科



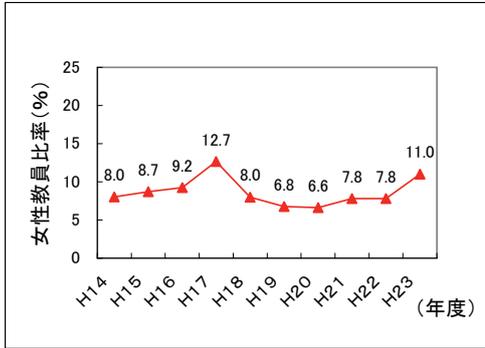
⑦医学部・医学系研究科



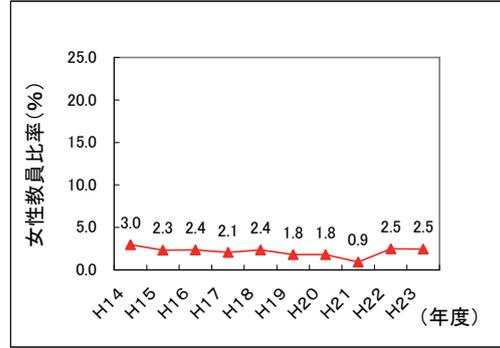
⑧医学部（保健学科）



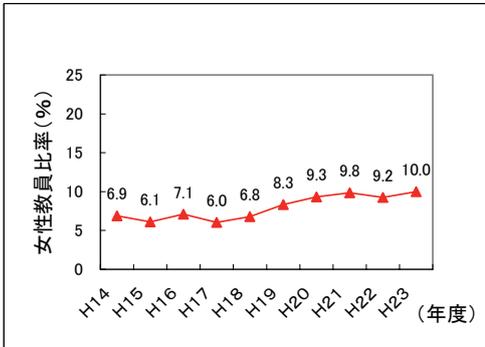
⑨医学部附属病院



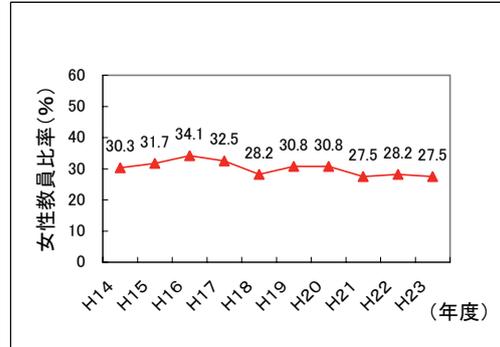
⑩工学部・工学研究科



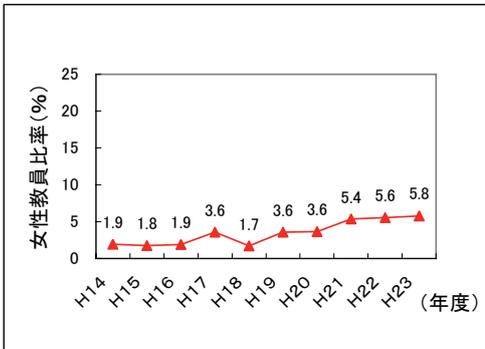
⑪農学部・生命農学研究科



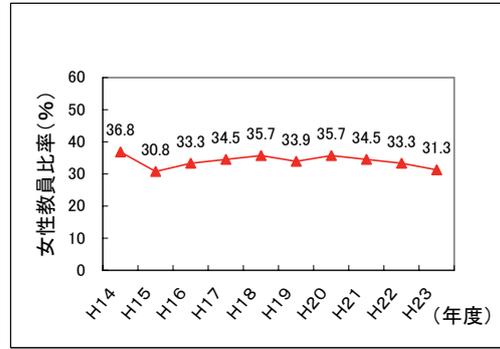
⑫大学院国際開発研究科



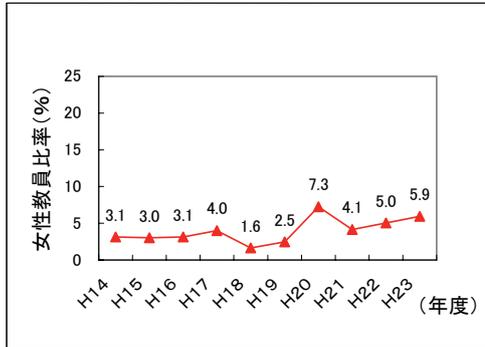
⑬大学院多元数理科学研究科



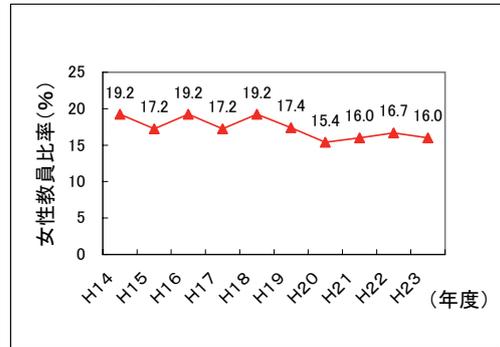
⑭大学院国際言語文化研究科



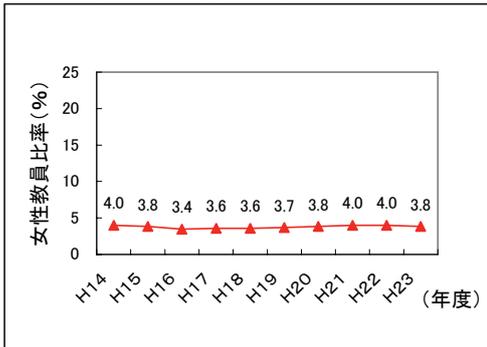
⑮大学院環境学研究科



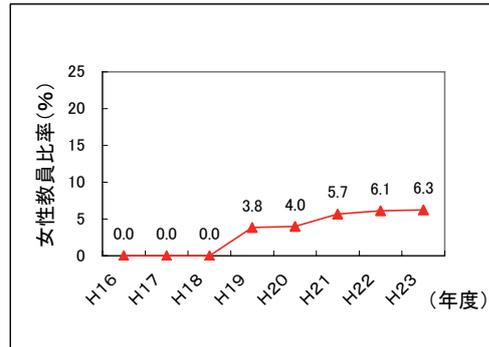
⑯環境医学研究所



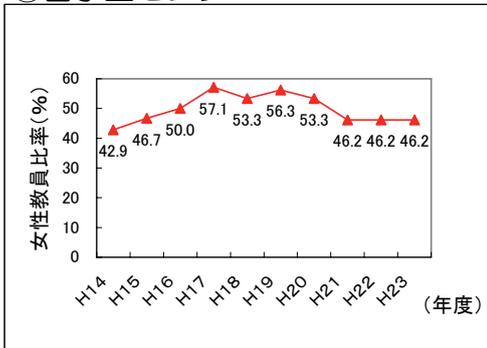
⑰太陽地球環境研究所



⑱エコトピア科学研究所



⑲留学生センター



## 第5章 統計資料

### 名古屋大学教職員の現状

平成23年5月1日現在

#### 本給表別在職状況

		計	男性	女性	女性比率	女性比率 (H22. 5. 1現在)
		人	人	人	%	%
教育職(一)	教員	1,721	1,518	203	11.8	11.6
	教務職員	2	1	1	50.0	50.0
教育職(二) 教諭等		39	24	15	38.5	39.5
一般職(一)	一般職員	643	374	269	41.8	38.6
	技術職員	210	175	35	16.7	17.6
一般職(二) 技能・労務職員		6	3	3	50.0	50.0
医療職(一) 薬剤師等		248	117	131	52.8	53.1
医療職(二) 看護職員		945	52	893	94.5	95.1
合計		3,814	2,264	1,550	40.6	39.6

注1) 教育職(一) に指定職を含む。

注2) 臨時的採用職員を除く(ただし、休職者、育児休業者を含む)。

注3) 役員6名を除く。

#### 教育職(一) 教員の在職状況内訳

	計	男性	女性	女性比率	女性比率 (H22. 5. 1現在)
	人	人	人	%	%
教授	661	623	38	5.7	5.8
准教授	509	433	76	14.9	15.1
講師	110	98	12	10.9	8.1
小計	1,280	1,154	126	9.8	9.8
助教	432	361	71	16.4	15.8
助手	9	3	6	66.7	66.7
計	1,721	1,518	203	11.8	11.6

#### 教育職(二) 教諭等の在職状況内訳

	計	男性	女性	女性比率	女性比率 (H22. 5. 1現在)
	人	人	人	%	%
教頭	2	1	1	50.0	50.0
教諭	35	23	12	34.3	35.3
養護教諭	2	0	2	100.0	100.0
計	39	24	15	38.5	39.5

# 教員の部局別女性比率

## 教員の部局別女性比率

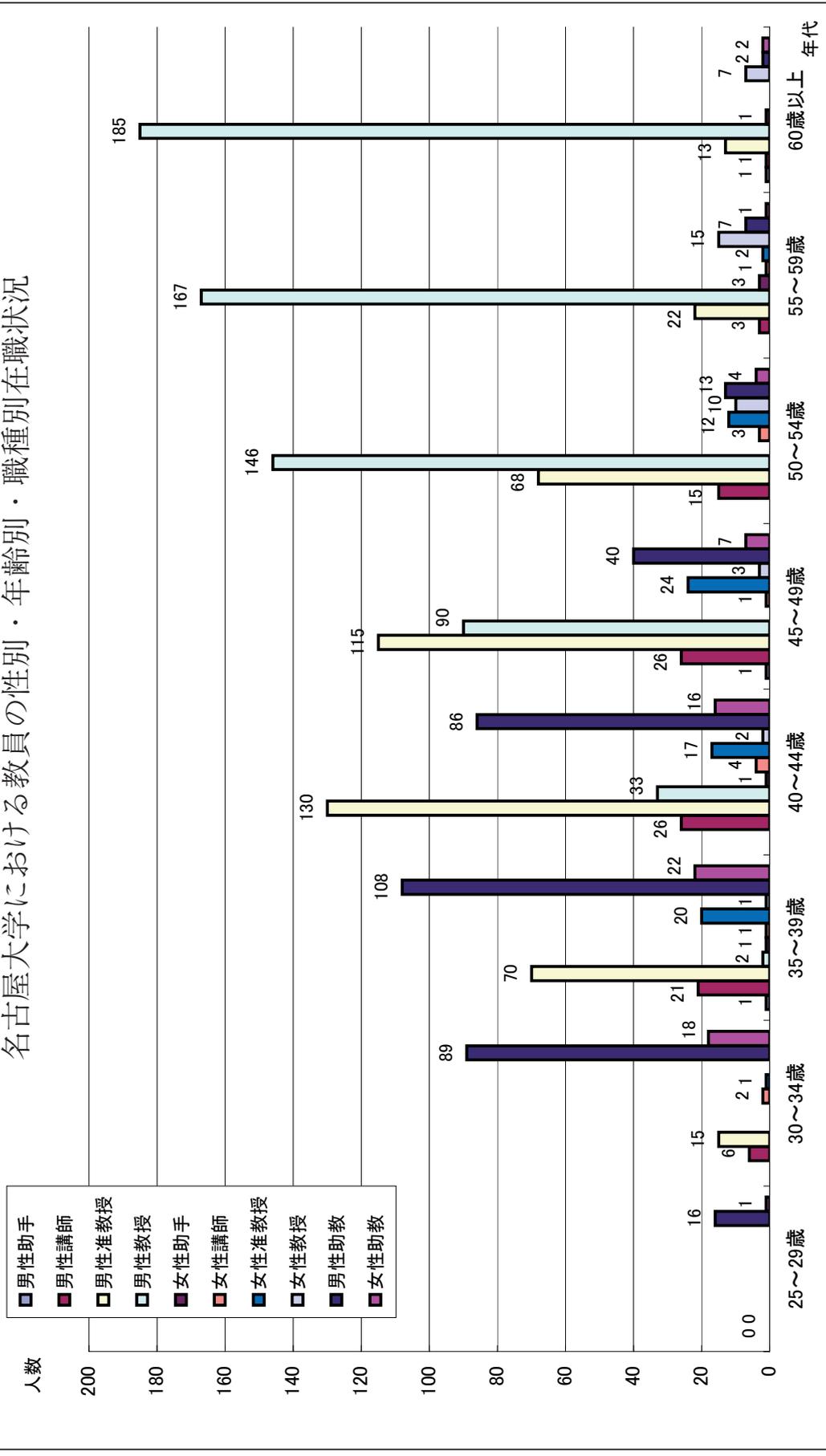
平成23年5月1日現在

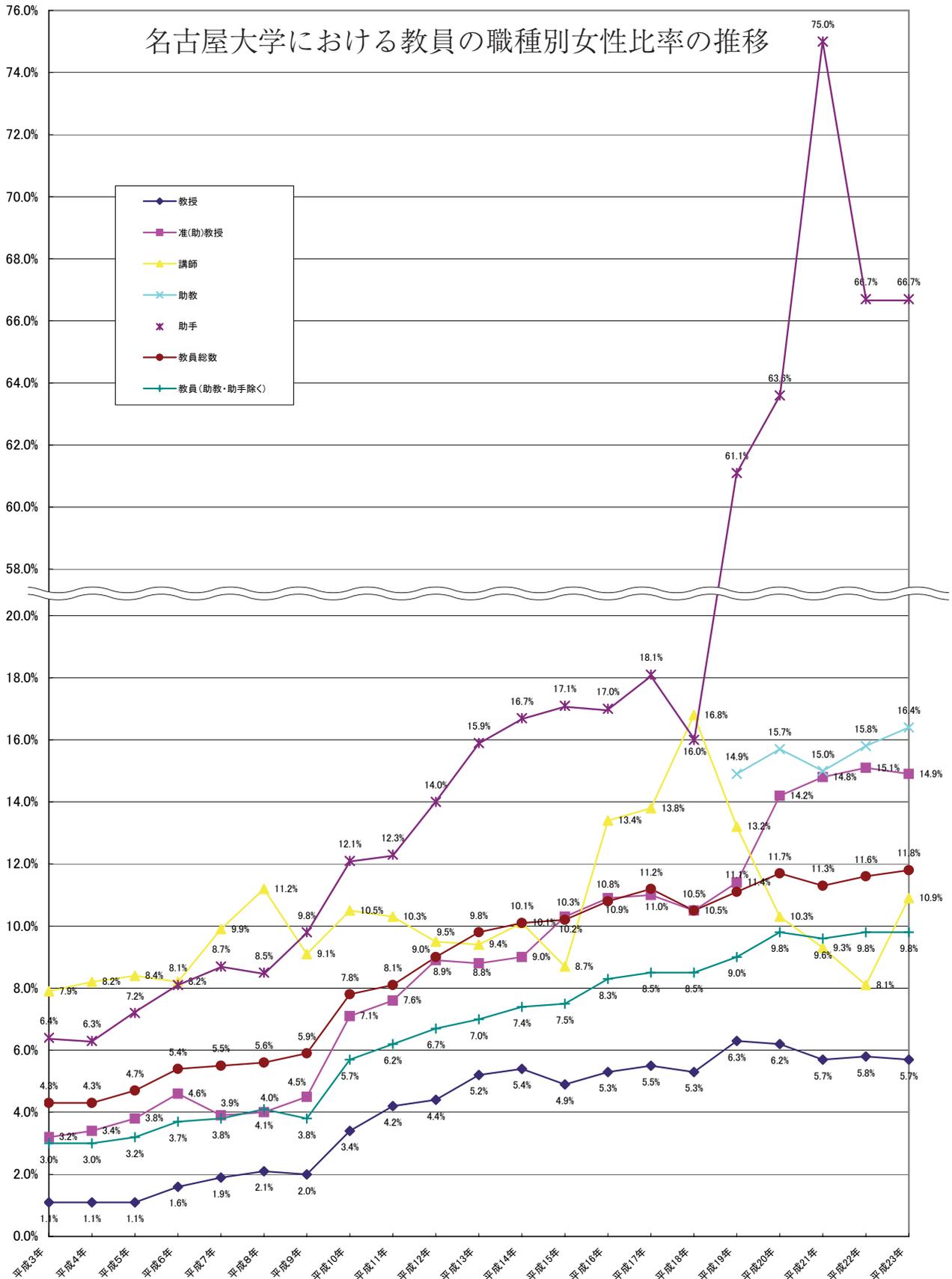
※ 朱書斜体は女性で内数である。

	教授		准教授		講師		助教		助手		計	女性比率		22.5.1現在	
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人		%	%	%	
教養教育院	1		2	<i>1</i>	2		2				7	<i>1</i>	14.3	<i>20.0</i>	0.0
文学部・文学研究科	33	<i>2</i>	18	<i>4</i>	1	<i>1</i>	7	<i>1</i>			59	<i>8</i>	13.6	<i>13.5</i>	13.2
教育学部・教育発達科学研究科	20	<i>2</i>	9	<i>4</i>			2	<i>1</i>			31	<i>7</i>	22.6	<i>20.7</i>	23.3
法学部・法学研究科	37	<i>5</i>	15	<i>2</i>	2	<i>2</i>	1		2	<i>2</i>	57	<i>11</i>	19.3	<i>16.7</i>	16.7
経済学部・経済学研究科	25		18	<i>3</i>	1		2	<i>2</i>			46	<i>5</i>	10.9	<i>6.8</i>	4.9
理学部・理学研究科	45	<i>1</i>	34	<i>1</i>	5	<i>1</i>	42	<i>5</i>	4	<i>3</i>	130	<i>11</i>	8.5	<i>3.6</i>	4.9
医学部・医学系研究科	50	<i>3</i>	51	<i>3</i>	10	<i>1</i>	42	<i>8</i>	2		155	<i>15</i>	9.7	<i>6.3</i>	6.3
医学部（保健学科）	39	<i>11</i>	17	<i>9</i>	3	<i>1</i>	29	<i>18</i>			88	<i>39</i>	44.3	<i>35.6</i>	34.5
医学部附属病院	3		8	<i>1</i>	48	<i>2</i>	68	<i>11</i>			127	<i>14</i>	11.0	<i>5.1</i>	3.6
工学部・工学研究科	115		83	<i>2</i>	27	<i>1</i>	100	<i>5</i>			325	<i>8</i>	2.5	<i>1.3</i>	0.9
農学部・生命農学研究科	46	<i>1</i>	39	<i>4</i>	1		34	<i>7</i>			120	<i>12</i>	10.0	<i>5.8</i>	6.0
総合保健体育科学センター	10	<i>1</i>	7	<i>1</i>			1				18	<i>2</i>	11.1	<i>11.8</i>	11.8
大学院国際開発研究科	19	<i>4</i>	14	<i>6</i>	2	<i>1</i>	5				40	<i>11</i>	27.5	<i>31.4</i>	32.4
大学院多元数理科学研究科	22		22	<i>2</i>			7		1	<i>1</i>	52	<i>3</i>	5.8	<i>4.5</i>	4.3
大学院国際言語文化研究科	25	<i>2</i>	21	<i>13</i>			2				48	<i>15</i>	31.3	<i>32.6</i>	32.6
大学院環境学研究科	52	<i>1</i>	46	<i>3</i>	3	<i>1</i>	17	<i>2</i>			118	<i>7</i>	5.9	<i>5.0</i>	4.0
大学院情報科学研究科	36	<i>1</i>	25	<i>2</i>			14	<i>1</i>			75	<i>4</i>	5.3	<i>4.9</i>	5.1
環境医学研究所	7		5				13	<i>4</i>			25	<i>4</i>	16.0	<i>0.0</i>	7.7
太陽地球環境研究所	10		8	<i>1</i>			8				26	<i>1</i>	3.8	<i>5.6</i>	6.3
エコトピア科学研究所	19	<i>1</i>	18	<i>2</i>	1		10				48	<i>3</i>	6.3	<i>7.9</i>	7.7
附属図書館											0	<i>0</i>	0.0	<i>0.0</i>	0.0
地球水循環研究センター	4		4				3				11	<i>0</i>	0.0	<i>0.0</i>	0.0
情報基盤センター	4		3				3	<i>1</i>			10	<i>1</i>	10.0	<i>0.0</i>	0.0
アイトソープ総合センター	1		1		2						4	<i>0</i>	0.0	<i>0.0</i>	0.0
遺伝子実験施設	2		1				2				5	<i>0</i>	0.0	<i>0.0</i>	0.0
留学生センター	5	<i>2</i>	7	<i>4</i>	1						13	<i>6</i>	46.2	<i>46.2</i>	46.2
物質科学国際研究センター	4		2				8				14	<i>0</i>	0.0	<i>0.0</i>	0.0
高等教育研究センター	1		2				1	<i>1</i>			4	<i>1</i>	25.0	<i>0.0</i>	0.0
農学国際教育協力研究センター	2		2	<i>1</i>							4	<i>1</i>	25.0	<i>25.0</i>	25.0
年代測定総合研究センター	2		2	<i>1</i>			1				5	<i>1</i>	20.0	<i>25.0</i>	25.0
博物館	2		3	<i>1</i>			2	<i>1</i>			7	<i>2</i>	28.6	<i>20.0</i>	25.0
発達心理精神科学教育研究センター	3	<i>1</i>	3	<i>1</i>			1	<i>1</i>			7	<i>3</i>	42.9	<i>33.3</i>	50.0
法政国際教育協力研究センター	1		2	<i>1</i>							3	<i>1</i>	33.3	<i>33.3</i>	33.3
生物機能開発利用研究センター	6		6	<i>2</i>			1				13	<i>2</i>	15.4	<i>16.7</i>	16.7
シンクロトン光研究センター	1						1				2	<i>0</i>	0.0	<i>0.0</i>	0.0
基礎理論研究センター	1		3				2	<i>1</i>			6	<i>1</i>	16.7	<i>0.0</i>	0.0
現象解析研究センター	1		3								4	<i>0</i>	0.0	<i>0.0</i>	0.0
その他	7		5	<i>1</i>	1	<i>1</i>	1	<i>1</i>			14	<i>3</i>	21.4	<i>15.4</i>	9.1
合計	661	<i>38</i>	509	<i>76</i>	110	<i>12</i>	432	<i>71</i>	9	<i>6</i>	1721	<i>203</i>	11.8	<i>9.8</i>	9.8
女性比率	5.7%		14.9%		10.9%		16.4%		66.7%				11.8	<i>9.8</i>	9.8

平成23年5月1日現在（年齢は年度末現在）

名古屋大学における教員の性別・年齢別・職種別在職状況





※平成19年度より、助教は准教授に、助手は助教に名称が変わりました。なお、助手身分が継続している者も在職しています。

## 一般職（一）職員の在職状況内訳

平成23年5月1日現在

### 1) 事務系職員

	計	男 性	女 性	女性比率	女性比率 (H22. 5. 1現在)
	人	人	人	%	%
課長（事務長） 以上	62	56	6	9.7	11.3
課長補佐・専門員	48	43	5	10.4	12.2
掛長・専門職員	173	125	48	27.7	25.3
主 任	138	59	79	57.2	53.2
その他の一般職員	171	74	97	56.7	55.8
計	592	357	235	39.7	38.0

\* 図書系職員及び施設系職員の課長以上・課長補佐を含む。

### 2) 図書系職員

	計	男 性	女 性	女性比率	女性比率 (H22. 5. 1現在)
	人	人	人	%	%
専門員	4	1	3	75.0	0.0
掛 長	17	12	5	29.4	29.4
その他の一般職員	30	4	26	86.7	90.0
計	51	17	34	66.7	66.7

### 3) 施設系職員

	計	男 性	女 性	女性比率	女性比率 (H22. 5. 1現在)
	人	人	人	%	%
課長補佐	4	4	0	0.0	0.0
掛長・専門職員	18	18	0	0.0	0.0
主 任	11	7	4	36.4	37.5
その他の一般職員	10	7	3	30.0	21.4
計	43	36	7	16.3	14.6

### 4) 技術職員

	計	男 性	女 性	女性比率	女性比率 (H22. 5. 1現在)
	人	人	人	%	%
技術専門員	24	24	0	0.0	4.2
技術専門職員	105	90	15	14.3	12.0
技術職員	38	25	13	34.2	37.0
計	167	139	28	16.8	17.6

事務系職員採用状況（平成11年度～23年度）

平成23年12月1日現在

年度	Ⅱ種（行政）				Ⅲ種（行政事務）				計			
	計	男性	女性	女性比率(%)	計	男性	女性	女性比率(%)	計	男性	女性	女性比率(%)
11年度	11	5	6	54.5	4	2	2	50.0	15	7	8	53.3
12年度	9	6	3	33.3	7	7	0	0.0	16	13	3	18.8
13年度	19	10	9	47.4	6	5	1	16.7	25	15	10	40.0
14年度	21	14	7	33.3	0	0	0	0.0	21	14	7	33.3
15年度	30	17	13	43.3	0	0	0	0.0	30	17	13	43.3
16年度	6	3	3	50.0	0	0	0	0.0	6	3	3	50.0
計	96	55	41	42.7	17	14	3	17.6	113	69	44	38.9

年度	国立大学法人等職員採用試験								計			
	計	男性	女性	女性比率(%)					計	男性	女性	女性比率(%)
16年度	12	8	4	33.3	0	0	0		12	8	4	33.3
17年度	24	14	10	41.7	0	0	0		24	14	10	41.7
18年度	4	3	1	25.0	0	0	0		4	3	1	25.0
19年度	23	7	16	69.6	0	0	0		23	7	16	69.6
20年度	6	4	2	33.3	0	0	0		6	4	2	33.3
21年度	12	7	5	41.7	0	0	0		12	7	5	41.7
22年度	19	6	13	68.4	0	0	0		19	6	13	68.4
23年度	26	14	12	46.2	0	0	0		26	14	12	46.2
計	126	63	63	50.0	0	0	0		126	63	63	50.0

# 一般職（一）職員の性別・年齢別・職種別在職状況

平成23年5月1日現在（年齢は年度末現在）

## 事務系職員

	掛長以上(*)				主任・一般職員				計			
	計	男性	女性	女性比率	計	男性	女性	女性比率	計	男性	女性	女性比率
50歳～60歳	人 142	人 117	人 25	% 17.6	人 34	人 9	人 25	% 73.5	人 176	人 126	人 50	% 28.4
40歳～49歳	98	74	24	24.5	41	13	28	68.3	139	87	52	37.4
30歳～39歳	43	33	10	23.3	162	84	78	48.1	205	117	88	42.9
18歳～29歳	0	0	0	0.0	72	27	45	62.5	72	27	45	62.5
計	283	224	59	20.8	309	133	176	57.0	592	357	235	39.7

\*掛長以上には、図書系・施設系の部課長・補佐を含む

## 図書系職員

	掛長以上(*)				一般図書系職員				計			
	計	男性	女性	女性比率	計	男性	女性	女性比率	計	男性	女性	女性比率
50歳～60歳	人 10	人 7	人 3	% 30.0	人 3	人 0	人 3	% 100.0	人 13	人 7	人 6	% 46.2
40歳～49歳	10	5	5	50.0	2	0	2	100.0	12	5	7	58.3
30歳～39歳	1	1	0	0.0	17	3	14	82.4	18	4	14	77.8
18歳～29歳	0	0	0	0.0	8	1	7	87.5	8	1	7	87.5
計	21	13	8	38.1	30	4	26	86.7	51	17	34	66.7

\*掛長以上とは、図書館専門員と掛長である。（部課長・補佐は事務系職員を含む。）

## 施設系職員

	掛長以上(*)				主任・施設系職員				計			
	計	男性	女性	女性比率	計	男性	女性	女性比率	計	男性	女性	女性比率
50歳～60歳	人 6	人 6	人 0	% 0.0	人 1	人 1	人 0	% 0.0	人 7	人 7	人 0	% 0.0
40歳～49歳	12	12	0	0.0	1	0	1	0.0	13	12	1	7.7
30歳～39歳	4	4	0	0.0	14	10	4	28.6	18	14	4	22.2
18歳～29歳	0	0	0	0.0	5	3	2	40.0	5	3	2	40.0
計	22	22	0	0.0	21	14	7	33.3	43	36	7	16.3

\*掛長以上とは、専門員と掛長である。（部課長・補佐は事務系職員を含む。）

## 技術職員

	技術専門職員以上(*)				技術職員				計			
	計	男性	女性	女性比率	計	男性	女性	女性比率	計	男性	女性	女性比率
50歳～60歳	人 60	人 59	人 1	% 1.7	人 0	人 0	人 0	% 0.0	人 60	人 59	人 1	% 1.7
40歳～49歳	46	37	9	19.6	2	0	2	100.0	48	37	11	22.9
30歳～39歳	23	18	5	21.7	23	15	8	34.8	46	33	13	28.3
18歳～29歳	0	0	0	0.0	13	10	3	23.1	13	10	3	23.1
計	129	114	15	11.6	38	25	13	34.2	167	139	28	16.8

\*技術専門職員以上とは、技術専門員と技術専門職員である。

## 医療系職員の在職状況内訳

平成23年5月1日現在

### 医療職（一）薬剤師等

	計	男 性	女 性	女性比率	女性比率 (H22. 5. 1現在)
	人	人	人	%	%
薬剤主任以上	14	9	5	35.7	28.6
薬剤師	58	16	42	72.4	75.0
小計	72	25	47	65.3	65.2
主任診療放射線技師以上	15	14	1	6.7	6.7
診療放射線技師	39	25	14	35.9	38.9
小計	54	39	15	27.8	29.4
主任臨床検査技師以上	16	11	5	31.3	25.0
臨床検査技師等	46	11	35	76.1	75.6
小計	62	22	40	64.5	61.4
栄養管理部副部長以上	1	1	0	0.0	0.0
栄養士	6	1	5	83.3	83.3
小計	7	2	5	71.4	71.4
その他	53	29	24	45.3	48.9
計	248	117	131	52.8	53.1

### 医療職（二）看護職員

	計	男 性	女 性	女性比率	女性比率 (H22. 5. 1現在)
	人	人	人	%	%
副看護師長以上	126	4	122	96.8	97.6
看護師等	819	48	771	94.1	94.7
計	945	52	893	94.5	95.1

## 医療系職員の性別・年齢別・職種別在職状況

平成23年5月1日現在

### 薬剤師等

	役付職員(*)				その他(**)				計			
	計	男性	女性	女性比率	計	男性	女性	女性比率	計	男性	女性	女性比率
	人	人	人	%	人	人	人	%	人	人	人	%
50歳～60歳	23	18	5	21.7	6	4	2	33.3	29	22	7	24.1
40歳～49歳	20	16	4	20.0	20	7	13	65.0	40	23	17	42.5
30歳～39歳	3	1	2	66.7	76	28	48	63.2	79	29	50	63.3
18歳～29歳	0	0	0	0.0	100	43	57	57.0	100	43	57	57.0
計	46	35	11	23.9	202	82	120	59.4	248	117	131	52.8

\* 役付職員とは、医療技術部長、薬剤部長、副薬剤部長、薬剤主任、診療放射線技師長、副診療放射線技師長、主任診療放射線技師、臨床検査技師長、副臨床検査技師長、主任臨床検査技師、栄養管理部副部長等のことである。

\*\*その他とは、薬剤師、診療放射線技師、臨床（衛生）検査技師、栄養士等である。

### 看護職員

	副看護師長以上(*)				看護師等				計			
	計	男性	女性	女性比率	計	男性	女性	女性比率	計	男性	女性	女性比率
	人	人	人	%	人	人	人	%	人	人	人	%
50歳～60歳	43	2	41	95.3	21	2	19	90.5	64	4	60	93.8
40歳～49歳	55	1	54	98.2	51	0	51	100.0	106	1	105	99.1
30歳～39歳	28	1	27	96.4	182	13	169	92.9	210	14	196	93.3
18歳～29歳	0	0	0	0.0	565	33	532	94.2	565	33	532	94.2
計	126	4	122	96.8	819	48	771	94.1	945	52	893	94.5

\* 副看護師長以上とは、看護部長、副看護部長、看護師長及び副看護師長のことである。

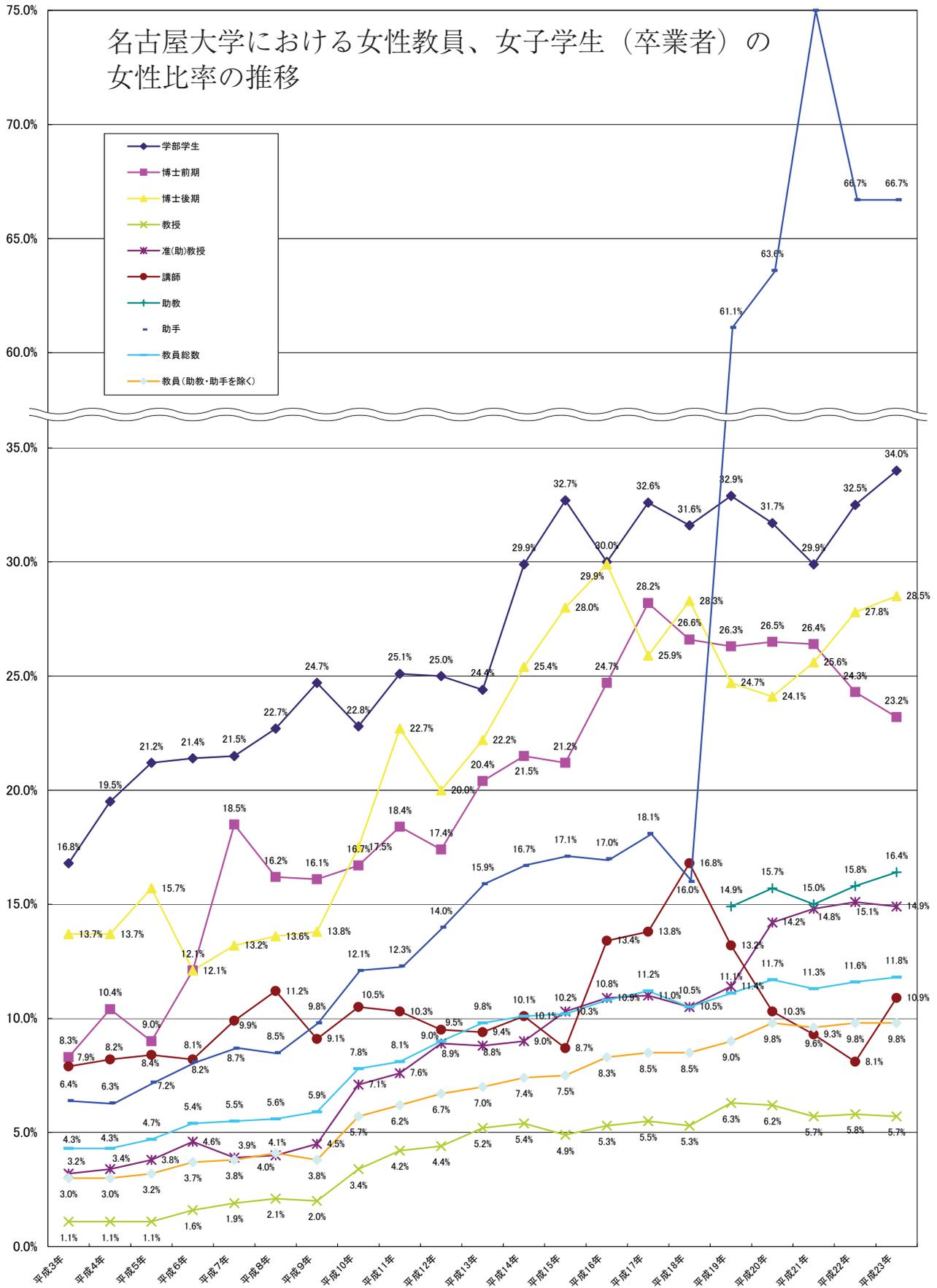
# 名古屋大学における任期付正職員、非常勤研究員等の部局別・職種別・職種別女性比率

平成23年5月1日現在  
 非常勤研究員等は女性での数である。

	任期付正職員	任期付正職員 女性比率	政府補助金に よる研究員 (一般)	COE研究員	COE教授・ 准教授等 (研究員除く)	寄附講座教員・ 寄附研究員等 教員等	受託(共同)研 究による研究員	研究機関研究員	中核的研究機関 研究員	その他	非常勤研究員等計	非常勤 研究員等 女性比率
	人	%	人	人	人	人	人	人	人	人	人	%
総務部総務課										2		
総務部人事課												
総務部職員課												
研究協力部社会連携課												
学部学生総合支援課	11	18.2	6	1			1				7	14.3
産学官連携推進本部	18	27.8	1								1	0.0
社会貢献人材育成本部	16	10	1									
国際交流協力推進本部	3	0.0										
情報連携統括本部	2	0.0										
施設計画推進室	1	0.0										
災害対策室	5	1										
教養教育院	18	0.0					1				1	0.0
高等研究院	3	1	1	5	1						2	100.0
文学部・文学研究科	16	9	3	1			1			3	4	25.0
教育学部・教育発達科学研究科	2	0.0	17	6				1		1	4	50.0
経済学部・経済学研究科	50	12	8	4	1		5	3		1	25	56.0
理学部・理学研究科	91	20	22	1			6	6		7	30	56.7
医学部・医学系研究科	90	15	4	1			3			2	16	0.0
医学部附属病院	35	4	12	3			11	7		6	29	37.9
工学部・工学研究科	11	1										
農学部・生命農学研究科	2	1	1									
大学院国際開発研究科	26	10	3	2	5		8	1		1	13	30.8
大学院多元数理科学研究科	23	1	1				7	1		1	9	11.1
大学院農学研究科	2	1	1				2	1		1	4	25.0
大学院情報科学研究科	7	2	1				2	2		2	2	100.0
環境医学研究所	8	3	1				2	1		2	11	45.5
太極地球環境研究所	1	1									1	100.0
エロトピア科学研究所	1	0.0								2	2	100.0
附属図書館	2	0.0										
総合保健体育科学センター	2	0.0								2	2	100.0
素粒子宇宙起源研究機構	10	3	1				1			1	3	33.3
地球水循環研究センター	1											
情報基盤センター	1											
アイソトープ総合センター	1											
遺伝子実験施設	1											
留学生センター	1											
物質科学国際研究センター	1											
高等教育研究センター												
農学国際教育協力センター	4	3										
年代測定総合研究センター	13	7	1				1				4	75.0
発達心理精神科学教育研究センター	2									1	1	0.0
生物機能開発利用研究センター												
小型シンクロトロン光研究センター	476	112	65	20	7	7	54	15	20	10	197	36.0
合計	23.5	23.5	30.8	21.9	50.0	85.7	0.0	50.0	0.0	26.1	36.0	
女性比率												

女性比率

### 名古屋大学における女性教員、女子学生（卒業生）の女性比率の推移



# 名古屋大学における女性教員、女子学生の部局別比率

平成23年5月1日現在

部局名	教員			大学院後期課程・博士課程			大学院前期課程・修士課程			学部学生			教員の女性比率を1とした場合の学生の課程別女性比率の比							
	合計数	男性数	女性数	女性比率(%)	合計数	男性数	女性数	女性比率(%)	合計数	男性数	女性数	女性比率(%)	合計数	男性数	女性数	女性比率(%)	教員	博士後期	博士前期	学部
文学部・文学研究科	59	51	8	13.6	159	73	86	54.1	127	50	77	60.6	600	218	382	63.7	1.0	4.0	4.5	4.7
教育学部・教育発達科学研究科	31	24	7	22.6	126	58	68	54.0	109	31	78	71.6	326	97	229	70.2	1.0	2.4	3.2	3.1
法学部・法学研究科	57	46	11	19.3	64	35	29	45.3	85	56	29	34.1	691	445	246	35.6	1.0	2.3	1.8	1.8
経済学部・経済学研究科	46	41	5	10.9	57	35	22	38.6	104	57	47	45.2	935	611	324	34.7	1.0	3.6	4.2	3.2
情報化学部													343	227	116	33.8				
理学部・理学研究科	130	119	11	8.5	187	148	39	20.9	395	312	83	21.0	1,202	959	243	20.2	1.0	2.5	2.5	2.4
医学部・医学系研究科	155	140	15	9.7	663	466	197	29.7	43	25	18	41.9	642	514	128	19.9	1.0	3.1	4.3	2.1
医学部（保健学科）	88	49	39	44.3	64	22	42	65.6	124	53	71	57.3	883	238	645	73.0	1.0	1.5	1.3	1.6
工学部・工学研究科	325	317	8	2.5	335	299	36	10.7	1,300	1,190	110	8.5	3,389	3,075	314	9.3	1.0	4.4	3.4	3.8
農学部・生命農学研究科	120	108	12	10.0	100	71	29	29.0	352	194	158	44.9	747	407	340	45.5	1.0	2.9	4.5	4.6
大学院国際開発研究科	40	29	11	27.5	132	69	63	47.7	152	68	84	55.3					1.0	1.7	2.0	
大学院人間情報学研究科					0				1		1	100.0								
大学院多元数理科学研究科	52	49	3	5.8	55	50	5	9.1	121	118	3	2.5					1.0	1.6	0.4	
大学院国際言語文化研究科	48	33	15	31.3	93	18	75	80.6	118	20	98	83.1					1.0	2.6	2.7	
大学院環境学研究科	118	111	7	5.9	195	128	67	34.4	336	236	100	29.8					1.0	5.8	5.0	
大学院情報科学研究科	75	71	4	5.3	107	84	23	21.5	270	246	24	8.9					1.0	4.0	1.7	
その他	377	330	47	12.5																
合計	1,721	1,518	203	11.8	2,337	1,556	781	33.4	3,853	2,782	1,071	27.8	9,758	6,791	2,967	30.4	1.0	2.8	2.4	2.6

\* 法学部・法学研究科の下段は専門職学位課程の数である。

# 名古屋大学における入学志願者・入学者の女性比率

平成23年4月1日現在

	学部学生						大学院前期課程・修士課程						大学院後期課程・博士課程											
	志願者数			入学者数			志願者数			入学者数			志願者数			入学者数								
	計	男性	女性	女性比率	計	男性	女性	女性比率	計	男性	女性	女性比率	計	男性	女性	女性比率	計	男性	女性	女性比率				
文学部・文学研究科	391	151	240	61.4	139	49	90	64.7	116	47	69	59.5	50	18	32	64.0	44	24	20	45.5	28	16	12	42.9
教育学部・教育発達科学研究科	204	80	124	60.8	76	25	51	67.1	113	33	80	70.8	48	13	35	72.9	46	14	32	69.6	26	9	17	65.4
法学部・法学研究科	451	281	170	37.7	162	105	57	35.2	55	34	21	38.2	28	19	9	32.1	12	7	5	41.7	7	4	3	42.9
					415	307	108	26.0	84	60	24	28.6												
経済学部・経済学研究科	699	499	200	28.6	220	159	61	27.7	97	58	39	40.2	42	23	19	45.2	20	13	7	35.0	15	8	7	46.7
情報文化学部	286	173	113	39.5	82	56	26	31.7																
理学部・理学研究科	765	589	176	23.0	297	239	58	19.5	326	265	61	18.7	193	154	39	20.2	45	40	5	11.1	42	38	4	9.5
医学部・医学系研究科	387	281	106	27.4	107	79	28	26.2	38	25	13	34.2	19	12	7	36.8	165	116	49	29.7	154	108	46	29.9
医学部(保健学科)	610	170	440	72.1	209	58	151	72.2	62	27	35	56.5	55	24	31	56.4	18	8	10	55.6	16	6	10	62.5
工学部・工学研究科	2,297	2,065	232	10.1	818	736	82	10.0	911	826	85	9.3	643	586	57	8.9	76	71	5	6.6	67	62	5	7.5
農学部・生命農学研究科	568	301	267	47.0	183	94	89	48.6	268	156	112	41.8	167	88	79	47.3	20	15	5	25.0	18	13	5	27.8
国際開発研究科									151	68	83	55.0	65	29	36	55.4	35	17	18	51.4	21	12	9	42.9
多元数理科学研究科									121	114	7	5.8	63	62	1	1.6	32	31	1	3.1	22	21	1	4.5
国際言語文化研究科									131	23	108	82.4	51	7	44	86.3	34	7	27	79.4	17	1	16	94.1
環境学研究科									274	184	90	32.8	150	99	51	34.0	48	34	14	29.2	36	27	9	25.0
情報科学研究科									232	204	28	12.1	132	115	17	12.9	21	16	5	23.8	19	14	5	26.3
合計	6,658	4,590	2,068	31.1	2,293	1,600	693	30.2	3,310	2,371	939	28.4	1,790	1,309	481	26.9	616	413	203	33.0	488	339	149	30.5

\* 法学部・法学研究科の下段は専門職学位課程の数である。



## 2011年度名古屋大学男女共同参画推進体制

### 男女共同参画推進委員会（委員長 総長）

#### 男女共同参画推進専門委員会

委員長	藤井 良一	公正研究・施設設備・環境安全・人権関係担当理事
	東村 博子	男女共同参画室長・生命農学研究科准教授
	永田 雅子	発達心理精神科学教育研究センター准教授
	古川 忠稔	環境学研究科准教授
	西山 久雄	工学研究科教授
	坂部 俊樹	情報科学研究科教授
	堀内 敦	総務部長
	那須 民江	医学系研究科教授
	松下 正	医学部附属病院輸血部教授
	山内 章	生命農学研究科教授
	田中 京子	留学生センター准教授
	戸本 誠	理学研究科准教授
	浅野みどり	医学部保健学科教授
	榊原 千鶴	男女共同参画室准教授（オブザーバー）
	大河内美奈	男女共同参画室員・工学研究科准教授（オブザーバー）
	中川弥智子	男女共同参画室員・生命農学研究科准教授（オブザーバー）
	加藤ジェーン	男女共同参画室員・情報科学研究科准教授（オブザーバー）
	吉田 朋子	男女共同参画室員・エコトピア科学研究所准教授（オブザーバー）
	中井 俊樹	男女共同参画室員・高等教育研究センター准教授（オブザーバー）
	三枝麻由美	男女共同参画室助教（オブザーバー）

#### 男女共同参画推進専門委員会ワーキンググループ

- ・ 育児支援策検討ワーキンググループ  
永田雅子（主査）、那須民江、松下正、田中京子、東村博子、大河内美奈、加藤ジェーン、榊原千鶴
- ・ 女子学生支援策検討ワーキンググループ  
坂部俊樹（主査）、古川忠稔、戸本誠、中川弥智子、吉田朋子
- ・ 学部学生向けジェンダー関連授業検討ワーキンググループ  
新井美佐子国際言語文化研究科准教授（主査）、金井篤子教育発達科学研究科教授、榊原千鶴、三枝麻由美
- ・ 女性研究者増員策検討ワーキンググループ  
西山久雄（主査）、小田洋一理学研究科教授、山内章、岩渕万里理学研究科講師、東村博子、大河内美奈、中川弥智子、加藤ジェーン、吉田朋子、中井俊樹、三枝麻由美
- ・ 病児保育検討ワーキンググループ  
浅野みどり（主査）、那須民江、松下正、玉腰浩司医学部保健学科教授、佐々木成江理学研究科准教授、永田雅子、伊藤嘉規医学部附属病院小児科講師、加藤太一医学部附属病院小児科講師、山本弘江医学部保健学科助教、榊原千鶴
- ・ メンター検討ワーキンググループ  
中井俊樹（主査）、大河内美奈、榊原千鶴

#### 男女共同参画室

東村博子（室長）、榊原千鶴、大河内美奈、中川弥智子、加藤ジェーン、吉田朋子、中井俊樹、三枝麻由美

#### 名古屋大学こすもす保育園運営協議会

永田雅子（議長）、東村博子、大河内美奈、加藤ジェーン、田中京子、太幡英亮工学研究科助教、加藤太一、大矢淳一総務部職員課長、園田正経済学研究科准教授、林誠司環境学研究科講師、上田（石原）奈津実理学研究科助教、榊原千鶴（オブザーバー）、三枝麻由美（オブザーバー）、伊藤友香こすもす保育園主任保育士（オブザーバー）

#### 名古屋大学あすなろ保育園運営協議会

那須民江（議長）、榊原千鶴、天野睦紀医学系研究科准教授、梅津朋和医学系研究科助教、松下正、姫野美都枝医学部附属病院副看護部長、吉田茂医学部附属病院メディカルITセンター准教授、加藤太一、桜井雅憲医学部・医学系研究科総務課人事労務グループ主幹

#### 名古屋大学学童保育所検討委員会

東村博子（委員長）、榊原千鶴、中井俊樹、石川クラウドディア留学生センター准教授、小松尚環境学研究科准教授、大矢淳一、布目寛幸総合保健体育科学センター准教授、佐々木成江、森滋夫名古屋大学名誉教授（オブザーバー）、加藤恵子学童保育所主任指導員（オブザーバー）、高橋奈弓学童保育所指導員（オブザーバー）、倭剛久保護者会会長・理学研究科准教授（オブザーバー）、三枝麻由美（オブザーバー）

#### 事務担当

総務部職員課 大矢淳一、鈴木雅之、新宮陽子、青柴さよ子、早川絢子、王彧、石川友哉

### 名古屋大学における男女共同参画報告書（2011年度）

2012年3月発行

編集：名古屋大学男女共同参画推進専門委員会  
名古屋大学男女共同参画室

(<http://www.kyodo-sankaku.provost.nagoya-u.ac.jp/>)

TEL & FAX 052-789-5987

発行：名古屋大学総務部職員課

464-8601 名古屋市千種区不老町

TEL 052-789-3939 FAX 052-789-5981



Nagoya University

The Office

for Gender Equality